

こどもエコクラブくしろのみなさんへ
師範から一言！

まず大きく目につくのが、1年間の活動を円で記した年間活動報告です。これを見て、「年間を通じてなんて多彩な活動をしたクラブなのだろうか！」とおどろきました。そうした多彩な活動を、ここまで見やすく、そしておしやれに自らの活動を示すことができるというのは、大変すばらしいことです。

多くの人に活動を知ってもらい、賛同と支援を得るためには、こうした「デザイン性」と「わかりやすさ」がとても大きな要因になっているからです。全体的な色使いやフォントの使い分けもすばらしく、グラフすらデザインに取り入れていますね。これまで多くの壁新聞に取り組み、経験と意見と工夫を積み重ねてきた成果だと思います。

また、国立公園の記念シンポジウムの記事も、とてもいいですね。単にシンポジウムの内容を説明するだけでなく、重要なポイントは押さえながら、自分たちの考えや体験をもとに、多くの共感呼びかけられたと思います。他の記事も、専門家や活動家との交流と自分たちの興味と視点を上手く組み合わせ、読ませる記事になっていますね。より深く視点を掘り下げること、共感を集めることができたと思います。



とっておきのゴシドウ★

壁新聞に書かれた活動やその成果も、とてもすばらしい内容でした。

今回掲載した「未来につなぐ国立公園」でも、未来を担うみなさんが活動に参加しているので、とても大きな意味を持ったのだと思います。特に釧路湿原は、国内外の人も注目するフィールドです。多くの方がみなさんの活動に注目したと思います。そこで、みなさんが、今の環境や社会についてどう考えているか、どういう未来を描きたいか、そのためにどんな活動を行いたいのか、そんなくこれから未来を担うこどもたちの視点や想い>を、より主体的に発信・交流してみたいかがでしょうか？かつて、君たちと同じ年頃で、世界に感銘を与えた「リオの伝説のスピーチ」のことはご存知でしょうか？12歳の少女、セヴァン・スズキが、環境サミットで想いを世界に伝えたスピーチです。こどもたちの未来を願う想いは、社会を動かす力になることがあります。みなさんの想いや活動も、きっと多くの人に届いて、未来につながっていくと思います。

青森県青森市 おおぼし保育園エコフレンド

壁新聞のタイトル:おおぼし保育園エコフレンド ①児童クラブ版 ②幼児クラブ版

02-03(推薦)、幼児 02-04

おおぼし保育園エコフレンド①の新聞を書してくれたみなさんへ
師範から一言！

ゴミのことをべんきょうするのはだいじです。おうちでもしらべてくださいね。どんなものがゴミなのか？どうしたらゴミがへるのかを、おとなもみんなでかんがえないとちきゅうがゴミだらけになりそうです。みんなもまたべんきょうしたり、ぶんべつしてつかえるものをゴミにしないでください。ペットボトルのふたが、ワクチンになるあおもりけんはすばらしいですね。これからがんばってください。リサイクルもすすむでしょう。もともと、もっとゴミをへらすこともあるとおもいます。みんなでせんせいといっしょにかんがえて、またかべしんぶんでおしえてください。

とっておきのゴシドウ★

ちびっこ広場でやさいをつくっているのですね。おせわはたいへんですか？どんなやさいが、とれましたか？おじさんもキュウリやトマト、レタスなどのやさいをつくったり、レモンやブドウのくだものをつくっています。じぶんでみずやりをしたり、そだてたものはたべたらおいしいですね。どうしておいしいかわかるかな？またかんがえてみてください。かべしんぶんで、ぜんこくの人みなにおしえてくださいね。ベルマークをあつめたり、ゴミのことをべんきょうしたりがんばってますね。おみせでうっているものには、いろいろなマークがついています。ベルマークもあるけれどもいろいろなマークがあるのでまたみてください。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★

エコフレンドで取り組まれていることは、普段の生活に密着しているばかりでとても大切な視点で進められていると思います。野菜を育てることも、関わる範囲や内容でもっともっと発展するし、育てたものを味わうこともなかなかできないことなので頑張ってください。ゴミ問題もとても重要です。大人も含めてもっともっと考えて行かないと解決できない問題が山積しています。プラスチックゴミによる海洋汚染も簡単には解決できません。壁新聞もわかりやすくぜひ、みんなで取り組んでいることをこれからも壁新聞にまとめてほしいと思います。壁新聞は全国の方が見えていますので、楽しい活動、大事な滑動の一つとしてモデルになると思います。これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

青森県青森市 おおぼし保育園エコフレンド

壁新聞のタイトル: おおぼし保育園エコフレンド ①児童クラブ版 ②幼児クラブ版

おおぼし保育園エコフレンド②の新聞を書してくれたみなさんへ
師範から一言！

ひまわりのおせわはうまくできましたか？ みずやりもむずかしいですよ。やりすぎてもいけないし、たらなかったらかれることもあります。タネがとれて、ふくしまにおくれてよかったですね。みんながそだてたひまわりのタネがまたどこかのまちではなをさかせてまたタネができればいいですね。

エコークんとクイズをしたり、スイカのしゅうかくをしたり、ペットボトルのキャップをクリスマスツリーをつくったりいろいろたのしかつどうをしていますね。

みんなでせんせいといっしょにかんがえて、またかべしんぶんでおしえてください。

とっておきのゴシドウ★

ゴミひろいはどうでしたか？ たくさんひろってきれいになりましたか？ ゴミがおちているのは、ごみをすてるひとがいるからです。どんなゴミがあったかもよくみて、どこからきたのかなあとかんがえてみてください。

みんなはおおきくなくてもゴミをポイってすてないでくださいよ。

ゴミをひろうのはむずかしいことをみんなにおしえてあげてくださいね。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★

エコフレンドで取り組まれていることは、普段の生活に密着しているばかりでとても大切な視点で進められていると思います。植物を育てることも、関わる範囲や内容でもっともっと発展するし、収穫したスイカもみんなで食べたのでしょうか。育てたものを味わうこともなかなかできないことなので頑張ってください。ゴミ問題もとても重要です。大人も含めてもっともっと考えて行かないと解決できない問題が山積しています。プラスチックゴミによる海洋汚染も簡単には解決できません。

壁新聞もわかりやすくできています。ぜひ、みんなで取り組んでいることをこれからも壁新聞にまとめてほしいと思います。

壁新聞は全国の方が見えていますので、楽しい活動、大事な活動の一つとしてモデルになると思います。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

青森県弘前市 HEP21 エコクラブ

壁新聞のタイトル: わたしたちとたんぶり池の仲間たち

02-01

HEP21 エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

1年間、いろいろな活動をされましたね。すばらしいです！

なによりも、雨を268も集めて調査し、まとめられたのはとてもすばらしく、おどろきました。たくさんの測定とデータまとめは大変だったことと思います。弘前では、大陸からの風の影響で冬に酸性雨(雪)が多いのかしら？と思って、データを興味深く見させてもらいました。

こどもエコクラブのつながりで大阪の雨との比較もできたのもとてもステキです。

そればかりでなく、水質調査や、エコキャンプ、エコクッキングなど、様々な活動いっぱい、その楽しさが壁新聞で伝わってきました。

苦勞して何度も書き直したという題字も堂々と目立ち、そのまわりの動植物の仲間たちも細かいところまで観察して描かれていたり、色もたくさん使い本当にすばらしい壁新聞です。

大切にしているたんぶり池には、多くの水せい生物ばかりでなく、ホタルもいっぱい観察できたようで、うらやましいです。ホタルがいっぱい飛ぶようすはさぞ幻想的な空間だったことと思います、みなさんでぜひその環境を大切にしていってください。



とっておきのゴシドウ★

長年のサポーターさんたちのサポートによって、素敵な体験を重ねている子どもたちが育っているようで、本当にすばらしいと感じます。

水質調査は、上下流、支流とでデータを測定、比較し、経年変化と合わせてみることで、測定地の特性や傾向が明らかになっているようですね。お堀の水は30年前のデータも示して、子どもたちが考察できていることはすばらしく、言うことありません。すでに、地域内や全国的な活動に何度も参加したり、発表されたりしていることと思います。このすばらしい活動を、子どもたちの声でさらに地域内や全国に発信し、仲間を増やすことや、多くの地域でも活動の輪がさらに広がるよう他の活動団体の模範となることを期待させていただきます。

下長中エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
リサイクルについて調べたことや学校で行われていることが丁寧に書かれていると思います。
八戸市のリサイクル率は、ずっと全国平均よりも低いですね。リサイクルできる資源ごみの種類は、他の市町村と比べて少ないのでしょうか？一人ひとりのリサイクルへの意識の問題だけではないかもしれませんので、そういったところも調べてみると面白いと思います。
アンケートを取って見たのは良い活動ですね。結果をグラフにしてみるのもいいと思います。リサイクル工作のような、少し違った視点の記事があって、コラムのように気楽に読める部分に思いました。

とっておきのゴシドウ★
リサイクル率を上げると、どんな良い点がありますか？基礎的な話になりますが、活動の目的を壁新聞にも書くと、読む人の関心ももっと高まるのではないかと思います。また、リサイクル率をあげるために、みなさんがいろいろ取り組みをしていると思います。その取り組んでみた感想を書くと、読む人の共感も得られると思います。
壁新聞全体では、縦書きと横書きの部分があるのですが、少し読みにくく感じました。縦書きの字と横書きの字の大きさや行間を変えてみると見やすくなるかもしれません。色々試してみましよう。



緑と太陽の保育園 グリーン・キッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
ゴミひろいはどうでしたか？たくさんひろってきれいになりましたか？
ゴミがおちているのはごみをすてるひとがいるからですよ。
グリーンキッズのすごいのは、ゴミのことやゴミをへらすことをしっかりエコまるくんとべんきょうしたのがえらいとおもいます。おとなのひとでもむずかしいとおもいます。
おさんぽのときにいつもゴミのことをしらべたり、ひろうことはだいじなことだし、みんながいやがることなのにつづけることはえらいとおもいます。みんなでせんせいといっしょにがんばって、ごみのことやエコのことをべんきょうして、またかべしんぶんでおしえてください。

とっておきのゴシドウ★
おじさんも かわ のごみひろいをつづけています。かわ のゴミはへってきました。ゴミをすてるひとがへってきたのです。
みんなはおおきくなくてもゴミをポイってすてないでくださいよ。
ゴミをひろうのはむずかしいことをみんなにおしえてあげてくださいね。
ゴミがへったらまちがきりになるだけではなくて、かわ や うみもきれいになります。
かわ や うみがきれいになったら、かわ や うみで、いきている いきもの たちもげんきになるしふえるのです。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★
普段の散歩のときにゴミ拾いをするということは続けるのはとても難しいと思います。
普段の生活に密着していますが続ける大変さはやった人でないとわかりません。
そして継続すると、みなさんが散歩の時にゴミ拾いをしていることがまちの中で知られてきてゴミを捨てる人がきつと減ってくると思います。ゴミ箱にちゃんと捨てる人も増えてくると思います。
大人も含めてもっともって考えて行かないと解決できない問題が山積しています。
プラスチックゴミによる海洋汚染も簡単には解決できません。壁新聞もわかりやすくできています。
ぜひ、みんなで取り組んでいることをこれからも壁新聞にまとめてほしいと思います。壁新聞は全国の方が見ているので、楽しい活動、大事な滑動の一つとしてモデルになると思います。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

青森県十和田市 緑と太陽の保育園グリーン・キッズ
壁新聞のタイトル:①ぼくらのエコマップ ②グリーン・キッズ ミニ

緑と太陽の保育園 グリーン・キッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

グリーンカーテンはうまくいってよかったね。ゴーヤもアサガオもおおきくなったのですね。
たいふうがきておじさんのところではやさいもたくさんかれたりうまくそだちませんでした。
みずやりもやりすぎてもよくないむずかしいです。はながさいたらみつばちやちょうちょうがきて
ないですか？たくさんのいきものがあつまっているかもしれないので、こんどはみんなでさがして
みてください。
またグリーンキッズのかべしんぶんでにほんじゅうのこどもエコクラブのおともだちにもおしえて
ほしいです。みんなでせんせいといっしょにかんがえて、もったいないことやエコのことをしらべ
て、またかべしんぶんでおしえてください。

とっておきのゴシンドウ★

エコマルくんクイズはむずかしいね。みんなはぜんもんせいかいできたかな？
はいひんをつかっていろいろこうさくしていることをしておじさんもびっくりしてかんしんしました。ものをだいじにしていますね。
すいどうのみずもとてもたいせつにしているのでかんしんしました。おうちでもみんなにおしえてあげてくださいね。
おとなのひとでもちゃんとできていないひとがおおいとおもいます。

サポーターへのとっておきのゴシンドウ★

廃品利用の工作を年間を通じて進められているのに感心しました。もったいないことを実践しながら学べる面白いし効果的なア
クティビティだと思います。普段の生活に密着していますから家でも工夫できることも多いと思います。
大人も含めてもっともって考えて行かないと解決できない問題が山積しています。壁新聞もわかりやすくできています。
ぜひ、みんなで取り組んでいることをこれからも壁新聞にまとめてほしいと思います。
壁新聞は全国の方が見えていますので、楽しい活動、大事な滑動の一つとしてモデルになるとと思います。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



宮城県仙台市 泉ヶ丘エコクラブ
壁新聞のタイトル:泉ヶ丘エコクラブ新聞

04-01

泉ヶ丘エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

一年間の活動の様子が、とても丁寧に書かれていますね。一つひとつの活動
に、タイトル、活動日、内容や写真があり、読みやすくてわかりやすいと思いま
した。5年生がリーダーとなって、低学年の子もしっかりと壁新聞作りに参加で
きた様子もわかります。ぜひこれからも続けて下さいね。
公園でのごみ拾いは、暑い中がんばりましたね。一番多かったごみは「タバコ
の吸い殻」だったとのこと。私は他のクラブの壁新聞や活動レポートも読ませ
てもらっていて、ごみ拾いの記事を読むのですが、他の地域でも吸い殻のご
みは多いです。ぜひ他のクラブの壁新聞なども読んでみて下さい。
ベジブ罗斯は、最近名前を聞きますね。とてもきれいな色ですが、これは玉ね
ぎの皮を少し入れているからかな？野菜くずとお酒、少々塩でおいしい出
汁が取れるのは驚きですね。地域の方々に紹介してみて、反応はどうで
したか？次はベジブ罗斯を使ってどんな料理を作るか、挑戦してみましょう。

とっておきのゴシンドウ★

一人ひとりが、活動したことや思ったことを自分の言葉でしっかり書いていま
すね。うれしかったことや大変だったこと、といった「思ったこと」「感じたこと」を
書いてあると、読む人もみなさんの活動がイメージしやすくなります。これから
も続けていきましょう。
また「エコな暮らし方」で自分ができることを、読む人にも呼び掛けているのもと
ても良いと思います。ここに書いてあることを、クラブでも続けていきましょう。



秋田県秋田市 イオンマックスバリュ東北秋田チアーズクラブ
壁新聞のタイトル:ごみを考える

05-02

イオンマックスバリュ東北秋田チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

しっかり構成を考えて作られた壁新聞で、とても目を引きまします。「どんなことが書いてあるのかな」と興味がわいて、じっくり読むことができました。「調べる」「動く」「考える」と活動したことを分類しているのも面白いです。知識を増やすことと、実際に体験することのバランスがよくとれた一年間の活動だったと感じました。

「ごみ」とは何か？この世に最初からごみだったものはありませんね。そのため、物は「ごみになる」という表現が合っているのかなと私は思います。ごみになるか、資源になるかは私たちの取り組み方、考え次第なのかもしれませんね。この壁新聞を読んだ人たちも、ごみについていろいろと考えるきっかけになるとと思います。



とっておきのゴシンドウ★

「ごみを考える」で質問や会話の形式が使われていて、読みやすいアイデアだと思いました。これはクラブ内での会話ということでしょうか？少し説明があるともっと良いと思います。

ごみを減らすために、いろいろなことを考えましたね。すでに実行していることも多いと思いますので、やってみた感想も書けるといいと思います。ごみが減ったことが実感できると、やる気につながると思います。壁新聞を見た人も「やってみよう」と思えるようになるといいですね。

秋田県秋田市 ひろおもてエコクラブ
壁新聞のタイトル:ひろおもてエコクラブ1年間の活動！！

05-01

ひろおもてエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

低学年の子から高学年の子まで、全員で活動・壁新聞作りに参加したことがよくわかります。書ける内容に差はあっても、みなさんが活動して感じたことを自分の言葉で書くことはとても大切なことです。ぜひ他のクラブも参考にしてほしい壁新聞の作り方だと私は思います。

一昨年度の壁新聞で活動した日付や場所を書こう、とゴシンドウさせてもらったのですが、それを取り入れてくれていて、うれしく思います。いろいろな場所で、一年通じて活動していることがわかりやすくなりました。クリーンアップ＆自然観察は、3回も行ったのですね。雨の日も行ったとのことで、がんばりましたね。仁別の溪流の自然は去年と変わらずに守られているようですね。これからもずっとそんな自然が残っていくといいなとみなさんの文章を読んで思いました。

とっておきのゴシンドウ★

集合写真がありますが、学年関係なく、仲良く協力して活動している様子が伝わります。サポーターさんも含めて、これからも力を合わせて活動していってほしいと思います。秋田県で環境活動をしている団体さんの中でも、活動が認められているクラブだと思うので、自信をもって活動を続けていきましょう。クリーンアップの活動で感じたこと、例えばビニールのごみは捨てないでほしい、といったことを、クラブ以外の人に伝えていく方法も考えていけると活動の幅がもっと広がると思います。



湖南エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

壁(かべ)新聞紙面では新聞名を上段(じょうだん)中央に書いて、三つの記事の見出しをそれぞれ記事の先頭におくオーソドックスなレイアウトを採用(さいよう)しています。しかし、この三つの記事が次第に発表会へつながっていくところにこの新聞の面白さがあります。まず、猪苗代湖の南にある鬼沼の魚類調査(ちょうさ)で外来種(りくがいしゅ)のオオクチバスとブルーギルを見つけたことです。

次いで猪苗代湖の水質(すいしつ)調査をしています。一番鬼沼に近い青松浜(しょうせうはま)における水質(すいしつ)がよくないことがわかりました。さらに志田浜(したはま)のCOD(化学酸素消費量)の変化をみせて水質(すいしつ)が少しずつ悪くなっていることを見つけています。それから水質悪化(すいしつあくか)の原因(げんいん)を考えています。生活排水(はいすい)の流入、浄化設備(じょうかせつび)の不足、腐敗(ふはい)したヨシによる水質悪化(すいしつあくか)なども考えていますね。この「考える」ということはとても大切なことです。

いろいろな壁新聞を見る機会がありますが、考えることを書いている壁新聞はあまりないので価値(かち)がありますよ。

最後にきれいな猪苗代湖をとりもどすために、青松浜(しょうせうはま)のゴミ拾い、汚れた水を減らす工夫(くふう)をしたり、油を川に流さない、などはすぐにでもできることで、このような活動を猪苗代湖子ども交流会で発表(はつぷつ)していこうとしているのはすばらしい気づきです。



とっておきのゴンドウ★

調査(ちょうさ)、検討(けんとう)、提言(ていげん)という順番に壁新聞が構成(こうせい)されていて、とてもわかりやすい新聞になりました。でも、原稿(げんこう)用紙に文字をかけたために、単調な紙面となりましたね。こんな時に使うのは色文字、色帯(いろおび)などです。見出し文字も色文字にして、中くらいの大きさの文字を使うなどの工夫(くふう)が欲(ほ)しいですね。

ちょっと残念なのは、調査(ちょうさ)でつかまえた水生生物(すいせいぶつ)の写真正(しやうせい)がよくわかりません。こんなときはスケッチでもいいのですよ。自然(しぜん)の生き物をスケッチするのは、学校(がっこう)でもなかなか取り上げていませんので、こんなときはスケッチがいいと思います。

しんそう世界だいすきクラブの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

保和苑(ほわえん)の紹介に、「街の中の小さな場所ですが、生き物と会えるワンダーポケットようだ」と記されていました。ぜひ行ってみたいと思えるようなとてもステキな場所だと思いました。とても魅力的な表現(ひょうげん)です。保和苑(ほわえん)は徳川光圀公(とくがわみつあき)が名付けたと伝えられる庭園(てい園)で、あじさいも有名(ゆうめい)ですね。古くからみんなに親しまれている場所であることも魅力(みちり)を感じます。

“ずっと見ていたい自然”のコーナーでは、自然(しぜん)に対する思いをつづってくれました。水の循環(じゅんかん)と植物(しょくぶつ)の循環(じゅんかん)に気づいたり、生き物間の食(た)う食(た)われるの(を)関係(かんけい)に思いをめぐらしたりしたことを記しました。自然(しぜん)を見る目が育(は)っているなと感心(かんしん)しました。

保和苑(ほわえん)の生きものの紹介では、木や池の中に生きものを入れ込み、かつ写真を効果的に配置(ちはい)してくれました。保和苑(ほわえん)での生きもの観察(くわんさつ)の楽しさが伝わってくるようなレイアウトになっていました。よく見ると、タガメやホタルを見かけなくなったと書かれていました。かつては、保和苑(ほわえん)でタガメやホタルがいたことを想像(さうぞう)するとワクワクしてきました。よりよい環境(かんけい)を目指(めざ)して改善(かいぜん)を続(つづ)ければ、必ず復活(ふくたつ)する時(とき)がくるでしょう。タガメやホタルの復活(ふくたつ)を、これからの活動(かどく)の目標(もくひょう)にしてほしいと思いました。

これからの活動(かどく)も、いろいろな形でアピール(あぴる)していってください。期待(きたい)しています。



とっておきのゴンドウ★

保和苑(ほわえん)での活動(かどく)がよく表現(ひょうげん)されていました。ただ、この壁新聞(かべしんぶん)がこどもエコクラブのホームページで、全国(ぜんこく)の人に紹介(しょうかい)されることを考えると、工夫(くふう)してほしい点(てん)がありました。まず、しんそう世界だいすきクラブの皆さん(みなさん)が活動(かどく)している保和苑(ほわえん)は、どこにあるかを知(し)りたいと思いました。水戸(みと)在住(じゆう)でない人(ひと)にとっては、“生きものワンダーポケット”の場所(ばしょ)である保和苑(ほわえん)はどこにあるか、1番(いちばん)知りたいことではないでしょうか！

読み手(よみて)のことを意識(いしき)すると、内容(りよう)ごとに見出し(みだし)をつけたりする工夫(くふう)もできるのではないのでしょうか！ちょっとした工夫(くふう)で、より分かりやすい壁新聞(かべしんぶん)に変身(へんしん)します。全国(ぜんこく)の人(ひと)が見ることを意識(いしき)しながら新聞(しんぶん)作(さ)りにみ(め)がきをかけてください。

さらにすばらしい新聞(しんぶん)ができることを期待(きたい)しています。

逆川こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

「カブトムシ」や「クワガタ」は、昆虫の中でも最も人気がある種類のひとつですね。大好きな昆虫を模造紙に楽しくはっている様子が目に浮かびました。とてもすてきな新聞に仕上がりました。

さて、私たちは単にカブトムシと呼んでしまっていますが、カブトムシには、オキナワカブトムシやコカブトムシなどいろいろな種類がいることが、この新聞でわかりました。クワガタも同じように、ノコギリクワガタやオオクワガタなど、たくさんの種類がいますね。また、種類によって、寿命や生活する場所も違うことがわかりました。生きものによって、生き様がちがうことに気付くことができました。生きものは種類がたくさんあって、それぞれ生き方がちがうのだという生物多様性について勉強したことになります。これからも、いろいろな事に関心を持って、調べて行ってほしいと思いました。

それから、カブトムシに角がある理由も考えたり調べたりしてくれました。なぜだろう？なぜかしら？と思うこの純粋な心を持ち続けてほしいと思いました。



とっておきのゴシドウ★

昆虫の多様性がよくわかる新聞にまとめられました。一つ気になったことがあるので、ここではそのことをお話ししておきましょう。この新聞では、同じカブトムシの仲間でも、いろいろな種類がいることがわかりました。種類がちがうカブトムシは、住む場所もちがいますね。ふつうのカブトムシは日本にいて、クヌギやカシの木の樹液に集まります。でも、日本にいないヘラクレスオオカブトなど外国の昆虫も、いっしょに説明されていました。今、外国の生きものが日本に入ってきて問題を起こしたり、その逆のことが起こったりして問題になっています。次に新聞をつくる時には、生きものの生息している場所などにも気をかけてください。むずかしい言葉では、日本に生息していない種類を「外来種(がいらいしゅ)」といいます。今度、調べてみて、また新聞にまとめてほしいと思いました。

逆川こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

自然の植物から色を作る“あいぞめ”は、とてもすてきな色がでますね。“あいぞめ”をする様子が、わかりやすくまとめることができました。写真があったので、どんな作業なのか、よくわかりました。「百聞は一見にしかず」ですね。

それから、液で染めたハンカチが空気にふれると、あざやかな藍色に変わるのも不思議ですね。おそらく空気中の酸素と反応する化学変化だと思うのですが、どのような仕組みなのか、知りたくなりました。私は体験したことがないので、機会があったらチャレンジしたいと思います。

葉をちぎり、葉脈を取り除いている様子など、活動の苦勞が感じられましたが、ひとつづきになったことがあります。それは、新聞に「葉から汁が出るまでよくむ」とありました。そのとき手には色がつかなかったのか心配になったのです。あいぞめ職人の方の手は、青く染まっていることが多いようですが、逆川こどもエコクラブのみなさんの手はどうだったのでしょうか？ちょっと気になりました。

それから、“あいぞめ”を体験した水戸植物園は、大きな温室があったり、洋風の庭園があったりしますね。近所には、水戸の周りには、その他にも、自然を体験できるいろいろな施設があり、催し物が開催されています。ぜひ、いろいろな施設の情報をチェックして、様々な体験をしてください。そして、また新聞作りをしてほしいと思いました。



とっておきのゴシドウ★

“あいぞめ”で色をそめる過程がよく分かるがよくわかる新聞です。ここでは、「新聞づくり」という点から、コメントしましょう。新聞では、「いつ、どこで、だれが」といったことが、書かれていることが大切です。そんなことに気づきながらリード文や本文にどんなことを書いたらいいか考えながら紙面をまとめてみましょう。するとちがった新聞の型が生まれてくると思います。新聞作りで、自分の活動を振り返ることは大切です。この取り組みを、いろいろな体験にも生かしてほしいと思いました。これからも、いろいろな活動にチャレンジしてください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑬逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
英宏の泉でひろったチョウの羽の正体は何なのかを調べる中で、同じ仲間のチョウを調べたり、周辺にはどんなチョウがみられるのかを調べたり、ひとつの発見からさまざまな疑問を解決していく様子が感じられる新聞でした。
まず、ひろったチョウの羽の正体はオオムラサキでした。オオムラサキは、日本の国蝶でアゲハチョウのように大きなチョウです。とても美しいチョウですね。オオムラサキは、モンシロチョウのように身近に見られるわけではありませんから、とても貴重な発見だと思います。また、周辺に見られるチョウもよく調べました。特に、近年分布域を広げたナガサキアゲハについて、似ているチョウと対比させながら紹介した点は、感心しました。一目でちがいが分かりました。アゲハとキアゲハのちがいもわかりやすくチョウの羽の写真を見せてくれました。
英宏の泉での小さな発見でしたが、自然の豊かさが分かる壁新聞でした。



とっておきのゴシドウ★
いろいろなことを調べるようすが、目に浮かぶような新聞です。チョウの羽を調べる様子を物語風に筋道を立てて記すと、もっと読者の目を引くような新聞に変身すると思うので、ちょっとコメントします。
たとえば、リード文にひろった羽を調べてみたいと書かれているのですが、その羽の正体がオオムラサキの羽であったという結論が、はっきりと記されていませんでした。リード文を受けて記すなら、「アゲハチョウのように大きな羽で青紫に光るのでオオムラサキと判明した」のように、理由と結論が書かれていると面白いですね。また、オオムラサキは珍しいチョウですから、英宏の泉の自然の豊かさを示す発見であったことを強調するとよいでしょう。
一つの発見から、いろいろなことが想像できる楽しい出来事でした。今回のような小さなことであっても、経験を積み重ねていくと、自然に対する見方を養ってください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑬逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
千波湖の今と昔を、いろいろな見方で記述してくれたので、とても楽しく読むことができました。
千波湖の近くに、大きなダイダラ坊の像があることは知っていました。でも、そのダイダラ坊が、朝房山を作ったことなどは知りませんでした。桜川もダイダラ坊が作ったのですね。民話は、昔の人の暮らしや考え方を知るよい資料です。水戸の昔の人たちの様子が、ちょっとだけ分かったような気がしました。
千波湖周辺の川のつながりも、よく分かりました。桜川の周辺に、用水路や堀があることも興味深いです。朝房山には行ったことがまだありませんが、千波湖の水をはぐくむ大切な山ですね。とてもよい場所のようですから、守っていききたいものです。
ところで、今の千波湖は、夏にアオコが発生したり外来種がたくさんとれたり、昔の様子とは違った面を見せることがあります。千波湖をこれからどのようにしたらよいか、今回調べたことをきっかけに、みんなで考えていってほしいと思います。期待しています！



とっておきのゴシドウ★
千波湖について調べたことを、自分なりに楽しくまとめることができました。民話の本から調べたことと、自然を調べたことでは、内容が異なります。でも、一生懸命調べたことを、自分なりにまとめたことが分かり、子どもらしさが出た新聞にまとめることができました。
ただ、学年を重ねていったときに、民話の話と自然科学の話が混じってしまうと心配です。すみ分けをして新聞を構成するのはむずかしいと思いますが、発達段階に応じていろいろな対応があると思います。メンバーの様子を見ながら判断してください。
水戸は歴史もあるし、周辺の山々は自然もたくさん残っている地域です。それらを両立させた取り組みはとても大切だと思います。今回の新聞は、歴史と自然の関わりをみるよいきっかけになりました。これからも、様々なことに興味を持って調べていってください。楽しみにしています。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

ヒヌマイトンボの発見の話から、現在のようにまで、幅広く取材をして報告してくれました。ヒヌマイトンボについて、詳しく知ることができました。
ヒヌマイトンボは、廣瀬、小菅の両先生によって約50年前の1971年に発見されました。当時の先生たちの姿が紹介されていたので、若い頃の姿を思い浮かべることが出来ました。涸沼の風景も今と比べるとかなり違ってきますね。当時13カ所あったヒヌマイトンボの生息地が3カ所になってしまったのは残念です。涸沼がラムサール条約湿地に登録されたことをきっかけに、保全活動がすすむことを期待します。さらには、みんなの力で、生息地が増えるような取り組みをしてほしいと思いました。みんなで考え、行動していきましょう。期待しています。



とっておきのゴンドウ★

涸沼は、ラムサール条約湿地に登録されたことにもよりますが、その素晴らしさが再認識されましたね。涸沼は、人が寄りつかないような大自然があるのではなく、人と自然との関わりの中で生まれる姿が評価されたものです。私たちが自然とどう関わっていったらよいか、考えていきましょう。

みんなの活動のようすなども、写真で紹介されていたので、よく分かりました。できれば、“いつ”“どこで”“だれが”といったことが、記してあるとよいでしょう。

新聞の体裁としては、ひとつだけリクエストしておきます。見出しの付け方の工夫です。今回の新聞では、「目的」とか「まとめ」という見出しがありました。実際の新聞を見ると、そのようなことは、使っていませんよね。“涸沼を守るために”とか“絶滅危惧種のヒヌマイトンボ”といったような見出しをつけるだけで、いっそう見やすい壁新聞に変身すると思います。次回の新聞作成の時の参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

中央に湖をイメージした色紙をはりました。その中にはスワンボートも見られ、一目で千波湖であることが分かりました。とても面白い工夫ですね。このスワンボートですが、観光目的のボートだと思っていました。実はそれだけではなく、アオコ対策として水の中に空気を送り込む働きもあるんですね。環境対策としても活躍するスワンボートは、“目から鱗”でした。

どんな生きものがあるかも、写真で示してくれたのでよくわかりました。水の中にいる魚やエビだけでなく、様々な鳥たちもやっています。都市の中にある湖ですが、豊かな環境が残っていると感じました。さらに湖をきれいにすると、オイカワやアユがもどってくるようですね。アオコの問題については触れていましたが、その他にもいろいろな対策があるはずですよ。みんなで考え、実施してほしいと思いました。



とっておきのゴンドウ★

パックテストの結果は、わかりやすく図で示した点がよかったと思います。標準色と比べていることで、CODが8くらいであることがすぐ分かりました。ただ、8という数字をみて、それがどんな意味を示すのか分かりませんでした。千波湖はきれいなのか、もう少しがんばった方がよいのかなど、自分の意見を述べるといいと思いました。

それから、千波湖にはたくさんの生きものがあり、多様性の高い湖であることが分かりました。これらの生きものをよく見ると、千波湖に昔からいたものと、そうでないものがあることが分かります。そのことが、記されていないので、ちょっと残念に思いました。今、外来種といって、人によって持ち込まれた生きものが、昔からの生きものに悪さをしています。自然の仕組みを、いろいろな面から見つめ直してください。

それから、今回のポスターを新聞という観点から見ると、見出しがほしいと思いました。内容ごとに見出しをつくと、いっそうわかりやすい新聞になると思います。次回の参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑦逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

中央に世界地図を貼ってくれたので、外来種がどこから来たのが一目で分かる新聞です。世界中から外来種がやってきたことが分かりました。もちろん、最近話題になったヒアリは掲載してくれたので、よかったと思います。それからオンシツコナジラミという昆虫についても報告してくれました。この昆虫のことは知らなかったの、勉強になりました。

千波湖周辺の外来種についても調べてくれました。地域の情報を知ることができ、役に立ちます。よく調べると、もう少し種類が増えるかもしれませんね。

外来種がどこから来たのかを調べて分かったことは、遠い国からも来ていることが分かりました。そして、その種類も多岐にわたります。身近な千波湖で起きている外来種の問題は、実は世界中のいろいろな国と関わりがあるのです。外来種の問題はとても難しく、すぐに解決することができません。でも、みなさんが考え、ひとつひとつ取り組んでいくことが大切です。新聞を作ったことも、その取り組みのひとつです。生きもののつながりについて、しっかり勉強して、生きものが住みやすい環境作りをみんなで考えていってください。



とっておきのゴシドウ★

外来種の問題については、壁新聞でも多くのグループが作成してくれます。でも、外来種がそもそもどこに住んでいたのかについて、一目で分かる新聞は、あまりみかけませんでした。今回、外来種がどこから来たのかを、分かりやすくまとめたのは大きな成果となりますね。

千波湖の外来種の記事からは、外来種が東南アジア、台湾、中国、アメリカなど多くの国からやってきたことが分かりました。これらは、地元の自然を知る上で、とても大切なことです。この点については紙面でももう少し大きく扱ってほしいと思いました。また、見出しなどにも工夫をするのも、よいかもしれません。

読者は何を知りたいのか、自分は何を訴えたいか考えながら、さらにより新聞作りを心がけてください。次の新聞作りの参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑧逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

涸沼は、2015年にラムサール条約登録湿地に登録されて湖です。人里離れた山奥にある湖ではなく、人と関わりが深い湖であるにもかかわらず、良好な自然が残されていることが、涸沼の特長ですね。私は、ラムサール国際基準のことはよく知らなかったの、「涸沼が認められた9つの国際基準」について記された記事は、勉強になりました。

記事を読んで、涸沼は絶滅の恐れのあるオオワシやオオセッカなどの生息地であることが分かりました。それから、スズガモが毎年5000羽もやってくるのですね。人が近くに住んでいながら、貴重な鳥がやってくることが分かり、改めて自然の豊かさが理解できました。

涸沼の自然を守っていくには、今までと同じようなことをしていくことも大切ですが、そこにいる生きものを理解して、私たち人とどう共存していくかについて学んでいく必要があります。これをきっかけに、もっと涸沼を知って、未来にすばらしい自然を残してほしいと思います。



とっておきのゴシドウ★

壁新聞というと、みんなに見せる掲示物です。そのことを考えながら、いくつかコメントしましょう。

涸沼の壁新聞は、写真をつかったり、項目ごとに色の違う台紙を用いたりして、分かりやすい壁新聞作りに取り組んでくれました。ただ、ヒメイトトンボの写真の説明がなかったり、いくつかの地図が小さかったりしたのは、ちょっと残念でした。壁新聞は、多くの人が見るものです。茨城県外の人などは、涸沼を知らない人もたくさんいます。どんな人が読んでも分かるように、紙面の構成を考えるのが大切です。

それから、新聞には、読み手に注目させる“見出し”や、内容を簡単に記した“リード文”といったものがあります。それらを加えると、またちがった紙面構成が考えられます。読み手を意識して、どうしたらよいか考えてみましょう。次に壁新聞を作るときに参考になればうれしいです。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

水道から出た水が、めぐりめぐって、また水道水になるようなレイアウトの紙面構成で、新聞を仕上げてくれました。とても工夫されています。

紙面には、霞ヶ浦に関する様々な情報が、項目ごとに図を入れて説明してくれました。二段に分かれた説明の上段は、霞ヶ浦の現状の解説です。昔の湖水浴の写真もはってくれたので、霞ヶ浦の昔のようすがよく分かりました。湖水浴を楽しむ大勢の人におどろきました。湖水浴ができるくらいのきれいな湖にもどるといいですね。それから、霞ヶ浦の水は、入れ替わるのに200日もかかり、それがひとつの原因でアオコが発生することも分かりました。日本で2番目に広い湖であることや、水深が浅いことなど、いろいろな要因がアオコの発生には関係しますので、そのメカニズムを研究してほしいと思いました。

説明の下段は、きれいな霞ヶ浦を取り戻すための様々な取り組みを示してくれました。調査を続けられれば、さらによい方法が見つかる可能性があります。みんなで考えてほしいなと思いました。

今回の新聞作成をとおして、霞ヶ浦の水の循環を学びました。水は、霞ヶ浦ばかりでなく、地球規模でも巡っています。霞ヶ浦の学習をしながら、地球全体にも思いをはせて、環境保全の取り組みをしていってください。



とっておきのゴンドウ★

非常に工夫された紙面構成でした。この新聞でうったえたい事も伝わってきました。

特に新聞の中で取り上げた湖水浴の写真は、昔のきれいな霞ヶ浦を取り戻す上で、昔を知る貴重な資料だと思います。いつの時代の写真なのかなど、写真のデータが知りたくまりました。それから、霞ヶ浦で昔から見られる生きものの写真も載せてくれました。ただ、写真をはっただけだったので、説明を記してほしいなと思いました。

新聞は、大勢の人が見るものです。霞ヶ浦を知らない他の県の人が見ても理解できるような説明は、必要だと思います。いろいろな人が見るという視点を大切にすると、さらに内容ある新聞にバージョンアップする期待が持てます。次回の新聞作りの際に参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

日頃は目にすることが少ないきれいな蛾の写真をたくさん用いて、その入り笠山調査結果の一端を紹介してくれました。マルモンシロガなどは、名前の通り丸く赤い紋が鮮やかな蛾で、とてもきれいですね。

また、セスジズメの幼虫から寄生バエが羽化してきたのも興味深いですね。自然界でのきびしさが感じられる記事だと思います。また、尾瀬旅行やライトトラップの記事からは、今年の活動の様子が伝わりました。

それから、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の企画展に標本を展示した記事もありました。他の人に自分の考えを伝えることは、とてもむずかしいことです。どんな標本をどのように並べて展示したのかを、詳しく説明がほしいなと思いました。

蛾にたいする愛情を感じる紙面構成でした。



とっておきのゴンドウ★

蛾への思い入れが感じられる壁新聞でした。1年間の採集や観察の記録、活動の様子が分かるようになっていました。他の人に蛾の魅力を伝えるにはどうしたらよいか考えてみましょう。

まず、壁新聞で何をうったえたいのかを考えることが大切です。今回の内容だったら、「蝶と蛾のちがいを」でしょうか？それとも「蛾の生態」でしょうか？焦点を絞ることが大切です。次に大切なのは、どのように伝えるかです。新聞では、“5W1H”が大切であるといえます。いつ、どこで、誰がといった内容を記すと、読み手に内容が伝わるのです。例えば、博物館の昆虫展に協力した記事は、面白い内容なので興味がわきました。でも、博物館のイベントに参加した様子は分かりませんが、どのような標本を展示したのか？なぜ、博物館に蛾を展示してもらったのか？など、知りたい内容が書かれていなかったのが残念です。

新聞では、“見出し”“リード文”“本文”といった形式があります。それらを参考に構成を考えるのもよいでしょう。物事を相手にどのように伝えるかは、とてもむずかしいことです。でも、相手に気持ちになって、ていねいに説明する気持ちがあれば大丈夫です。次に壁新聞を作るときは、このようなことを参考にしてみてください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
英宏の泉でのホタルの活動などは、壁新聞でも紹介されていましたが、これまでにキノコの報告はなく、とても興味深く読むことができました。特に、動機の内容を4コマ漫画で紹介したのは、面白いですね。
英宏の泉の地図に、キノコの観察地を入れ込んだ記事も、とても分かりやすいと思いました。写真が添えてあったので、その場の雰囲気も分かり、この場所がキノコの生育に適した場所であることが推察されます。キノコの種の解説には、食用であるかないかが書かれていました。一般の人には、とても関心のある内容ですね。壁新聞では、相手がどんな内容を知りたいか考えることも大切です。
「これから…」のところで、今回紹介したキノコの種類は、ほんの一握りであることを記していますが、調査は始まったばかりです。おそらく、100を超えるような種類のキノコが記録されると思います。これからは、調査、観察を続けて、ゆくゆくは「英宏の泉キノコの目録」を完成させてほしいと思いました。期待しています。



とっておきのゴシドウ★
キノコへの暑い探究心に、心打たれました。そして、とても分かりやすくまとめられた壁新聞ですが、小見出しが「動機」と「これから…」の二つしかなかったのが、とても残念でした。4コマ漫画とキノコ・マップのタイトルをつけただけで、見やすさは一段とアップしたと思います。
もう少しレベルアップした記事するのなら、新聞で大事な「いつ、どこで、誰が…(5W1H)」といった内容を詳しく書き加えることを提案します。例えば、今回は「英宏の泉」のキノコの報告でしたが、そもそも英宏の泉とは何なのかを知らない人がたくさんいます。また、これからはキノコの記録は増える予想しています。その根拠となるのは何か記すのも科学的ですね。今回の調査方法を検討して、これからの採集予測をするような、記事の裏付けとなる内容も大切にしたいと思いました。
誰でも分かるように記すという視点で見ると、手直しをした方がよい所が見つかると思います。次回の壁新聞では、読み手を意識しながら紙面構成を考えてみてください。

茨城県水戸市 逆川子どもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑫逆川環境活動の1年

逆川子どもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
今、起きている森林の問題を踏まえて、役目や課題、私たちにできることなどを、分かりやすく紹介してくれました。項目ごとに色分けしているのも、効果的です。
さて、森林の役目は、いろいろありますね。私たちの住む家も、木材がたくさん使われています。生きものの住みかにもなっていますね。今年の夏は異常なほど暑く、毎日35度を超える日が続きましたが、森がたくさんあったら地球温暖化の防止にも効果があるでしょう！
世界では、1年間に日本国土の半分の森林が減少している事実も知りました。そのことを考えると、小さな事でもよいので、私たちができることを実施していく必要を感じます。それから、世界的な視野に立って、行動を起こすことも大切ですね。逆川子どもエコクラブでは、様々な活動を行っています。その活動は、どんな役割を果たしているのか、広い視野に立って見つめ直してってください。これからの活動も期待しています。



とっておきのゴシドウ★
森林を守る意味を、端的に示すことができました。一方、少し残念なことは、新聞の内容が、逆川子どもエコクラブのみなさんが行っている活動と結びついていなかったことです。森林の問題と、自分たちの身の回りにある自然を比べることで、「今、私たちができることは何か」について、より具体的な活動が考えられると思います。皆さんの活動の様子なども、次はぜひ紹介してください。
新聞記事では、5W1H「いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、なにを(What)、なぜ(Why)、どのように(How)」の6つの要素を整理しまとめ、相手にうまく情報伝達ができるといいます。紙面の構成を考えるときのひとつのポイントにもなるので参考にしてください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑬逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

英宏の泉でのホタル再生プロジェクトの様子がよく分かりました。10tものゴミを搬出したり、泉を復活させたりする作業は、とても大変だったと思います。でも、その苦勞が報われる環境が復活しましたね。

ホタル再生の活動は、多方面の方々からも注目された様子がよく分かりました。いろいろな団体から表彰されたのは、その成果の一つでしょう。

それから、英宏の泉に住む様々な生きものを紹介してくれました。レッドデータブックで希少種に指定されているホトケドジョウが見られたのはすごいですね。その他にもオニヤンマや、ヘビトンボの幼虫？が見られたのもすごかったです。英宏の泉は、環境が整うに従って、生きものがたくさん集まってくると思います。これまで観察できなかった種も記録されると思いますので、これからも観察を続けてください。
これからの活動も期待しています。



とっておきのゴシドウ★

英宏の泉での活動の歴史が分かるように、よくまとめられました。生きものについて、よく知らない人にとって、分かりづらい面があったので考えてみましょう。

たとえば、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いを知っている人は、意外と少ないと思います。前胸の赤い部分の筋の太さが違うことなどを記すと、興味がわくのではないのでしょうか？それから、英宏の泉で見られる生きものを写真で紹介してくれましたが、種名を記してくれると、より関心が高まると思いました。

ところで、英宏の泉では、これからどのような活動をしていくのでしょうか？自然を維持するには、私たち人間も大いに関わりを持っていかねばなりません。どんな活動をしたらよいのか、自分ではどんなことができるのかなどについて、これから考えていく必要があります。逆川こどもエコクラブなどの活動と協力して、どんなことができるか検討してってください。

紙面に、赤字でマドボタルと記されたところがありました。なぜ、記しているのか分かりませんでした。機会があったら教えてください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑭逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑭の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

茨城の希少野生生物について、図鑑形式でまとめてくれました。写真で生きものを紹介し、かつ詳細な解説があるので、希少野生生物のことがよく分かりました。特に、レッドデータブックを意識して、赤のラシャ紙の上に解説をはったのは、よいアイデアだと思いました。

それから、涸沼がラムサール条約に登録されたことを意識して、オオワシやオオセッカ、ヒヌマイトンボを紹介してくれました。地元の自然を再認識するきっかけになると思います。自然保護の第一歩は、身近な自然のありがたみを感じることです。ラムサール条約への登録を機に、涸沼の自然の恵みを見直してほしいと思いました。

自然保護の活動をすすめていくと、むずかしい問題にも出会います。そのひとつが外来種のあつかいだと思います。外来種は人によって持ち込まれた生きもののことです。そもそもの原因は私たち人であることを意識しつつ、どのように対応するか考えてほしいと思いました。これからの活動を見守りたいと思います。



とっておきのゴシドウ★

茨城の希少野生生物のことがよく分かりました。また、とても見やすくレイアウトされていました。さらに、地元の涸沼の話題を中心にまとめようと努力する姿勢もうかがえました。

そこで、ちょっと残念に思ったのがタイトルです。涸沼にはオオワシやオオセッカ、ヒヌマイトンボのほかにも、希少野生動物がたくさんすんでいます。ニホンウナギやヤマトタマシなどです。タイトルを「涸沼の希少生物」として涸沼を見直すことで、より深く涸沼を知ることができたのではないのでしょうか。また、「茨城の希少生物」のタイトルだと、「いいの村涸沼のビオトーププロジェクト」の記事の内容を取り上げた理由が曖昧になってしまいます。タイトルを修正するだけで、詳しい説明が不要になると考えられます。

ちょっとした工夫で、よりバージョンアップした壁新聞になります。内容を絞って、より質の高い壁新聞作りに挑戦してください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑰逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑮の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

英宏の泉でのホタル再生プロジェクトの様子がよく分かりました。広い湧水地のゴミを搬出したり、雑草を刈り取ったりする作業は、とても大変だったと思います。また、ホタル再生の活動が、多方面の方々からも注目され、多くの団体からさまざまな賞を受賞されました。おめでとうございます。
それから、英宏の泉のホタル鑑賞会の様子を写真で紹介してくれました。無数のホタルが舞う写真は、とてもステキです。ホタルの多さにおどろき、そのときの様子をくわしく知りたいと思いました。
ホタルは、里の生きもので、その環境に寄り添うように生活しています。一度ホタルが見られるようになって、環境を維持できないとホタルの発生は続かないのです。これからの、環境維持にも心を配ってほしいと思いました。これからの活動も期待しています。



とっておきのゴシンドウ★

英宏の泉での活動の様子が分かるように、よくまとめられました。この活動の様子は、いろいろな所で報告され、その成果も多方面の方々から注目されました。数々の賞をいただいたのは成果だと思います。
ところで、英宏の泉は、将来どんな場所にすることが目標なのでしょう？今後の取り組みに、英宏の泉の面積を拡大していることが記されていました。拡大した場所はどんな場所にしたいのか、またどんな利用をするのかなど、将来の泉の姿を想像して、どのような取り組みをしたらよいかを考える時期になったと感じました。
これまで、ホタルを再生させるという、分かりやすい目標のために、多くの地域の方も協力してくれました。これからは、新たな目標を掲げないと協力者はだんだん減ってきてしまいます。将来を見据えて、ひとつのビジョンを掲げる必要があるのです。ビジョンをつくるには、多くの人の考えを取り入れる必要もあるでしょう。また、新しい取り組みも必要となるでしょう。どんな英宏の泉をつくりあげるのか、楽しみにしています。これからの活動の様子も、いろいろな形で発表してってください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑰逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑮の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

きれいに色使いされて、とても見やすくまとめられた壁新聞です。ヒヌマイトトンボを“いこいの村瀬沼”に復活させる取り組みの概要も、よく分かりました。
“いこいの村瀬沼”周辺には、ヒヌマイトトンボがもともと生息していたことが記事を見て分かりました。今回の取り組みは、ヒヌマイトトンボの元生息地なので、瀬沼の水が出入りするヨシ原が再生できれば、成功する可能性が高いと思います。写真を見ると、いい感じでヨシ原が復活していますね。あせらず環境を作り上げ、ぜひヒヌマイトトンボの生息地を復活させてほしいと思いました。



壁新聞では、瀬沼に生得する動物たちをたくさん紹介してくれました。瀬沼がラムサール条約に登録された訳が、理解できます。それから、写真のほとんどが自ら撮影した写真なのですね。動物は動き回るので、いい写真を撮ることがとてもむずかしいと思います。今回掲示してくれた写真は、どれもすばらしく貴重な資料としても活用できます。いつ、どこで、誰が撮影したかという記録とあわせて保管してください。
これからの様子の変化も、続けて報告してほしいと思いました。

とっておきのゴシンドウ★

記事も分かりやすくコンパクトにまとめられている新聞です。細かいことですが、いくつか気になったことを記します。
・きれいに色分けされましたが、冬鳥の下地が赤でした。イメージと異なるような気がします。
・県外在住者など多くの人は、瀬沼の形を知りません。ヒヌマイトトンボの生息地の地図には、はっきりとタイトルを記した方がよいと思いました。
・一目で内容が分かるような、この壁新聞全体を総括するような文、新聞でいうとリード文のようなものがあるとよいと思いました。
・クロベンケイガニが、魚の色に分類されていました。
・いつ撮影したかとか、どのような資料から引用したかという出典が分かるようになっていないと科学的です。
自分なりに考えて、いくつか参考になる事があったら、次の新聞作りに取り入れてみてください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:⑪逆川環境活動の1年

逆川こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

1年間、活動おつかれさまでした。年間を通して万遍なく活動されている様子が一目で分かる新聞になっていました。活動は多岐にわたっており、かつその一つ一つが充実した内容でした。こどもエコクラブのHPの活動レポートで、日頃の活動の様子を知ることができますが、こうして通してみると、改めて充実した1年であったことが分かります。
次年度以降も、さまざまな活動に取り組んでいってください。応援します。



とっておきのゴシドウ★

逆川こどもエコクラブの1年間の活動を振り返る壁新聞作りができました。内容も充実しています。今回は、より大きな視点から二つの提案をしてみたいと思います。

ひとつめは、中長期的なビジョンをつくることです。それぞれの活動は、精選された内容の活動が続いています。これらの活動を継続したり、拡大したりしたいという考えがあるようですが、その到達目標は何かということが曖昧だったり、みんなが分かるように示していなかったりしていないか、もう一度考えてほしいのです。

具体的には、ホタルネットワークmitoとして保全活動をしている「英宏の泉」ですが、エリアが拡大されてきています。ホタルの復活を目指していたこれまでと違い、これからはホタルと共にどのような環境を目指すのかについて、みんなの考えをまとめていく必要性を感じます。また、その他の活動とどう結びつけるか、または会としてどのようなことを目標にするか、一つのビジョンをつくってほしいと思いました。

もう一つは、なかま作りです。茨城県では、逆川こどもエコクラブの他にもさまざまな団体が活動を行っています。しかし、逆川こどもエコクラブは、活動の質、量ともに他団体を圧倒しています。ですから、外の団体のレベルアップを促す意味でも、他団体とのなかま作り、ネットワークづくりをしてほしいと思います。身近にライバルができることによって、より内容がある活動に進化すると思うのです。県の環境政策課やミュージアムパーク茨城県自然博物館の協力を得るのもよいでしょう。

逆川こどもエコクラブは、茨城県を代表するクラブとして、これからも活動を続けてください。期待しています。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー
壁新聞のタイトル:守ろう！上大野の美しい自然

08-18

かみおおのアースレンジャーの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

壁新聞での活動報告は、毎年レベルアップがはかられていますね。今年は、項目ごとに台紙の色を変えてくれたので見やすく、さらに分かりやすい見出しをつけてくれたのでよかったと思います。

“自然あふれる上大野”では、地域内でタガメが生息している報告がありました。おどろくと同時に、上大野小の自然の豊かさを感じることができました。カニ脱走事件の記事も面白かったです。

“自然を生かした野菜作り”では、学校園での野菜作りの報告がありました。立派なサツマイモが収穫され、おいしくいただくことができました。今年もサツマイモ作りを行っていますので、その報告も楽しみにしています。

“自分たちで育てた野菜で調理実習”では、野菜が苦手な人でも自分で育てた野菜をおいしくいただいたことが書かれていました。一回り成長した姿に感激です。

“長くても一生懸命育てたグリーンカーテン”では、ツルレイシの成長過程の写真を効果的に使い説明してくれました。できたゴーヤは食べたのか知りたくなりました。

“グリーンカーテンを地域の人に”では、ツルレイシやフウセンカズラの種を配布する様子がありました。取り組みが、広がるといいなと思いました。啓発活動を続けてください。

“なぞを解決！上大野の自由研究”では、カイコやハクセキレイの自由研究を報告してくれました。自由研究の活動の様子は、別の報告でも読んでいたのでなつかしく思いました。“元気に育ててまたもどってきてね！”では、サケの稚魚の放流の様子が分かりました。食物連鎖のことなどにも思いを巡らせて報告してくれたのがすばらしいと思いました。

これからもエコ活動を続けてください。期待しています。



とっておきのゴシドウ★

上大野小学校の活動の様子がよく分かる新聞にまとめられました。体裁の工夫などもあり、だいぶレベルアップしてきました。これからは、記事の内容にメリハリをつけるために、大きく扱う記事と小さく扱う記事のちがいがあってもよいと思います。紙面で何をうったえるかを考えると、自ずと構成が変わってきます。何を読者に伝えたいかを考えながら壁新聞作りを行ってください。来年も楽しみにしています。

龍ケ崎市環境楽習講座の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

環境楽習講座での活動の様子を、毎年壁新聞にまとめてくれてありがとうございます。茨城県民の森での活動やチャレンジ・エコクッキングの様子がよく分かりました。

“きのこ博士館”にいったようですね。キノコのことや森の仕組みが分かったのではないのでしょうか！茨城県民の森の感想では、丸太切りや水鉄砲の内容が目立ちました。子どもたちの遊び道具はテレビゲームが主流になってしまったので、自分で作る遊び道具が少なくなってきてしまいました。その点で、丸太切りや、水鉄砲作りは、とてもよい体験でしたね。

エコクッキングも楽しそうでした。水を減らしたり、ゴミを出さないように工夫したり、今回はエコについて考えながら食事を作ることができました。エコ活動は、日頃の何気ない取り組みの積み重ねが大切です。今回の経験を、お父さんやお母さんと共有して、お家でも実行してほしいと思いました。それから、食べる活動はそれだけでも楽しいですが、みんなと一緒に食べるのは、もっと楽しくなりますね。楽しい体験ができました。

とっておきのゴンドウ★

みなさんの活動の様子がよく分かりました。環境楽習講座のまとめとして、壁新聞作りを行うのも定着してきましたので、この活動を続けてほしいと思います。一つだけリクエストしておきます。「龍ケ崎市の環境楽習講座で〇〇を、□月□日に、△△で行いました。」というような説明を加えると、よいと思います。記録としても残りますし、新聞の体裁としても整います。次は、一言付け加えてみましょう。よろしく願いいたします。

来年度は、どんな活動が行われるのか、楽しみにまっています。



茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル:サシバのすめる里やまづくり(生き物たちと共存できる大子町に)

08-21(2位)

八溝自然たんけんたいのみなさんへ
師範から一言！

“八溝自然たんけんたい”の活動の様子がよくわかる新聞です。

去年は、例年よりサシバが多かったようですね。毎年、サシバがやってくるような自然があるのは、すばらしいと思います。これからも活動を続けてください。サシバが増えるには、サシバが渡る先の自然も守られる必要がありますね。サシバを通した自然保護活動について、大子から世界に向けて発信してほしいと思います。

「生きものしらべ」では、さまざまな生きものを記録することができました。特に水の中の生きものでは、ヘビトンボが見られました。きれいな水がある自然豊かな場所でしか見ることができない種類なので、さすが大子だと思いました。サシバは、ヘビ、トカゲ、カエルといった小動物やセミ、バッタなどの昆虫類を食べます。「生きものしらべ」でいろいろな生きものが見られたので、サシバが生息できる環境が整っていることも分かりましたね。

香美市のこどもエコクラブのみなさんとの交流が始まりました。大子町の八溝山と香美市の三瓶山では、環境が異なるので取り組みのちがいが見られます。八溝の自然とのちがいを見つけて、自分たちの活動にもつなげてください。クマやシカが分布域を茨城にも広げつつあります。どんな対応をしていったらよいか、みんなで考えて行ってください。

とっておきのゴンドウ★

“八溝自然たんけんたい”の1年の活動の様子を知ることができました。幼稚園生や小学生が、熱心に活動している様子も分かりました。さて、ちょっと分かりづらい面があったので、それを修正してみましょう。四国のこどもエコクラブの活動の紹介の記事がありました。みなさんの活動なのかそれとも香美市こどもエコクラブの活動なのか、迷ってしまう箇所がありました。同じ記事には同じ色の下地を用いるなどの工夫があるとよいでしょう。

活動の紹介の場所と、会の目標の紹介の場所など、項目ごとにきれいに分けるのも工夫の一つです。たくさんの活動を行っているので1枚にまとめるのは、むずかしいと思います。内容にメリハリつけたりして、より見やすい壁新聞に仕上げてみてください。来年の、壁新聞にも期待しています。



栃木県宇都宮市 ボーイスカウト宇都宮第 15 団
壁新聞のタイトル:環境保護新聞 09-01、09-02、09-03 (全 3 枚)

ボーイスカウト宇都宮第 15 団①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
一年間みなさんと協力しながら、楽しく活動できましたね。どの活動も面白そうだなあ、体験してみたいなあと思える内容でした。みなさんが楽しかったこと、感じたことを自分の言葉で書いているので、読む人にもそれがよく伝わると思います。それぞれの活動の中に、環境のことを考えた視点を感じます。例えばじゃが芋を植えた後で、ニジウヤホシ Tentウを駆除するために木酢液を散布しました。ここで木酢液を使ったのは、なるべく自然由来のものを使いたいということだと思いますが、どうでしょうか？
ごみ拾いの活動では、タバコの吸いがらが多いことに気が付きましたね。他のクラブの壁新聞などでも、ごみ拾いをするとタバコの吸いがらがたくさん見つかることが書いてあります。みなさんが書いているように、自分で処分してほしいですね。最近はいろいろな場所で禁煙の方向性になっているので、タバコの吸いがらもへるといいなと思っています。
とっておきのゴシドウ★
エコキャンプでは一人当たりの金額やナイトハイク、ごみの量などを競争していますね。とてもおも面白い取り組みだと思いました。ごみをへらすにはどんな工夫をしましたか？またガスの使用量をへらすには、どんな工夫をしましたか？その内容を壁新聞に書くと、読む人も「こうゆうことをすれば環境にやさしくキャンプできるんだ」って伝わると思います。また、それをキャンプだけでなく、家でもぜひ実行していけるといいと思います。



ボーイスカウト宇都宮第 15 団②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
活動をする時だけでなく、壁新聞を作る時もメンバーで仲良く話し合いながら進められたのではないのでしょうか？キャンプも焼きいもづくりもとても楽しそうです。
エコキャンプでは、お金・食べ物・物を大切にする、というテーマを持って取り組むことができましたね。買ったものが書いてありますが、材料を買ってみんなで調理するというより、調理が少ないものを選んでいるのでしょうか？普段は「何円以内で買う」ということはあまり考えないと思うので、よい経験でしたね。
焼きいも作りで、おわんに何か入っている写真がありますが、これは何ですか？壁新聞のタイトルにもある「じゃがバター」かな？写真だけだと少しわかりにくいので、こういったところはキャプションをつけるのも手だと思います。



とっておきのゴシドウ★
キャンプでは、ごみをへらす取り組みも行ったそうですが、どんな工夫をしましたか？また、それは家や学校など普段の生活でもできそうなことでしょうか？できることであるなら、家でもやってみて、キャンプの時に取り組んだ結果とのちがいを考えてみるとよいと思います。キャンプで学んだことを、ぜひ普段の生活でも活かしていきましょう。

栃木県宇都宮市 ボーイスカウト宇都宮第 15 団
壁新聞のタイトル:環境保護新聞

ボーイスカウト宇都宮第 15 団③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
3つの活動について、どれもていねいに文章が書かれていますね。活動日・やったこと・感想が書いてあって、とてもわかりやすいです。記事のタイトルも工夫して書いていますね。
せっかく作ったトウモロコシは動物に食べられてしまったようですが、どんな動物が食べたのかわかりますか？カラスやイノシシなどの動物が食べたのかもしれませんが、最近では外来生物のアライグマやハクビシンが畑を荒らすこともあります。動物に合わせた対策がいるのかもしれませんがね。
火をおこしてやきいもをしたのも、とても良い経験でしたね。お父さんががんばってくれて火がついたようですが、うまく火をおこすにはやはり力がいるのでしょうか？お父さんにコツを聞いておくと、次の機会に役に立つと思います。

とっておきのゴシドウ★
エコキャンプでは見事優勝したそうですね。おめでとうございます。でもご飯の材料は少なくてがっかりしたとのこと。実感がこもった感想ですし、とてもよい気づきだと思います。キャンプは2日間で終わるので、がっかりするのも2日間で終わります。もし、普段の生活も同じようにしていいたら、毎日のがっかりすることになってしまうのでしょうか？それだとちょっと嫌になってしまいませんか？
がっかりせずに優勝できると、一番いいですね。普段の生活で環境活動に取り組む時も、がっかりすることがなるべく少ない方が長続きすると思います。なかなかむずかしいことですが、キャンプで得た貴重な気づきを、普段の生活でも活かしてほしいと思います。



東峰エコキッズ①の新聞を書いたみなさんへ

岡本師範から一言

東峰保育園のお友だちみんなと先生、そしてご家族のみなさん、サシバの里協議会のみなさんと一緒に活動して、その結果を「ひがしみねエコ通信」としてまとめてくれました。とても楽しく、たくさん書いてくれました。ところどころに子ども達の感想や感動したこと、ビックリしたこと気がついたことなども書いてくれました。文章だけでなく、写真もいっぱい載せてくれました。そして吹き出しを付けて子ども達の感想や大人からのメッセージも書いてくれて、まわりに子ども達の絵日記を貼りつけて、立派な壁新聞になっています。

地球環境に目を向けて地球を守ろうと言っても、何をしたら良いのか？どう考えるのか？園児の目線で気がついてもらうには？ということで身近にある自然を知ろう、特に地域の特徴ある生き物はサシバだから、サシバの里の自然を切り口にスタートしました。すばらしいアプローチだと思います。

サシバの里の自然の一つは、農業です。市貝町の農家から朝どり野菜を購入して、ポテトサラダ、シーザーサラダ、大根サラダを作りました。採りたての野菜で自分たちで作ったサラダは、格別においしかったようですね。子ども達の素直な感想が目に見えます。枝豆の収穫と豆切りは、初めて見た子どももいて、実際を知る良い経験になったと思います。

春は、お味噌を作りました。お味噌になるには、時間がかかります。完成が待ち遠しいですね。お米の苗床作りを行いました。食べた後の食器を布でふくと、洗う水が少なくて良いのでエコですね。布ではなくてパンで拭くことも良くやります。パンだと食べてしまえば、何も残らず、とってもエコですね。そんなことも子ども達に体験させると良いかと思ひます。

田植えにも挑戦したのですね。何事も最初はこわいと思いますが、意外にやってみるとこわいものでもないし、気持ち悪いものでもないことを経験することが大事ですね。秋の収穫が楽しみです。苗床を作って、田植えをして、秋には収穫となると、途中の大変さも経験したいですね。植物に限らず、生き物が大きくなるためには、お世話をちゃんとやらないとダメだよ！ということも気付かせ、体験させたいですね。



夏はサシバの里で川の生きものを調べたのですね。ドジョウがいました。アカハライモリも見つけました。アメリカザリガニも見つけました。アメリカザリガニは外来種なので、川に放すわけにはいきません。最後は食べたのですね。ザリガニの身体の中には良くない虫もいるので、しっかりと火を通して食べたと思います。

在来種のザリガニはいなかったのかな？比較することでちがいが良く分かり、今後は自分たちだけで気がつくでしょう。ホタルとギンブナの自然観察から気がついたことは、生き物が生きるためには、エサがないと生きられませんが、それと同じ大事なことは住む場所が必要です。私達人間も同じです。食料と共に住む家がないとダメです。そんなことでホタルが住める環境作り、ギンブナが増え、育てやすい環境をこわさないことが大事ですね。生き物というのは、自分一人では生きられません。例えば食物連鎖と言い、食べる・食べられるという関係で生態系が維持されています。こんな生き物はいなくてもいいや！という考えでは、いずれ全ての生き物が絶滅してしまうことを子ども達に気付いて欲しいですね。

秋は実りの秋です。みんなが植えた稲が大きくなって、お米が出来ました、ということで稲刈り体験をし、ピカピカ光っているご飯を食べました。お米も採りたてはとってもおいしかったようですね。こんな経験をするのがとても大事ですね。すりゴマと味噌を合わせて、ゴマだれを作り、流しそうめんを食べる経験もしました。

ということで東峰保育園のエコキッズたちは、1年間とても多くの経験をしました。この活動を見ていると保育園生活は、全てこの新聞の活動で過ごしてきたのかな？と思うくらいたくさんの経験をしてきました。先生方そして保護者の方々のご協力、ご支援で怪我もなく楽しい活動が出来ていることがすばらしくそしてうらやましくもあります。

みなさん方は、4年目を迎えてどうしようかと考えました。自分たちができる事は、「エコ農業とちぎ応援宣言」をして、一生懸命やっている農家を守ることが、環境を守ることにつながることに気付きました。66の家族も参加してくれます。応援宣言の具体的な活動は、何をやるのだろうか？こどもの目に見える活動は何だろうか？楽しみです！期待しています！

とっておきのゴシドウ

この壁新聞を見ると、大人が作った新聞ですね。子ども達のことばが書いてあるが、大人の視線でストーリーを作り、こどものことばや感じたことを書いてあるようです。ということで東峰保育園の壁新聞になっていると感じました。

保育園児が主体的に活動し、新聞を作るのはむずかしいかも知れません。でも、少し残念なのは、まわりに貼ってある子ども達の絵日記です。あまりに小さくて読めません。この絵日記の中に子ども達の生の声があるのでしょうか。これらの絵日記を中心にして壁新聞が作れないでしょうか？

こどもの声を生で聞きたい、こどもの字で書いた新聞を読みたい。無理な注文でしょうか？

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ
壁新聞のタイトル:①ひがしみねエコ通信 ②ミミズと環境との関わりについて学ぶ

東峰エコキッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
「ミミズと環境との関わりについて学ぶ」壁新聞(かべしんぶん)、ありがと
う！！これは壁新聞でなく、「ミミズ図鑑(ずかん)」とっていいぐらいのと
てもすばらしい新聞です！！ミミズのことがこのように え や しゃしん とい
しよに、わかりやすく、ていねいに、くわしくかかっている壁新聞をみたことが
ありません！！
ミミズというひとつのテーマなので、壁新聞をよんでくれるおともだちにきちん
とわかるようにつくられていて、とてもやさしい新聞ですね。師範(しはん)はこ
の壁新聞をよみおわったときに、とてもうれしくなり、うきうきして、わくわくし
て、かんどうしました！！いつまでもずっとこの壁新聞をたいせつにして、ほ
かのこどもたちにもみせて、おなじようにかんどうしてもらいたいとおもいま
す。ながいあいだ、このようなきちような壁新聞をまっていた！！ほんと
うによくがんばりましたね！！

とっておきのゴシドウ★
このミミズ壁新聞のつづきがあると、とてもおもしろいとおもいます。ぜひチャ
レンジしてみてください！！みなさんのおもい、たのしかったこと、むずかし
かったこと、くろうしたことなどのかんそうをみなさんのことばでかいてくれると
うれしいです。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★
子どもたちの言動から環境意識の向上が保護者にも広がっていくことを期待
しています。ぜひ保護者のみなさんまでさらに巻き込むようになさってみてくだ
さい。



栃木県宇都宮市 環境未来館こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:未来探検新聞 09-07

環境未来館こどもエコクラブの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
宇都宮に住んでいる人がみなさんの壁新聞を見たら、宇都宮の周りに
これだけ自然や環境のことが学べる場所があることに、びっくりする
と思います。環境のことだけでなく、地域のよいところがわかる、すてきな
新聞ができましたね。
使われている写真がわかりやすいので、さまざまな活動のことが書か
れていても活動の内容がよく理解できます。1年をつうじて、季節や場
所にあわせた楽しい活動をしていることが伝わってきますね。手書きの
メッセージや絵もいい味をだしています！とくにみなさんが書いた動物
の絵は、ふだんよく生き物を観察していないとかけない絵ですね。
それぞれの活動内容もタイトルをつけてうまく配置されており、見やすくできていると思います。



とっておきのゴシドウ★
写真はだいたい上手に撮れているのですが、一部撮っているものが小さくて、何の写真なのか分かりにくいものがありますね。
せっかくの写真がもったいないので、あとで(壁新聞などで)使うことを意識して、写真をとってみるといいかもしれません。ちょっど
よい写真がなかったら、イラストなど別の方法を使って説明してみてもいいですね。
カブトムシの幼虫の写真を大きく使っていて、それがこの新聞のインパクトになっています。すこし心配だったのは、虫好きな人は
よろこんで見てくれるいっぽう、虫が苦手な人はちょっとびっくりしてしまうかもしれないということです。そのような人がこの新聞を
見たときにも、虫のおもしろさがより伝わるような工夫を考えてみてはどうでしょう。みなさんでアイディアを出してみてください。こ
れからも楽しく「探検」を続けていってくださいね。

清原ねいちゃーきっずのみなさんへ

師範から一言！

ほいくえんのおともだちといっしょにたくさんエコのかつどうができましたね。

すごいです。

きぬがわは、どんなかわですか？すきですか？

ごみひろいのときに、みずにはいつてかわであそんだり、あみでおさかなをとれてよかったですね。

みんなでながしたアユがおおきくなって、きれいなきぬがわにもどってきていっぱいおよくいいですね。みんながかわをきれいにすると、おさかないっぱいのかわになるでしょう。みんなでおさかないっぱいのきれいなかわにしてください。

サポーターへのとおきのゴシドウ★

毎月の川でのごみ拾いはすばらしいです。また、川ではごみ拾いだけでなく、水遊び、ガサガサ、ひつつきむしなど自然と親しむような体験を取り入れ、楽しい活動にしていることが、壁新聞を通じてよくわかります。幼い頃に楽しい体験を重ね、川が好きになると、川を大切に思う気持ちも育まれることと思います。そのような子どもたちが増えるとこれからの鬼怒川も皆に大切にされていくのでしょうかと感じました。

他にも環境への関心を高めるエコ活動、自然の恵みへの感謝の気持ちを持つような料理、季節を楽しむ活動など日頃の保育の中でたくさん行われていてすばらしいです。

子どもたちの言動から環境意識の向上が保護者にも広がっていくことを期待しています。ぜひ保護者のみなさんまでさらに巻き込むようになさってみてください。

壁新聞のつくりとして、子どもたちのかわいい写真満載のタイトルも工夫され、イラストあり、メリハリもあり、サブタイトルも付いて、言うことありません！内容も見たい目もバッチリです！



栃木県栃木市 イオンとちぎチアーズクラブ

壁新聞のタイトル: ごみ・リサイクル

09-17

イオンとちぎチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

Reduce, Reuse, Recycle(3R)をテーマにまとめられたこの新聞、とりわけ、家庭製品のリサイクル工場見学は、普段の生活ではなかなか見ることができない場所を見学することができて良かったですね。電気屋さんなどで、新しいテレビとか冷蔵庫を買いとりサイクル料金を払う仕組みがありますが、実際に回収された製品がどのようにリサイクルされるのか、大人の人でも見に行けた人はそんなにいないと思います。この新聞で紹介されたことで、「へえー、そうなんだ」と思った大人も多いと思います。実は私も実際には足を運んだことがないので、とても勉強になりました。

その他に、ビンや空き缶、発泡スチロールなど使ったものをリサイクルに出し、リサイクルに出したものの行き先をしっかりと勉強することで、リサイクルの大切が実感できたと思います。

とっておきのゴシドウ★

資源を大切に使い、ごみを減らすためにリサイクルは大切な取組です。しかし、これまでたくさん環境活動を見てきましたが、日本の場合あまりにもリサイクルすればそれで環境にいいことができた、という活動が多いように思います。

3Rについて考える場合、一番始めにしなければいけないことは、ごみを作らない「Reduce」の活動です。ごみを作らない活動として「レジ袋をもらわない、食べ残しをしない」など、ごみを減らせる方法がいくつかは新聞にも書いてありますが、他にどんなことを考えつきましたか。そして、みんなで実際に実行できましたか。今回の壁新聞では、自分たちが実際に実践できたことを特集し、どのくらいごみが減らせたかなどぜひ教えて下さい。



真岡児童館やさしクラブみなさんへ

師範から一言！

まずタイトルがとてもステキです。明日もみんな元気に生きていける、地球の未来も明るくなる、そんなイメージが持てます。そして、真岡児童館やさしクラブの活動が長く続いていることも大変うれしく思います。たしか2年前もコメントを書かせてもらったように思うのですが、毎年多様な活動が定着しており、そしてそれがちゃんと社会の役に立っているところが、このクラブの凄いところですよ。今回の壁新聞で取り上げている古着の寄付は、日本だけでなく、国外にもつながった活動です。「世界規模で考え、地域で活動する」というエコ活動が実践されていてすばらしいです。

そして、平成28年から始まった割り箸回収、これも身の回りの資源を使っていく大切な活動です。児童館の中で、薪ストーブがあるのはとてもうらやましい。薪ストーブでの暖房、日本ではまだまだ広がっていない冬の暖かさをとる方法です。クラブのメンバーが冬は薪ストーブで暖をとることも、環境に配慮した生活を体感できるいい機会になっているのですね。

とっておきのゴシンドウ★

少し新しい見方で活動を始めてみませんか？

今回の壁新聞からも、真岡児童やさしクラブの活動は、リサイクル活動にたくさんの力を注いでいるように感じます。リサイクルの観点からペットボトルのキャップ回収は大切なことですが、リサイクルの事情も刻々と変わってきています。回収されたペットボトルの多くはアジアの国に資源として輸出されていましたが、近年受け入れてきた国が、もうこれ以上輸入しないことを決めています。また、プラスチック製品を使うことで海洋生物に影響が出るなどマイクロプラスチックの問題が世界中で取り上げられており、まずはストローをお店で使わないようにする動きもでてきます。ペットボトルもペットボトルキャップもプラスチックでできています。ペットボトルキャップ回収も大切な活動ですが、これからは、ペットボトル入りの商品を使わないで資源を減らすリデュースについてさらに活動を進めて欲しいです。



森の小人のみなさんへ

師範から一言！

みなさんのエコ活動を「考えたこと」「地球の問題」「実際にやってみたこと」「まとめ」という流れにせりりして作っているの、とても分かりやすくできていますと思いました。タイトルを黄色い紙で大きく作っていたり、特に知ってもらいたい内容を青い字にしたり、まとめを水色の紙で作るなど、色をうまく使っているところもとてもよいと思います。

メンバーがそれぞれ考えたことや活動の内容が具体的に書かれていて、みなさんの活動のことをよく知ることができますね。考えていることを話し合い、また出た意見や活動内容をきちんと記録しているからだだと思います。そのようなしせいが身についているクラブなのだなということが伝わってきました。

とっておきのゴシンドウ★

意見が書いてある付せんの紙が重なっていて、書いたことが見えないところがありますね。これは壁新聞を見てもらう人に、付せんをめくってみてもらうということなのかな？

もしそうなのだったら、紙をめくっても大丈夫なことがわかるよう、表現の工夫をしてみてもどうでしょう。「めくってみてね！」というメッセージをつけて分かるようにしたり、見る人がめくりたくなるような形(例えば窓の形のメモにして、開いてもらうなど)にしてみたり、いろいろと工夫ができると思います。

またすこし字が多い印象をうけました。書き方をかえて字の数を少なくしたり、絵を少し多くしてみたりしてもよいかもしれませんね。とはいいつつも、全体に流れをつくってまとめられているので、文字が多くてもとても分かりやすくできていますと思います。これからもみんなできいろいろと考えながら活動が続けていってくださいね。



ガールズのみなさんへ

師範から一言!

クラブ名がびったりの、かわいらしい壁新聞ですね。黒地の壁新聞はあまり見たことがありませんが、葉っぱの色とコントラストがあって目を引きまします。月に2回の活動は結構大変だと思いますが、みんなで楽しく活動できているのだと感じました。

足尾植樹は13回目とのことで、先輩たちから引き継がれている活動なのですね。また、植樹デイも22回目なので、地域に根付いている活動なのだと思います。

毎年参加していると、森の成長の様子がわかると思いますが、毎年写真を撮っておくと違いがよくわかると思います。川の生き物調査も、毎年記録をとって比べていくと、新しい発見もあるかもしれませんよ。

とっておきのゴシンドウ★

活動した中で大変だったことや苦労したことはどんなことですか? そういったこともふりかえりで書いておくと、来年活動する時に参考になると思います。また、エコキャンプで取り組んだことを、家でも取り組んでみましたか? 家では火おこしは必要ないと思いますが、食料や水を無駄にしないことは家でも取り組めます。

キャンプで学んだことを、ぜひ普段の生活でも活かしてほしいと思います。また、家で取り組んでみた感想も書いておくといいですね。



なかよしクラブのみなさんへ

師範から一言

なかよしクラブのみんなが作ってくれた壁新聞「防ごう! 地球温暖化」はとってもすばらしい新聞になっています。

どこがすばらしいか? まずCO2を少しでも減らしたいという「目的」を明確にして、その目的のためにまず私たちの暮らしや世界はどうなっているか? 地球温暖化とはどういうことか? 温暖化するとどうなるか? 温暖化を防ぐ新しい技術を知るなど「実態をつかむ」ために外部の専門家に話を聞きました。

実際に分かったので自分たちは何が出来るか? 何をしたら良いか? を考え「企画書」を作りました。企画書に基づいて「実せんしました」。グリーンカーテンを作りました。間伐をしました。植樹もしました。実せんだけでは、終わりません。自分たちのやったことを発表しました。多くの人に「伝えました」。

自分たちがやったことでどんなことを感じたか? 「感想」を書きました。自分たちの感想だけでなく発表を聞いたみんなの感想、意見もまとめました。最後に自分たちのまとめとして、これから何をするか? どうしたら良いかを「まとめ」ました。

ということでなかよしクラブの壁新聞は、目的、つかむ、考える、実せんする、伝える、まとめというストーリーで、読む人にとっても分かり易い、そして5年生としてはレベルの高い新聞になっていました。すばらしい!!

昔と比べるとなぜCO2が多くなったのか? ということは4年生の時に勉強したのだと思います。ですから電気の使用量を減らす活動を4年生の時にしましたね。CO2は木や石炭、ガス、石油など物が燃えると出ます。昔は木を燃やす暮らしが中心でしたが、その後、石炭やガス、石油を燃やしてエネルギーをたくさん作る世の中になりました。産業革命ということも習いましたか? 石炭を燃やして水を温めて水蒸気を作ります。この水蒸気の力で回転する動力を作り、汽車が動きました。工作機械が動いて品物がたくさん作れるようになりました。第二次世界大戦後は、石油が容易に手に入るようになり、エネルギーをたくさん作り、自動車が爆発的に増えました。自動車が走ると排ガスからCO2がたくさん出ます。もう一つ電気が容易に作れるようになり、電気製品が爆発的に増えました。電気はどうやって作るか? も習いましたね。石炭やガス、石油を燃やして(CO2が出ます)電気コイルを回して電気を作ります。でも、みんなの家にある電気製品からはCO2は出ません、その代わりに発電所でたくさんのCO2が出ます。



栃木県壬生町 なかよしエコクラブ 壁新聞のタイトル:防ごう! 地球温暖化

では、どうしたらCO2を減らせるか? 気象予報士や栃木テレビの方や自動車会社の人から話を聞きましたね。減らすためには、2つの考え方があります。エネルギーを作るためにCO2を出さないことと出てしまったCO2を減らすことです。

みんなは出てしまったCO2を減らすことを考えました。木や草や花などの植物は、空気中のCO2と太陽の光と水を養分として、くきや葉っぱや花などの体を作ります。果物やおいものような実も作ります。私たち動物は残念ながらCO2と光と水だけでは身体はできません。お米や麦、野菜などと肉などが必要ですね。

ということでみんなは、グリーンカーテンを作ろう。間伐をして木にたくさんの光を当てよう。植樹をして木を増やそう、という活動を実践しました。とてもすばらしい活動ですね。

グリーンカーテンはゴーヤの苗を買ってきて植えました。植えてお終いではないですね。みんなで協力して、順番に水やりをしたのですね。ゴーヤも出来ました。良かったね! 大きくなったのかな? グリーンカーテンを作ってみて、もう一つ大きな発見をしました。それは光をささげるので部屋のエアコンを使う回数や時間が少なくなったということです。省エネにつながったのですね。すばらしい発見です!

とっておきのゴシドウ

間伐もどうやるか? 単に木を切れば良いのではなくて、光が良く当たるようにするというので、川又ぞうえんさんのアドバイスでどの木を切るか決めたのですね。実際に切るのには機械が必要だったようです。年輪も調べたようですが、切った木は何年の木でしたか?

植樹と言うのは、ふだんはあまりやらないでしょう。草花を植えることは経験があるでしょうが・・・植えたあとは早く大きくなれと水をたっぷりとあげましたか? 植樹をした後のめんどうはどうやるのか? だれがやるのか? なども決めましたね。毎年、毎年、どの位大きくなるかはとっても楽しみです。この木は誰が、何年・何月に植えたかも書いておくと楽しみも大きくなるのではないのでしょうか。

電気自動車のすばらしさも体験しましたね。最後に私からみなさんに一つ質問します。みんなで考えてください。電気自動車は排ガスは出ませんのでCO2は増えません。でも電気は必要ですね。どうやって電気を作りますか? 今まで通りだと発電所からたくさんのCO2を出すよね。電気をどうやって作れば、CO2を減らせるかをみんなで話し合い、考えてください。

感想やまとめを読むとみんなの考えがさらに進んでいるのが良く分かり、この「防ごう! 地球温暖化」の活動がとてもすばらしい結果になっていることが分かります。自分一人では出来ることは少しかも知れませんが、なので、まわりの人たちにも話をして、みんなで活動を進めることの重要性が出ていますね。

栃木県壬生町 わくわくクラブ 壁新聞のタイトル:未来を守ろうSTOP THE温暖化大作戦!

09-14

わくわくクラブのみなさんへ

師範から一言!

目的とまとめがあって、3つの活動の記事があるのでとても分かりやすい新聞です。活動の成果をエコキーパーであらわしているのもいいアイデアだと思います。また、エコキーパーの数を「〇人」と具体的に書いてあるので、新聞を読む人にとっても参考になります。たとえば、来年は〇人を目標にしよう、と考えることもできますし、同じような活動をしてみようと思う人が目標をたてやすくなります。

福祉まつりでは、何かをつくる体験にたくさんの人が集まったようです。エコ活動の中に楽しさが必要だと思うので、マイはしづくりやマイバッグづくり等のクラフトはエコキーパーをふやす良い活動です。

活動の内容をECO テック&ライフとちぎで発表したことで、多くの団体の人たちに活動の輪(わ)がひろがったと思います。逆に他の団体の発表で参考になった活動もあったことでしょう。みなさんの活動をふりかえることも大切なので、さらにより活動になるように工夫をしていってください。

とっておきのゴシドウ★

エコ活動をするときは、その活動をすることによってどんなメリットがあるか考えていると思います。逆に何かデメリットがないかな、と考えてみることも大切です。たとえば、ゴミとしてすてないで洗って使うモノのメリットは「ごみがへる」ことで、デメリットは「水資源をつかう」などです。さて、日本の山の間伐材をつかった「わりばし」をたくさん使うことはどう思いますか?



きらりクラブのみなさんへ

師範から一言！

新聞いっぱい大きな木があり、葉やまるい木の実の形の中に記事がかかれていて、デザインのとても目をひきます。活動内容を手順(てじゅん)にそって、ていねいに書いてくれてあるので、新聞をよんだ人でやってみたいと思う人にとっても参考になると思います。

木のバッジ、木のペンダント、木のはしおき、木の鉛筆、かん板づくりのそれぞれのテーマに対して、しっかりとした企画書をつくっていて、すばらしいですね！企画書というのは、みんなで話し合って考えないと作ることができませんので、よい経験をしたと思います。

大きな木に貼り付けてくれたみんなの感想をみると、最初は大変だったこともみんなで力を合わせることでできたようですね。4月から活動して12月のパザーまで8カ月ありますが、写真はいつ頃のものですか？すべてがパザー当日のものであれば、写真の順番はないと思いますが、写真のはり方を工夫して、たとえば枝にそって新しい写真が枝先になるようにならべてもおもしろいかもしれません。

とっておきのゴシドウ★

森のめぐみの中で木の枝は私も大好きなもののひとつです。身のまわりには、香りのする木の枝がたくさんあります。クラフトに使うと、“森の香り”をまわりの人に届けることができます。香りのする身近な木はクスノキですが、みんなの森にはありますか？なければ、香りのする葉っぱがないか探してみることもおもしろいです。企画を考えること自体も楽しんでください。



キラキラクラブのみなさんへ

師範から一言！

「森となかよし新聞」のタイトルどおり、内容もいろいろな“なかよし”で統一されていて見やすい構成になっています。

カブトムシマシモンをどのように作ったか興味(きょうみ)があります。幼虫を1匹ずつ分けているのかな？それとも幼虫のエサとなる腐葉土(ふようど)をたくさんためて、その中にたくさんの幼虫を入れたのかな？イラストでカブトムシマシモンのしくみをかいてみるのもいいと思います。木のえだがいっぱいあるのは、天敵にねらわれないだけでなく、成虫がつかまる場所になったり、土がかわきづらくなったりとメリットが多そうです。すばこをデザインする前に古いすばこをとってかんさつして、いろいろな発見があったと思います。みんなが作るすばこを“どのようにつくって”“どこにつければいいか”参考になったことでしょう。森の生きもののつながりは毎年同じではないので、毎年子育てがおわったすばこをかんさつしながら、とりとなかよくなってください。

とっておきのゴシドウ★

オオムラサキがふえるためにはどのような自然が必要か考えてみましょう。カブトムシと同じように、一生をとおしてエサがあり、卵をうむところが必要です。オオムラサキの幼虫は何をたべますか？成虫は何をたべますか？幼虫はきまったしゅるいの木の葉をたべるので、植物のこともぜひ調べてみてください。



にこにこクラブのみなさんへ

師範から一言！

自然(しぜん)が季節(きせつ)の変化(へんか)におうじて見せてくれる
様々(さまざま)なすがたを写真(しゃしん)をとおして伝えてくれました。
木々の葉(は)の色をみると、赤、オレンジ、黄色から緑があり、緑の中
でも少しずつ色のちがう様々(さまざま)な緑がありますね。木のように
みると、写真に月日がかいてなくても季節を感じることができました。この
しんぶんをみた人それぞれが、またちがういろいろなことを感じ取っている
かもしれません。

写真の風景(ふうけい)をじっさいに見てかんじたことを、自分のことばで
書いてくれたので、その表現(ひょうげん)をたのしくよみました。たとえ
ば、「あたたかそうなゆたかなもり」「しんぷるなもりできれい」といった表
現から、森にしたしみをもっていることがよく分かりました。

とっておきのゴシドウ★

写真のコメントでは、色についてたくさん書いてくれましたが、なかには
「おちばをふむとパリッとおとが…」というものもありました。このように自
然の中でどんな“おと”をかんじたか書いてみると、写真を見ただけでは
わからない“おと”も伝わると思います。



すまいるクラブのみなさんへ

師範から一言！

秋をとて感じさせる焼きいもやリースなどのわだいがいっぱいの「北っ子の
森」での「しぜんのめぐみがいっぱい」壁新聞、ありがとう！！

自然がいっぱいつまっている学校農園でさつまいもの苗をうえて、草むしり
もしながらいせつにそだてて、しゅうかくして、焼きいもにして食べて、最後
にさつまいものつるでリース作りも楽しみ、さつまいもについての“フルコー
ス”の学習ができましたね。

ススキ、くつつき虫、落ち葉などでもお友だちといっしょにあそんでとてもすば
らしい秋のたいけんもして、楽しい時間をすごせましたね。さつまいものはた
け・うねつくりからしゅうかくまでの観察日記があると、さつまいもを育てたこ
とのないほかのお友だちにはその育て方がよくわかると思いますよ。秋の森
では木の実や草花のお遊び、いろいろなくつつき虫、紅葉(こうよう)などの
自然の遊びや勉強がいっぱいできますので、もっともっと楽しんでください
ね。

次回の「北っ子の森」の春の壁新聞を楽しみにしてまっていますよ！！

とっておきのゴシドウ★

このように楽しいゆたかな自然がいっぱいある「北っ子の森」に感謝しなければならなりませんね。このみじかな自然をいつま
でも楽しめるように、「北っ子の森」の自然を守るたいせつな活動もしなければなりませんね。

ちいきのみなさん、せんせいたち、お友だちといっしょにこのきちような自然をまもる活動もがんばってね！！



スター☆クラブのみなさんへ

師範から一言！

エコクッキングは楽しいしおいしそうですね。

またいろいろ作ってくださいね。どうしてエコクッキングと言うのですか？

のこさず食べるからなのか、ざいりょうがムダにならないようにつくるからなのか、地元のやさいやざいりょうを使っているからなのか、ガスや電気をあまり使わないからでしょうか？

まな板に牛乳パックを使うだけでエコクッキングというのも良いと思いますが、今度はもっともっとほかにもくふうして全国のエコクラブのみんなにかべ新聞で教えてください。

サワガニとりをしたり山登りをして良いなあと思います。

エコリンピックもバターづくりもたいへんだったでしょうね。むずかしそうです。

これからもかべ新聞やポスターをかいいたりしてまちや全国のみんなに調べたことやわかったことをしらせてほしいと思います。

がんばってください！

とっておきのゴシドウ★

エコバックづくりをしたのですね。おじさんもこどもたちと良くつくります。

たのしいですね。いちばんだいじなことは、じぶんでバックをつくって、かいものにもって行ってつかうことがだいじですよ。つかっていますか？ おとなになってもつかえるのでだいじにしてください。じどうかんに花もうえたのですね。

良く育ちましたか？ やさいやつるになってなつにじどうかんをすずしくしてくれるしょくぶつもまたうえてください。じどうかんがみどりでいっぱいになってきもち良いですよ。

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆

できるだけ生活に密着したものをエコ活動に選ぼうとするのは大事な事だと思います。

人間の暮らしと環境問題の繋がり、関連性を子ども達と一緒に調べたり考えながら、環境問題の大切さや課題と一緒に取り組んでいくのが一番大切なことだと思います。

ぜひ、子ども達と話し合いや振り返りを大事にしながら進めてください。

本当にご苦労が多いと思います。こどもエコクラブの子ども達と一緒に頑張ってください。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、食べものや生きもの、ゴミ問題や緑化等をテーマにして活動している団体が多いですが、これからは是非、こどもエコクラブの活動でも頑張ってください壁新聞で全国の仲間にご紹介ください。



群馬県沼田市 しらさわエコキッズクラブ

壁新聞のタイトル:①しらエコの一年間 ②私たちと地球温暖化

10-02、10-03

しらさわエコキッズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

かわいい絵が印象的な壁新聞。りんごの木にしたのは理由があるのかな。

まずは、しらさわエコキッズクラブの全体活動が分かる壁新聞ですね。沼田市に新宿の森があるとは知りませんでした。東京には森が少ないので、沼田市の森を守ること環境を守る気持ちを大切にしようとする取組なのでしょうか。東京の人との共同作業は楽しかったですか。年に一度の活動みたいだけれど、毎年いつ頃する行事なのですか。

それから、文化祭の活動では、エコ活動についてアンケートをしたとありますが、どんなことを質問したのかな。どんなことが分かったのかな。

それにしてもしらさわエコキッズさんは、自分たちで活動するだけでなく、他の人にも環境活動の大切さを伝える活動をたくさんしていますね。夕涼み会での尾瀬の動物や植物を発表や赤い羽根募金での活動発表、環境の大切さを伝える看板作り。自分たちが大事だと思っていることを他人に伝えることはとても勇気が要ると思うので、みんなすごいなあと感じてしまいます。

とっておきのゴシドウ★

たくさんの活動のなかから、活動の中から一つ特集記事にして詳しく報告してみてもどうでしょう。「一言」の欄でも書きましたが、文化祭でのアンケートなど、どんな質問をして、どんな答えが返ってきたのかとても知りたかったです。また、夕涼み会での尾瀬の動物や植物について発表したみたいですが、オコジョホネナってどんな動物だろう、と知りたくなりました。

ところで、壁新聞の一ヶ所に 500 って数字がはってあるんだけど、これって何かのクイズですか。あちこち答えらしきものを探したけど見つからなかった。謎の数字気になるなあ。

いずれにせよ、これからいろいろな活動を実践して、外の人にどんどん知らせていって下さい。



群馬県沼田市 しらさわエコキッズクラブ

壁新聞のタイトル:①しらエコの一年間 ②私たちと地球温暖化

しらさわエコキッズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

まず、この壁新聞は、とても読みやすい構成になっています。そして、地球規模の環境問題、地球温暖化というむずかしいテーマについてよくまとめることができました。「地球温暖化をなくすためには」の欄で、「今世紀末には世界全体で出す温室効果ガスを0にしなければならない」と書いていますが、これは大人1人1人にも知ってもらいたい目標です。

しらさわエコキッズのみなさんは勉強してこのように書いてくれています。日本ではこの目標を知らない大人がたくさんいるからです。また、メンバー一人一人が地球温暖化のことを学び、何ができるのかしっかり考えることができたことも、感想のコラムから感じることができました。

地球温暖化問題は、大きくてむずかしいテーマと感ずるかも知れませんが、私たち一人一人の行動が、地球温暖化を引き起こす温室効果ガス(CO2)を減らすことに繋がるので、ぜひ毎日気をつけて実行に移して下さいね。

とっておきのゴンドウ★

新聞の構成はよいのですが、文字が多いので、全部読んでくれない人もいかもしれません。例えば、作った看板の写真をいれるとか、活動の時の写真をいれるとか、もしくはイラストで説明するとかなどあれば、もっとみんなに読んでもらえる新聞になったと思います。

そして、感想の中でとても気になるものを一つ見つけました。涼愛さんの感想です。地球温暖化防止には自然エネルギー(再生可能エネルギー)の利用を増やすことが大切だと考えられています。しかし、日本のような狭い国では、太陽光発電とか風力発電の設備をどこに取り付けるかという問題がいつもあります。山等の自然を壊して取り付けてもいいの？という涼愛さんの質問は、環境問題が簡単に解決しない難しさを問いただしています。大人も自然を守りながら、太陽光発電などをどう増やしていけるのか、一生懸命考えながら活動しています。しらさわエコキッズのみなさんもぜひ一緒に考え、またいつか、考えたことなど壁新聞で教えて下さい。



埼玉県三芳町 竹の子エコクラブ

壁新聞のタイトル:竹の子エコクラブ

11-01

竹の子エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

ピンク色の紙面にいろいろな色文字を使って明るい基調(きちょう)でまとめるデザインの努力の跡(あと)が見えますね。

継続(けいぞく)メンバーが多いので同じ内容の活動が多くなっていると応募(おうぼ)用紙に書いていますが、子どもたちにとってはどれも初めての体験ということに気が付いて下さい。

ざっとみたところ、学校ビオトープの手入れ、ドングリ苗木(なえぎ)の育成などが記載(きさい)されていませんが、掲載(けいさい)した記事には、どんな活動をしたのか、子どもたちがどんな感想を抱(いだ)いたのか、詳しく書かれているではありませんか？中にはツリーイングというちょっとした冒険(ぼうけん)ものについて、私もやってみたいくなるような記事で面白く感じました。

とっておきのゴンドウ★

五つの記事にそれぞれ別の色の帯を下げて色文字で見出しをつけています。少し注文をつけると色帯と色文字のコントラストがはっきりしないために、紫(むらさき)の色帯部分など読み取れないところがありますね。こんな時には新聞タイトルで使っている白抜(しろぬ)き文字や白縁(しろふち)取り文字などを使うといいですね。次回、試してみてください。

記事のまとめ方や感想のポイントなどはとてもよくまとまっていると思います。クラブの人数が91人という沢山の子どもたちが参加しているのはとてもうれしいことです。特に落葉の肥料(ひりょう)の作り方のマンガには子どもらしい工夫がたくさんみられます。何といてもこの新聞のポイントはていねいに書かれた感想文ですね。落葉やエコ・クッキングは文字の大きさもそろえてくれましたが、生き物天国の感想文は文字が小さくて、ていねいに書かれていないせいか、読むのが大変でした。方眼紙(ばんがし)や原稿(げんこう)用紙を下敷きにすると文字があげばれずにきれいに並べることができます。次回試してみてくださいはいかがですか。



MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんへ

師範から一言！

まずは、平成 29 年度地球温暖化防止活動 環境大臣賞の受賞おめでとうございます！
地域に広がる様々な継続した活動が実を結んだことでしょう。

小学生から高校生までのメンバーのみなさんのチームワークの良さを感じます。

ゴミ拾い活動では、「きれいになってよかった」で終わらずに、グラフを使って昨年と比べてみることや、ごみ拾いについての討論をされているのがとても素晴らしいことです。

今回はごみが前年より減ったようで、皆さんの活動の成果が見えたようですね。

きっと、子どもたちのゴミ拾いの様子を見て、町の人たちのポイ捨てが減ったことでしょう。でも、毎月拾ってもまだごみが出てくるのは困ったことですね。このごみをなくす方法として、たばこ専用のごみ箱の設置と看板の設置などのアイデアが出ているようなので、まだまだやれることがありそうですね。引き続き頑張ってください。

とっておきのゴシンドウ★

様々な活動をされている中で、今回は、ごみ拾い関連の活動に焦点を絞って新聞にまとめてくれたのですね。そのために討論をしたことや、反省、まとめなどをされている奥深い活動の様子がよくわかる新聞となったのが良かったと思います。

「ふるさとキレイ大会 in 宮代」では、町の人たちも巻き込んで活動が広がり、とても素晴らしいです。

「ごみをポイ捨てした人と、全く関係のない人が拾わなければならないのかな・・・」の討論の意見のように、大人が捨てたごみ(たばこ)を子どもたちが拾うことをしなくてもすむような町づくりをみなさんの力で働きかけてください。ごみになるものを出さない(使わない)ようなごみ減量の呼びかけまでですむといいですね。期待しています！



千葉県市川市 イオン市川妙典店チアーズクラブ

壁新聞のタイトル:ゴミとリサイクル「わたしたちができること」

12-01

イオンチアーズクラブ市川妙典のみなさんへ

師範から一言！

ゴミとリサイクルについて、よく調べ、実際に活動し、考え、まとめていて素晴らしいです。クリーンセンター見学で、ごみ処理のしかたを学び、「わたしたちができること」までを考えたのはとってもいいですね。

河川敷のごみ拾いでも、数を数えて記録したことで、「ごみの見える化」ができ、ごみ問題について深く考えることができたと思います。6月と11月では、ペットボトルとたばこの量が大きく違っていたのが気になります。大雨の後？イベントの後？などごみの発生原因と合わせて考えると何かわかるかもしれませんね。ここでも、「わかったこと」をまとめているのがいいですね。

紙の博物館で、紙は何からどうやってできているのか、紙のリサイクルを学べたのが良かったですね。紙は木などの植物の繊維から作られること、紙づくりは、最後の最後まで無駄にせず活用していることがわかったことでしょうか、紙を無駄に使ったり、無駄に捨ててしまわないよう大切に使用していきましょう。



とっておきのゴシンドウ★

いずれも、子どもたちの「わかったこと」「できること」にまで落とし込み理解を深められたことが素晴らしい活動であったと感じます。リデュース、リユース、リサイクルがイオンのお店では実際にどうなっているのか、自分の家ではどのようにしているのかなども調べてみると、さらに自分ごととして捉えられるかもしれません。

また、活動のようすの写真があると、さらに楽しい雰囲気が加わって伝わると思います。

活動のテーマが年々変わってしまうかもしれませんが、河川敷ごみ拾いなど継続できるものは継続し、経年変化を感じたり、自分たちの活動の成果を感じられることでしょうかから引き続き取り組んでみてください。

ななちゃんズのみなさんへ
師範から一言！
たくさんエコかつどうして、かべしんぶんのタイトルとおりに「わくわくいっぱい」でしたね。カニがっぱの川、カメがっぱの川、アカガエルのだまごをまもっている池、海での貝さがしなど、それぞれのところで、たくさん発見(はっけん)があったと思います。
カニやザリガニをつかまえられましたか？いきものたちとなかよくなって、いきものがいっぱいいるような川や池、海になるように、いきものたちをまもってってください。
カニやザリガニ、貝のえがすてきに掛けていますね。よくかんさつしているのがわかります。これからもメンバーさんたちといっしょに楽しくかつどうをつづけてってください。

とっておきのゴンドウ★
ななちゃんが、自然と触れ合い、たくさん経験されているのがよくわかる新聞です。真ん中の川のイラストで、川から海へのつながりがひと目でわかる新聞にうまくとまっています。
昆虫やカニなどを「こわい、気持ち悪い」という子どもたちもいる中、幼いころから家族で身近な自然に触れられる機会をたくさん持っているようすばらしいことと感じます。
さらに、ななちゃんの感想などのコメントを壁新聞に記されると臨場感が増すかもしれません。今後も壁新聞を拝見して、ななちゃんのご成長を楽しみにさせていただきます。



津田沼イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！
小さい文字ながらよく見ると上手くまとめられている新聞になりましたね。食品ロスと廃棄(はいき)の問題をネタ元も書いているので記事もよくこなれているように感じました。食品ロス、農業体験、植樹祭、リサイクル工場見学、リサイクルプラザ見学、最後に堆肥(たいひ)作りを並べて、ストーリーをうまく作り上げています。これは44名のクラブ員の実力とこれまでにまとめたサポーターの先生の指導がよかったからだと思います。
新聞全体の印象は、文字は小さいですが、写真の配置やバランスがよく、コラムもまとめて書かれているので、読むのに苦労はありませんね。それぞれの記事の最後に子どもたちの感想が書かれていて、理解を深めてくれます。久しぶりに良い新聞を見ることができました。

とっておきのゴンドウ★
食品ロスと廃棄(はいき)の問題を取り上げただけでもこんなすばらしい壁新聞になるのですね。感心しました。
ひとつだけがんばってほしいところは「堆肥」です。これはてへんではなくつちへんです。「堆肥(たいひ)」ですね。よく見て下さい。字がちがっていますよ。繰り返して新聞に登場するので、きちんと直した方がいいと思います。



東京都中央区 中央エコキッズ
壁新聞のタイトル:エコ生活新聞！

13-02

中央エコキッズのみなさんへ
師範から一言！

メンバーで力を合わせて作った壁新聞ですね。一人ひとりが自分の担当分をしっかりと書けたのだと思います。
水色の紙に書いている東京スクエアガーデンのエコテクには、照明が自動的に消えたり、ペットボトルをリサイクルしたカーペットがあったりと、色々な工夫をしていることがこの壁新聞を読んでわかりました。「LED で植物を育てられることを知ってびっくり」と書いていますが、私もびっくりです。もう少し詳しく書いてくれると、うれしいです。
ピンク色の紙では、未来にあったらいいエコ商品が書いてありますが、なかなか斬新な商品が多いですね。中でも「手袋をつけて木をさわるともう一本でてくる」という商品は面白い発想だと思いました。自由な発想から、地球を守るアイデアが生まれるかもしれません。想像してみることは大事ですね。

とっておきのゴシンドウ★

3つのテーマを、紙で色分けしているのはとても良い工夫だと思います。枠で紙をくっつけているのも良いです。ただ、せっかく色分けしているのに、どの色に何の内容が書いているかの説明が壁新聞には書いていないように見えます。応募用紙には書いてありますので、それを壁新聞にもぜひ書きましょう。読む人がとてもわかりやすくなります。
黄色の紙には、自分たちにできるエコアクションを書いています。そこに書いたことをぜひ続けていきましょう。取り組んでみた感想も書くと壁新聞を読んだ人も「自分もやってみようかな」と感じられると思いますよ。



東京都新宿区 こどもエコ広場新宿
壁新聞のタイトル:こどもエコ広場新宿新聞

13-01

こどもエコ広場新宿のみなさんへ
師範から一言！

デザインが面白い壁新聞ですね。パズルのピースになっているのでしょうか？小さい写真の方も同じような形になっていて、凝っていますね。タイトルのレタリングも味わいがありおしゃれな感じがします。中高生やサポーターさんからも色々教わりながら、ステキな壁新聞を作ることができたと思います。
どの月の活動も楽しそうで、この壁新聞をみて「自分も一緒に活動したい！」と思う人がたくさんいると思います。中でも、私が一番興味を持ったのは銀粘土チャームづくりです。「銀粘土」という物を初めて知りました。葉っぱの形がついた自分だけのチャームはステキですね。使った葉っぱは、自分で好きなものを選んだのでしょうか？葉っぱによって色々な特徴があると思うので、じっくり観察してみるのもいいですね。

とっておきのゴシンドウ★

9月のガラスアート体験の中で「エコはちきゅうのかんきょうだけでなく、あそびにもつかえると知りました」と書いてありますね。エコ活動をしていく中で、大変なこともあると思いますが、少し視点を変えると、みなさんの活動のように楽しむこともできると思います。こどもエコクラブでの活動はもちろん、家や学校でエコ活動に取り組む時も、楽しんでできる工夫を考えてみるといいと思います。そうすると、長続きしたり、多くの人に参加してもらえたりすると思いますよ。



江戸川区立小岩第三中学校のみなさんへ
師範から一言！
大きな文字ではっきりと文章が書かれていて、とても読みやすい壁新聞だと思いました。「生物環境部」という部があるのですね。植物に関係する活動を色々行っていることがよくわかりました。屋上緑化で作った野菜を収穫して、みんなで食べるのは楽しそうです。グリーンカーテンは完成できなかったとのことですが、何か原因があるのでしょうか？うまくいかなかった理由を考察して、また来年チャレンジしてみてほしいと思います。
ウェルカムガーデンというのは、具体的にはどんなものですか？「生徒のやる気の向上」の効果がある、ということなので、学校のみんなからの評判が良かったのですね。ぜひこれからも手入れを続けていきましょう。

とっておきのゴンドウ★
みなさんは部活動で活動しているので、週1回とか、定期的に活動をしていると思います。なので、それぞれの活動について「いつ・何を・どのように」活動したのかは、もう少し具体的に書けるとと思います。例えば屋上の緑化については、4月に種を植えて、10月に収穫した、とか植えた植物の種類、週に1回雑草を取ったというような内容も書くと、みなさんがどんな活動をしたかを読む人がイメージしやすくなります。
また、「一言」でも書きましたが、うまくいかなかった部分は何が原因で、どうしたらよいのかを話し合ったり、調べたりしておくとかにつながるとと思います。普段の活動で、ふりかえりをしたり、記録を取ったりしていると思いますので、ぜひそれらを活用していきましょう。



港南台自然観察クラブ・クロロのみなさんへ
師範から一言！
身近な自然を春、夏、秋、冬と一年中楽しんでいることが伝わってきます。
春には、あたたかくなるのを待っていた植物が成長をはじめるので、サクラの花やフキノウなどを見つけると春を感じてうれしくなりますね。芽ぶいたばかりの植物はやわらかいものが多いので、山菜がおいしい季節でもありますし、昆虫たちもその葉を食べるために活動をはじめます。
どんぐりはススキのように風でとんでいくことができませんし、ひつつき虫のように体にくっつくこともできませんが、どのように広がっていくのでしょうか？下に落ちているどんぐりから芽がでているところを見つけたらじっくり観察してみてください。
葉っぱのグラデーションは、とてもキレイですね。いろいろな種類の葉がまざっているとは思いますが、このグラデーションを通して、緑色の葉が紅葉(黄葉)してから茶色にかれて土壌(どじょう)の一部になるまでの時間の流れをみることができます。
冬に生き物がいなくなった巣箱を見るのは楽しみです。巣箱の中に残った形跡(けいせき)をみて、利用した生き物のことを調べるのは、貴重な経験だと思います。どんな形跡が残っていたか写真やイラストで知りたくくなりました。

とっておきのゴンドウ★
ホタルの紙しばいは、ホタルのことを知ったり、観察マナーをしってもらったりすることができるので良い取り組みです。
セミの羽化、バッタ、カマキリを観察してみて何か発見がありましたか？見つけた昆虫は「そこで何をしているのかな？」「なぜそのような色、形なのかな？」と考えてみるとういと思います。



横浜ハッケンジャーのみなさんへ
師範から一言！

横浜市の数か所での水辺の生き物観察の記事を楽しく読みました。それぞれの場所で「わかったこと」を書いてくれたので、さすが“ハッケンジャー”です。日吉にトンボがたくさんいる湧水池があることは知りませんでした。ヤゴでみられる種と成虫でみられる種にちがいがいる理由を考えてくれているので、来年以降の観察でそれが確かめられるといいですね。一の谷と二ツ池はどちらもほとんど流れがない水であるのに対して、矢上川は流れがある水です。矢上川ではトンボの成虫やヤゴは見つかりましたか？水の流れのちがいによって、どのようなトンボが見つかるか調べてみるとおもしろいと思います。二ツ池では多様な種のトンボが見つかった一方で、外来種の多さにもびっくりしました。以前、数年のうちに一面ウシガエルだらけになった“ため池”を見たことがあり、外来種によって生物多様性が失われるのはやさにおどろきました。外来種はヤゴをたべてしまうだけではなく、池の中の植物をふくめた生態系をこわしてしまうので、どうしたらいいかみんなで考えたことを取り組んでみてください。

とっておきのゴシドウ★

水温と気温のデータはグラフにしてくれたので季節の変化がとても分かりやすいです。成虫で冬越しするトンボはたしかに少ないですが、ヤゴではなく卵で冬越しするものもあります。ヤゴは何を食べますか？冬は食べるものがあるのでしょうか？ヤゴで冬越しをするメリットが他にもあるかもしれませんよ。



横浜市立あかね台中学校 環境美化倶楽部のみなさんへ
師範から一言！

横浜市でゴミの回収負担額が一番少ない中学校の取り組みを教えてくださいありがとうございます。体操着のリユースを学校で回収しておこなっているのはユニークですね。新聞にのせてくれた写真では体育館履きも回収しているようですが、回収したものが次の新しい持ち主の手にわたるまでにどのようなことを誰がおこなっているのか興味があります。機会があればぜひ教えてください。学校でのエコ活動の気付きが、個人の生活エコにつながっているところがすばらしいと思います。人は生活していく上で少なからずゴミを出し続けてしまうので、中学校に在る間だけでなく、卒業してからもゴミを削減する取り組みを続けることができると思います。ゴミ箱は分別するようにしているだけでなく、一番多く出る燃えるゴミのゴミ箱を逆に一番小さくしているところがいいアイデアだと感心しました。

とっておきのゴシドウ★

ゴミ削減の活動が定着していると思いますので、ぜひ続けてください。エコ活動を持続するには、PLAN(計画)→DO(実行)→CHECK(確認)→ACTION(改善)を続ける必要があります。毎年同じ活動を実行している中でも、活動内容を分析、確認をして、さらに良い活動に改善してってください。



大鋸児童館こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！
いつも仲良く楽しく活動している様子がよく伝わります。それぞれが真剣に、字をていねいに書いたとのことですが、たくさんの人に壁新聞を読んでもらいたいという気持ちがよくわかります。文章と写真、イラストのバランスも良いですね。「どんなことが書いてあるのかな？」と思える壁新聞だと思いました。記事の中で、「比較」を上手にされていて、とても良いと思いました。水質調査では、去年の結果と比べていますね。続けて活動していると、過去の活動や記録をより活かすことができます。また、えだまめの花の写真を鉛筆と一緒にとっているのが、とても小さい花だということがよくわかります。ちょっとした工夫で、読む人に親切な記事を作ることができますね。
エコまるのコケ玉、とてもステキです。エコまるの正体は、コケ玉だったのかも・・・？自分たちで材料を集めて、オリジナルのものができて、良かったですね。

とっておきのゴシンドウ★
水質調査では、前日に雨が降ると水が濁っていることもあるので、前日・当日の天気も記録すると良いと思います。
コケ玉はその後、うまく育てることができましたか？コケが伸びたり、増えたりするのでしょうか？観察して、気づいたことをまたの機会に教えてほしいです。これからもメンバーで協力して、楽しく活動を続けていってほしいと思います。ていねいな壁新聞でとても読みやすかったので、また来年も壁新聞作りに挑戦してくださいね。



ミツ星エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
新聞のレイアウトが見やすく、見出しとともに「スクープ」「注目」「提案」の文字が見る人の目をひくように上手に使われています。
地域に活動が認められたとのことですが、おめでとうございます。活動3年目ということで、色々なことにチャレンジしながらエコ活動をつづけていることがまわりの人にも伝わっているということですね。
「プラスチック環境問題」は、最近いろいろなところで耳にします。今日はプラスチックではなく、紙のストローをくばっているところを見かけました。なぜプラスチックが海や海洋生物によくないかという理由とともに、イラストを使って分かりやすく説明してくれています。そして、早速ペットボトルのかわりに学校に水とうをもっていっているようですね。これからも気づいたことについて、何ができるか考えて、行動にうつすことをつづけてくれるといいと思います。

とっておきのゴシンドウ★
ミツ星クラブのみなさんは、「提案!!」のマイバックをどのように見直しますか？エコ活動は答えが一つだけはないので、人それぞれ自分ができる行動をすればいいと思います。私はエコイベントで頂いた布のマイバックを一つ持ち歩いています、多くの店で商品としてマイバックが売られているのを見かけるようになりました。



第二上田小学校エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

一年中上田の自然を楽しんでいて、まさにタイトル通り「楽しいよ 上田の自然」ということが新聞から伝わってきます。初夏から秋にかけては植物の生長や生き物の活動が活発になるので、とくに6月～9月は活動もりだくさんですね。

自然とふれ合う活動をしたり、新聞を作ったりすることによって気付いたことを感想として書いてくれています。上田エコクラブでは新聞をつくっている4年生だけでなく、他の学年や先生、さらに保護者や地域の方からの感想もあるので、下の学年にバトンをつなぎ地域として取り組んでいることが感じられます。

「ウォークラリー」の記事にかいてくれましたが、「上田にはのこしていきたいのがたくさんある」と感じた気持ちを持ちつづけてください。

上田エコクラブのみなさんは自然を体験して楽しむだけでなく、人に伝える活動をたくさんしていますね。この新聞もその一つですが、「学習発表会」「科学研究発表」「愛鳥ポスター」などです。3月の東京エコフェスタでは、多くの仲間とお互いの活動のことを知ることができたと思いますので、人に伝える活動もぜひつづけてください。

とっておきのゴシドウ★

「宝さがし遠足」の“色やにおいを手がかり”の植物さがし楽しそうですね。私も植物の香りを楽しみながら自然の中を歩くのが好きです。アオダイショウを見つけたときはドキッとしたかもしれませんが、それはホンモノだからです。自然の中で見つけるものだけでなく、実体験自体が宝ですね。

すでに作っているかもしれませんが、見つけた宝(生き物、植物)をどこで見つけたかマップを作ってみると記録として、また他の地域の友だちに伝えるのにもいいと思います。



富山県高岡市 高岡市役所 保育園合同クラブ

壁新聞のタイトル:だいすきたかおか ちきゅうにやさしく プロジェクト

幼児 16-01

高岡市役所 保育園合同クラブのみなさんへ

師範から一言！

メンバーのみんなへ

みなさんが ゴーヤの みずやりを がんばったので、とてもすてきな みどりのカーテンが できましたね。ゴーヤが おおきくなり、はながさき、みができるあいだに、たくさんの はっけんも しましたね。みどりのカーテンと うちみずで あついなつを すずしくする くふうが できました。ほかに おんだんかのおはなしを きいたり、はがきを リサイクルしたりと、エコかつどうを がんばってくれています。これからも げんきに たのしみながら エコかつどうを つづけてください

ね。高岡市の保育園・幼稚園の合同エコクラブが、すてきな壁新聞で活動を報告してくれています。なんと、15もの保育園・幼稚園でそれぞれ活動をされています。

メインプロジェクトのゴーヤのグリーンカーテンは、毎年取り組まれています。ゴーヤの生長に負けないくらい子どもたちも成長して、たくさんの発見や感激があったことが伝わってきますね。子どもたちの文字やイラストもあり、楽しく分かりやすい壁新聞です。

市役所の方や地元企業の方と一緒に開催されている環境教室も、とてもすてきな取り組みだと思います。温暖化問題やごみ分別について、子どもたちが知識を得たというだけでなく、「大人も、会社も、地域も、環境問題に取り組んでいるんだ」ということを子どもが実感できるのはいいですね。ごみ分別をゲームにするなど、子どもたちが楽しめるようにされているところもすてきです。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

毎年継続して取り組まれているので、植物の生長を喜んだり、環境問題に関心を持ったり等、子どもたちの心に自然と育まれていると思います。また、子どもがゴーヤのことを家で話をしたり、はがきのリサイクルの協力を呼びかけるなど、園からそれぞれのご家庭へもすてきな影響があるのではと思います。環境教室で企業の方のご協力があったりなど、今回の壁新聞を拝見して、園にとどまらず地域にエコ活動の輪が広がっていることを感じました。

例えば園で毎年行っている行事の中にも、ちょっとだけエコを取り入れられないかなあと考えてもらえるとうれしく思います。これからも、それぞれの園にあった形で、すてきな活動を継続してくださいね。



立待エコアクション①の新聞を書いたみんなへ

師範から一言！

「立待っ子新聞」に、とてもおもしろい、くわしい、うきうきする、勉強になるサケと
ドングリの記事(きじ)を書いてくれて、ありがとう！！

サケの一生では、サケの卵をペットボトルでふ化させて、日野川にそのちぎよを
はなして、アラスカやベーリング海まで長い旅をして、3年から5年後に卵をうむ
ために日野川にもどってくるという行動は、「ふしぎななぞ」ですね。この「ふしぎ
ななぞ」がとけたら、ノーベル賞をもらえるかもしれませんね。この「なぞ」がとけ
るようにがんばってほしいと思います。

また、「どんぐりは虫のゆりかご」ということばは、ピッタリで、とても気に入りました
ので、ほかのこどもたちにもひろげたいたいですね。コナラなどの木にはシギ
ゾウムシとハイロチョッキリなどのゾウムシの仲間がこの「ゆりかご」の中でね
ていますね。でもマテバシイという木のドングリは、なかなかこの「虫のゆりか
ご」が作りにくいようで、さらにテーブルや机の上で立ちますので、部屋の中でア
クセサリーになりますので、一度ためてくださいね。またドングリはつまようじ
などをさして「コマ」を作ったり、「やじろべえ」を作ったりして、いろいろなクラフト
工作にむいていますね。

とっておきのゴシドウ★

森の中で芽(め)をだしているコナラなどのほとんどのドングリを観察すると、冬のはじめに「とがった方」から芽が出て、その芽
は地中にむかってのびて「根」になります。そして、しっかり根をはってドングリ全体をささえられるようになると、春に2枚のはっ
ぱがひらきはじめ、その2枚の葉っぱが分かれる部分から「幹」(みき)になる芽が空にむかってのびていきます。壁新聞のドン
グリの絵の中の「根」がドングリの下の方から出ているように書かれています。ドングリの「とがった方」から芽が出て、その芽
は地中にむかってのびて「根」になると思います。ぜひ観察してみてくださいね。



立待エコアクション②の新聞を書いたみんなへ

師範から一言！

「立待っ子新聞」にはカエルとトンボの一生(いっしょう)、ドングリニュースとサケの
食べものなどの楽しくて、おもしろい、わくわくする記事(きじ)がたくさん書かれてお
り、それぞれの絵がとてもじょうずに書かれ、わかりやすい新聞ですね！！あり
がとう！！この絵のカエルの種類の名前がわかるとうれしいです。

立待地区にはいろいろなトンボがいて、夏にはトンボのけんきゅうやちょうさができ
ますね。ドングリを食べるいろいろな動物にもおどろきました。約1万5千年前から
約2千3百年前の日本の縄文時代(じょうもんじだい)の日本人はマテバシイやスタ
ジイのドングリなどをおもな食料(しょくりょう)として食べていたそうです。またサケ
の食べ物のプランクトンは夏と秋ではちがうことも知りました。この壁新聞で立待地
区には自然がいっぱいで、どのようなところかもっと知りたくなりました！！

次回の壁新聞を楽しみしてまっていますよ！！

とっておきのゴシドウ★

立待地区のこのようなすばらしい自然やかんきょうをいつまでも地区のみな
さんやおともおだちといっしょにたいせつにまもっていかなければならないと
思います。次回の壁新聞でこのような自然をまもる活動をしようかいしてもら
えればとてもうれしいです！！



坂口エコメイトのみなさんへ

師範から一言!

コウノトリがすんでいるというのが東京に住んでいる僕からすると、とてもうらやましく感じます。コウノトリがそこにすんでいるということは、食物となる生き物もたくさん必要になりますね。食物がなければずっとすみ続けることはむずかしいと考え、どんな生き物がいるかを実際に調べてみた「行動力」、そしてそれを続けている「持続力」、これがすばらしいと思えました。コウノトリの食物となるドジョウをはじめとする生き物の数も少しずつですが増えているようですね。どうしたら食物となる生き物がもっと増やせるでしょうか? そしてオタマジャクシがふくらんでしまった原因は? 次の新聞ではその答えを教えてくださいね。

とっておきのゴシンドウ★

エコクラブ活動も地道に続いているようで何よりです。コウノトリがすむことのできる環境づくりのためにアメリカザリガニの駆除、セイタカアワダチソウの駆除、無農薬の田んぼなどの活動も大切なことですね。

ではコウノトリの食物となる生き物はどうすればもっと増えるでしょうか? 例えば「ドジョウ」を鑑賞魚店やスーパーで買ってきて放すのでは、たとえそれが日本のドジョウでも、もともといたのとはちがった遺伝子をもつドジョウ(国内外来種と言います)の可能性もあります。コウノトリを保護するために、外来種を放してしまうのでは、坂口地区の生態系を考えるとよくないことです。今いるドジョウを増やす方向で考えるのが一番だと思います。ドジョウはどのような環境を好み、そしてどのように繁殖して増えるのか? ドジョウを増やすにはどのような場所を作ればいいのでしょうか? これからも活動が続けていく中でいろいろな問題は出てくると思いますが、ぜひコウノトリのすみ続けられる「坂口地区」となることを目指してがんばってください。



和泉エコクラブのみなさんへ

師範から一言!

ぱっと見た時に、とてもカラフルできれいです。色紙を切ってつくった野菜などを背景に使う工夫がすばらしいですね。

写真をたくさん使ったり、コメントを吹き出しや色紙で囲ったりしているのもわかりやすいです。文章を多く書かなくても活動の様子がよくわかりますし、新聞全体から「元気で楽しそう」な活動のふんいきが伝わってきました。食べられなかった野菜が、食べられるようになったのはすごいことですね。自分たちでつくった野菜は美味しかったです! また山や川などの自然はとても気持ちがよさそうです。私も山梨県のきれいな川に行ってみたくまりました。楽しみながらエコを考えていけるのは、すごいことだと思います。

とっておきのゴシンドウ★

みなさんが活動している甲府周辺の地図を真ん中に使ったのは、とてもよいアイデアだと思います。

その地図に書いてある地域と、周りに書かれている内容がどうつながっているのか、より具体的に書いてみてはどうでしょうか(たとえば南部市民センターでは、いつなにをやったのかなど。日記では「いつどこでなにをやったか」を書きますよね)みなさんの活動の様子が、読んでいる人にもっと伝わりやすくなるかもしれません。

またやったことだけでなく、活動を通じて思ったことや気づいたことなど、みなさんが考えたことももっと知りたいな、と思いました。これからも楽しく活動が続けていってください。



一般社団法人飛騨シュールのみなさんへ
師範から一言！

みなさんで工夫した、地球の貼り絵が目を引きますね。「生活に役立つ楽しいエコ新聞」のタイトルのとおり、みなさんが楽しく活動した内容がていねいに書かれています。

服で作ったバッグ、実物を見ました。元々の服の形をうまく利用して作っていますね。簡単に作れそうなので、気に入っていた服で何個も作れば、その日の気分に合わせて使えますね。

「電気のエコ」の記事で、いいなと思ったのは「ご飯を食べているときはテレビをつけない(土日は見てもいい)」という部分です。最近ご飯を食べているときに、スマホを使っている人もいるかもしれませんが、家族や友達といろいろお話ししながら食べるのもよいと思います。でも「土日は見てもいい」というところは、良い工夫だなと思います。それは、エコの取り組みは「ご飯を食べている時は絶対テレビを見ない」というように目標を厳しくしてしまうと長続きしないからです。大事なことは、続けられることです。このように少し余裕を持った目標から始めるのは良いと思います。他のエコ活動でも意識してみてください。

とっておきのゴシドウ★

それぞれの記事について「タイトル」を付けたり、枠で囲ったりしてみると、もっと読みやすくなると思います。また、ぜひみなさんのクラブの自己紹介があると、読む人が「どんなクラブなのかな」とイメージがしやすくなると思います。一年間いろいろな活動をしてみて、一番印象に残ったことや、これからやってみたいと思ったことなどを少しでいいので、クラブ内で話し合っ、壁新聞に書けるといいと思います。一年間のふりかえりになって、次の活動の計画にもつながっていくと思います。



清水イオンチアーズクラブAの新聞を書してくれたみなさんへ
師範から一言！

みなさんの、この年の活動テーマは「動物」と聞きました。様々な活動や勉強をされたようですね。今回の新聞では、そういった学んだ経験や知識がよく伝えられていると思います。

今回の新聞記事は「オラウータン」と「ミツバチ」の生態がメインになっていました。一見、別々の生き物ですが、どちらも生活に必要な油やハチミツのことにつながって、より身近な問題として考えなければいけないことを伝えていきます。環境問題は、以下に人々に身近な情報や問題として伝えることが大切ですので、とてもよい試みだと思います。

また、2つの記事とも、その「動物」に関わる人にインタビューを行い、普通では気が付かない情報を探ることも出来ていますね。身近な仕事の中から、世の中の環境問題を考えていくきっかけになることが伝わる記事になったのではないかと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回の記事では、いくつかの「対比」による記事の見せ方が使われていましたね。まずは「オラウータン」と「ミツバチ」の生態、そしてオラウータンの生態では、「野生」と「動物園」のオラウータンのちがいです。そこには、共通するところも、まったくちがうところの差もあって、この新聞の読む楽しさにもつながっています。

ただ今回の壁新聞では、その「対比」や「ちがい」が一目では分かりづらいので、一見しただけでその記事の面白さが伝わるような「見出し」や「配置」を工夫してみると、もっとたくさんの人に興味を持ってもらえると思います。

今のたくさんの情報があふれる時代では、情報を載せるだけでは、どんなに大切なことでも、伝わりづらく、伝わらなければ世の中を変えることもできません。「伝える力」をより工夫して、みなさんが感じた大切な情報や問題をより多くの人に伝えることができれば、きっとよりよい社会づくりにつながっていくと思います。



静岡県静岡市 清水イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:みじかなとりとわたりどり

清水イオンチアーズクラブBの新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

みなさんの、この年の活動テーマは「動物」と伺いました。様々な活動や勉強をされたようですね。今回の新聞では、そうした学んだ経験や知識がよく伝えられていると思います。今回の新聞記事では、「とり」と「駿河湾のいきもの」を取り上げたのですね。写真もありますが、みなさんがよく観察して書いた「絵」がとても上手に描かれていて、大変わかりやすいです。こうした絵を書くというのは、写真とはちがい、その特徴を伝えるのにも大変役立ちますし、自分自身も大変勉強になります。デジタルカメラやパソコンなど、いろいろ便利になりましたが、こうした絵をたくさん活用したことは、みなさんの成長のためにも、とても良いことだと思います。



また、生き物たちの生活を、調査した場所だけではなく、別の環境とのつながりも調べて伝えていることもとても素晴らしいです。周辺の環境や地図、断面図など、見せ方にも工夫していますね。野生の生き物は、動物園のように同じ環境だけで生きていくことはできません。多様で広大な自然があって、生き物たちの生活が成り立っています。そのことがわかりやすく伝わる記事になりましたね。

とっておきのゴシドウ★

今回の記事では、「みなさんが気がついたこと」、そしてその気がついたことから「調べたこと」がとてもよく書かれています。みなさんの中での自然の不思議、発見の喜びが伝わってきましたよ。では、そうしたみなさんの「想い」を、他の人達にもわかりやすく伝えるように工夫してみましょう。

今回の新聞には、とても多くの情報が掲載されていました。「シラウオ」の記事では、シラウオの情報から川と湾の生き物の話、外来種の問題、漁協のしごとなど多岐にわたっています。でも、たくさんの情報があるから、たくさん伝わるというわけではありません。見出しが「キレイ好きな魚シラウオ」だったので、シラウオとそれにつながる情報にしばって話題を提供したほうが、よりみなさんの想いが伝わりやすいと思います。1つ1つの情報の見せ方はすばらしいので、新聞としての情報の見せ方に対する工夫も今後たくさんできると思うので、これからの活動報告を楽しみにしています。

静岡県静岡市 しみずっこエコクラブ
壁新聞のタイトル:自然での人と生き物の関わり方

22-03

しみずっこエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

私は公園づくりも行っているのですが、今回の記事の舞台になっている公園にも、とても興味を持ちました。自然を活かした施設づくりやテーマが設けられていて、すてきな公園ですね。

さて、今回の新聞のすばらしいところは、理由ややり方もしっかり伝えているので、読み手にわかりやすいことですね。記事を書いた人の思いを感じること、この新聞にかかっている内容を、よりよく理解できました。

また、今回の新聞では、地図を元に探索したことが書かれているのですが、この方法は、対象とした環境を読み取って現状と問題点をしっかり把握することに長けています。1つの公園の中ではなかなか内容に違いがでにくくて説明がむずかしいのですが、今回の新聞では、いろいろなテーマからその特徴をよくつかんで説明ができています。そして、その中で「対比」をつかって、読者にちがいをよりはっきり伝えることが出来ているものすばらしいですね。公園の中にこんなステキな案内があったら楽しいだろうなと思います。



とっておきのゴシドウ★

今回の新聞は、ほぼ一人で取材、作成、構成まで行ったのですね。とてもがんばりました。最初から最後まで自分で経験すると、作業の全体の流れも学習することができます。また、記事にも統一性ができるので、伝えたいことがはっきりわかりやすくなります。特に読み手のことを考えながら記事を考えたり、わかりやすく伝えられるよう1つ1つ工夫していますね。きっと伝えたいことがはっきりイメージできているのでしょう。

その反面、複数の人で新聞をつくるメリットもあります。別の視点で記事を見直したり、より多くの工夫やアイデアが生まれながらつくることができます。今回完成した新聞には、まだまだ余白もあったので、そこに他のメンバーの感想や、絵などが入ってもいいですね。

私が公園を計画するときにも、決して一人の思いだけでなく、たくさんの利用者の思いに答えながら、その場所の自然をいかに活かせるか、ということを考えています。そのため、いろいろな人の意見を聞いたり、アイデアをもらいます。ただ、みんなの思いに答えるだけでは、それはなんの特性もない公園になってしまうことがあります。まずは自分でしっかりテーマを考え、その目的と理由を設定することが大切なのは、新聞も公園づくりも同じなのかもしれませんね。

静岡県三島市 三島本町チアーズクラブ

壁新聞のタイトル:海の手でまでいて7 ①②枚ぐみ

22-10、22-11 全2枚

マックスバリュ EX 三島本町チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

2枚続きの大作ですね！川から深海までのつながりを見るといろいろな問題点も見えてくるものですね。

まず源兵衛川ですが、すんでいる生きものを見ると水質のいい川だというのがわかります。今となつては貴重な生きものがすんでいる川の自然、大切にしたいですね。

サクラエビは静岡産が100パーセントを占めています。いつまでもサクラエビの採れる駿河湾であってほしいと願います。深海水族館も全国的に有名な水族館ですね。タカアシガニにしても、マダイにしても、改めて三島は海にめぐまれた場所であることがわかります。しかしそのような場所でもゴミが多いという問題点があるようです。みなさんの海を守ってこうという決意、この気持ちがあればいつまでも豊かな恵みをもたらしてくれる海を守っていけると信じています。



とっておきのゴシドウ★

きれいで豊かな海、しかしゴミという大きな問題をかかえている、ゴミ拾いをするみなさんの活動はとても重要なものなので、新聞の次号も期待しています。

次は、実際にその現場の写真、そして何が一番多くて、どうすれば減らすことができるか、そのためにはこのようなことが必要だ、このようにすればいい、といった感じの今回の問題点をさらに掘り下げた内容の新聞をつくり、全国のお友達が読んでさらに役に立つような新聞を待っています。悲しいことですが、こういう問題は全国の各地で起こっていると思います。みなさんで協力して自然を守っていきましょう。

静岡県三島市 三島市環境探偵団

壁新聞のタイトル:H29 年度三島市環境探偵団①～④

22-12～22-15 全4枚

三島市環境探偵団①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

エコセンターで学んだことと、富士山に行った日の活動について、わかりやすくまとめていますね。

自転車発電では、電気を作る大変さを、体験を通して感じる事ができたと思います。富士山はみなさんにとってはとても身近な存在だと思います。見ているのと、登ってみるのでは印象もずいぶん変わったのではないのでしょうか。三島から見ると青と白だった富士山が、実際は茶色の地肌だったというのは、面白い発見でした。なぜ茶色い山も遠くから見ると青く見えるのでしょうか？不思議ですね。ぜひ調べてみて下さい。

とっておきのゴシドウ★

2つの活動について壁新聞にまとめていますが、ぜひ活動日を書きましょう。富士山に登ったのは夏だと思いますが、夏でも上着を着ないと寒いくらいということが、わかりやすくなります。

エコセンターでの活動で食品ロスがたくさんあることを知りましたね。生産者の人が一生懸命作ってくれた食べ物が、捨てられてしまうのは悲しいことです。食べ物を作るのにかかるエネルギーも無駄になってしまいます。食品ロスをなるべく小さくするために、これからみなさんはどんなことをしようと思いましたか？小さなことでもいいので、自分にできることを考えて、取り組んでいきましょう。取り組もうと思ったことを壁新聞に書けるとよいと思います。



三島市環境探偵団②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

夏の活動では富士山に登ったのですね。みなさんにとってはとても身近な山だと思いますが、登ったのは初めてでしたか？富士山に生えている植物は、標高が高くなると少なくなっていくと思います。成長するのに2つのタイプがあるそうですが、それも標高と関係があるのでしょうか。くわしく調べてみるといいですね。

アサギマダラに書いた電話番号に電話はありましたか？一体どの辺まで飛んでいくのでしょうか。電話番号を書いたアサギマダラを、全国のエコクラブの仲間が見つけてくれたら、とてもステキなことですね。

とっておきのゴシドウ★

①の壁新聞のゴシドウにも書きましたが、活動日や活動人数は基本的な情報です。書くと、自分たちの記録としても役に立つと思いますよ。

風力発電と水力発電については「ひつような時にひつようなぶん電気が作れないこと」がわかりました。とても大事な発見だと思います。自然エネルギーは火力発電のように二酸化炭素を出さずに電気を作ることができ、温暖化を防ぐことにつながると期待されていますが、弱点もあります。自然エネルギーに頼るだけでなく、私たち一人ひとりが電気をムダに使わない工夫が必要ではないのでしょうか。自分にできることはどんなことだと思いますか？考えてぜひ行動していきましょう。



静岡県三島市 三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:H29 年度三島市環境探偵団①～④

三島市環境探偵団③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
文字がはっきりしていて読みやすい壁新聞ですね。注目してほしいところは色を変えるなど、メリハリもあってよいと思います。富士山では植物についてのお話を聞いたそうですが、どんなお話でしたか？撮った植物の写真で、それぞれのお気に入りの一枚を選んでみるのも良いと思います。
エネルギーについて学ぶ活動では、地球温暖化との関係を学びました。現在、多く利用されている自動車は、ガソリンなどの燃料を燃やしてエネルギーを得て走っています。その際に二酸化炭素が発生するので、電気自動車の方が温暖化対策に有効と考えられています。でも、通常の自動車と火力発電が温暖化の原因につながるというのは、直接関係する話ではありません。そこはよく整理しておきましょう。
とっておきのゴシドウ★
富士山に登ったり、エネルギーについて学んだりして、これからみなさんが取り組んでみようと思ったことはありますか？富士山にいるたくさんの動物や植物が、これからも生きていけるようにするには、どんなことが必要でしょうか？温暖化を防ぐために、自分が家や学校でできることはどんなことでしょうか？小さなことでもいいので、自分ができていることを考えてみるのが大切です。そのアイデアをクラブで話し合ったり、壁新聞に書いてみると、さらに読みごたえのある壁新聞になると思うので、ぜひ挑戦してみてください。



三島市環境探偵団④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
「身近な自然に親しもう」の記事では、地元三島の様子について書かれていますね。私は三島市に行ったことがありますが、街の中を川が流れていて、とてもよい雰囲気だと感じました。いろいろな生き物が川に住んでいることが壁新聞からわかります。川はずっときれいだっただけではなく、みんなでがんばってきれいにしてきた、というのはとても良い気づきです。身近な自然は当たり前前に存在するのではなく、とても貴重であるということを実感しなければ、それを大切にしようと思うこともないですね。
エネルギーについて学んだ際には、自転車発電で電気の大切さが体感できたと思います。「つかれた～」という絵がそれを物語っていますね。
とっておきのゴシドウ★
みなさんが体験から学んだことを、これからどう活かしていくか、ぜひもう一步踏み込んで考えてみましょう。川を汚さないようにするために、具体的に自分ができていることはどんなことですか。まずは小さなことでもいいですし、いろいろ考えた中で一つだけ取り組んでみるのもよいと思います。自分が取り組もうと思ったことを、みんなで話し合っ壁新聞に書いてみてほしいと思います。



静岡県富士市 愛鷹アースレンジャー
壁新聞のタイトル:ハコネサンショウウオ新聞 22-09

愛鷹アースレンジャーのみなさんへ
師範から一言！
まずはハコネサンショウウオが見つかってよかったですね！山の方は湧き水のおかげで大雨でも水の量はほぼ変わらなかったとのこと。山の水をためておく力(保水力)のすごさそして大切さがわかります。来年もたくさんのハコネサンショウウオに出会えるといいですね。
最後のおじいさんの話を読むと、50年前はたくさんの鳥が来て、今よりもたくさんの植物や生きものがいたようですね。サンショウウオも食料になっていた。今となっては想像しかできないのは悲しいものです。ですから、今ある自然を少しでも残していければいいですね。

とっておきのゴシドウ★
これはおもしろいことなので、ぜひハコネサンショウウオはどういう場所にすんでいるのか？それはどうしてか？他の生き物にはどんなものがいたか？山の湧き水の働きとからめて、全国のお友達に教えてあげてほしいと思います。
おじいさんの若いころの豊かな自然に少しでも近づけるように、私たちが何をすればいいかが、そこから見えてくると思います。



原田湧水クラブのみなさんへ

師範から一言!

原田湧水クラブのみんなが作ってくれた壁新聞は、新聞の大きな見出しの“サワトラノオまもう大作せん”に書いてあるようにサワトラノオを中心に浮島ヶ原自然公園の貴重な生態系をたっぷりと書いてくれて、とても分かり易い新聞になっています。

写真がいっぱいで、切り絵もたっぷり、みんなの元気な顔もあって、新聞を作っている時も大変楽しくやっているんだろうなと感じられます。サワトラノオだけでなく、この浮島ヶ原自然公園には、タコノアシ、ヒノキカサ、ノウルシ、ナヨナヨワスレナグサなどの絶滅が心配される貴重な植物がいろいろとある自然公園ですね。これらの大事な植物を守るために要注意外来生物のセイタカアワダチソウを抜き取るだけでなく、やり投げで楽しんだり、同じように要注意外来生物のアメリカザリガニ釣りの竿を作ったりして釣りを楽しんでいるようですね。まじめに、使命感をもってやるばかりではなくて、遊びの要素を入れて楽しく自然保護活動をしているのがとてもすばらしいです。ヨシが増え過ぎるとサワトラノオなどが日かげになると言うので、ヨシも刈るようにしています。そしてヨシの葉もちを食べる。ヨシの葉の香りがしておいしいようですね。

5月には、サワトラノオ祭りでタンポポ、スギナ、ヨモギ、シソなどの野草のお茶を参加者のみなさんに飲んでもらっています。私は飲んだことがないので、どんな味、香りがするのか分かりませんが、多分、ホーおいしいなーという味、香りでしょう。アメリカザリガニ退治も5月にやっているのですね。釣り上げたザリガニはどうしていますか?他の所のこどもクラブでは、食べているところもあります。どちらにしても元の自然には、もどして放してはいけませんね。

6月にはサワトラノオに陽射しがいっぱい当たるようにヨシの草刈りをしました。

7月は、野ねずみのかんさつ会をやりました。サワトラノオが元気に成長するためには、野ねずみもいない方が良いでしょうね。

8月には気分転かんをかねて宝永山に登ったようですね。じしゃくがくつつく岩があるのですね。めずらしい岩ですね。

10月には、地区文化祭でサワトラノオをみんなに知ってもらうように展示や発表をしたのだと思います。

11月には、タコノアシとヤゴの救出大作戦をしました。タコノアシは、道路脇に群生していましたが、大雨で水没してしまうので浮島ヶ原自然公園へ移植保護したとのこと、貴重な植物(生き物)を守ろうと言うみんなの気持ちがよく伝わってくる活動ですね。

日本一の富士山のふもとでまぼろしの花“サワトラノオ”が日本一群生している浮島ヶ原自然公園が、日本古来の生き物が日本一たくさん見られる公園になると良いですね。みんなのがんばりに期待していますよ。

静岡県富士市 原田湧水クラブ

壁新聞のタイトル:大好き!! 浮島ヶ原自然公園～サワトラノオまもう大作せん!!～

とっておきのゴシンドウ★

みんなの活動は、年間を通してサワトラノオを守ろうと言うことで一本筋が通っていて、大変分かりやすいです。

もちろん、サワトラノオだけでなく貴重な生き物を守ろうという活動はとても大事な活動です。そしてみんなも、今月のこの活動は、サワトラノオのために、または貴重な生き物のためにどんな意味があるのだろうか?どんな良いことがあるのだろうか?ということをいつも考えるようになるので、とてもすばらしいやり方だと思います。

なぜ?どうして?という考え方の習慣を付けるのは、みんながこれから大きくなる時にいろいろな場面で生きてくると思います。



青葉台児童クラブのみなさんへ
師範から一言！

今や貴重なハコネサンショウウオを野生の状態で見られたことはとてもきょうな経験だと思います。野生動物を野生の状態で見ることはとても大切なことなのですが、今の時代はそれもなかなかむずかしいことです。

今回、専門家の案内のもと、そのような体験ができたことはみなさんの将来にとってもとても意味のあることだと思います。サンショウウオのすむ川を調べると、いろいろな発見があったことでしょう。まともに書いてある「きれいな水だからこそ育つ生きものが多くいた」とのことですが、それはそのような環境だけにしかすめない生きものというわけです。このような環境と生きものを今後も守っていききたいものですね。

とっておきのゴシドウ★

次は、その場所がどのようにして、守られているか、新聞にまとめてみるのもいいかもしれません。新聞を読むと、ハコネサンショウウオなど、きれいな水にすむ生きものがすむことができる環境があるようですね。新聞を読んだ人は、「ハコネサンショウウオってどんな生きものかな？」とか「他の生きものはどんな生きもの？」のような興味がわいてくると思います。

みなさんの好きな生きものについて詳しく調べて、次の新聞を作って、ぜひ全国のお友達に紹介してあげてください。静岡にはこんな生きものもいます、というように。



マックスバリュ裾野チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

みなさんの壁新聞のタイトルは、「動物×人＝何？」。どんなことが書かれているのか、ちょっと謎めいていて、興味がわきました。動物と人との関わりを、さまざまな角度から取材していましたね。フクロウの羽根の構造から新幹線のパンタグラフのヒントになったこととか、盲導犬のこととか、鶏卵場で食べた卵のこととか、野鳥公園での野鳥観察、そしてゴミ拾いから野生動物への影響を考えていました。読んでいてとても面白かったし、勉強になりました。盲導犬が信号を見分けるか、道を知っているか、の答えは初めて知って、なるほどと感心しました。盲導犬にさわったり、見つめたりしてはダメなのですね。Q&Aで紙をめくったら答えが見られるのも、楽しい工夫ですね。

みなさんの活動でいいことだな、と思ったのは、野鳥公園などに実際に見に行ったり、鶏卵場でお話をきいたり、ゴミ拾いなど実際にやってみたりしていること。その体験から、その中にある本当の問題をしっかりと自分の目でみて、感じるができますね。新聞の形式も、左側に実際に見たことやきいたことを書いて、右側の矢印の先に、考えたことや感じたことをまとめとして書いていて、読みやすい形式です。色もカラフルで楽しく読むことができました。



とっておきのゴシドウ★

テーマ、取材内容、レイアウト、どれもよくできていて申し分ないと思いました。

ゴミを動物が食べることでおこる被害のことが書かれていました。最近、「マイクロプラスチック」の問題が話題になっています。聞いたことありますか？マイクロプラスチックは、海に漂う、とても小さなプラスチックのゴミのことです。これを、海の動物が食べて、体の中に蓄積されてしまったり、それをさらに、人間が魚などを食べることで、私たちの健康にも影響を及ぼすということが問題になっています。日本もその対策をようやく始めたところです。私たちのプラスチックゴミがどう捨てられて、どうやって海に行ってしまうのか。次は、そういった世界規模の環境問題についても調べてみてください。

また、今回は動物と人との関わりがテーマでしたが、「植物と人間の関わり」や、「食べ物はどうやって私たちの食卓まで運ばれてくるのか」など、身の回りには面白いテーマがたくさん転がっています。今の生活では、こうしたつながりが見えにくくなっているけれど、実際に現地に行ってみたり、人に話を聞きに行ったり、調べてみることで見えてくるものがたくさんあると思います。

普段の生活では多くの人が気にしないことにも、なぜだろう？どうなっているんだろう？と疑問を持ち、自分たちの手で調べてみてわかったことを、是非大人の皆さんにも教えてあげましょう。続編も期待しています。

静岡県湖西市 今川子ども自然クラブ

壁新聞のタイトル: 里山は知恵がいっぱい！～むかしの生活が持続可能な社会につながる～

今川子ども自然クラブのみなさんへ

師範から一言！

今回の新聞は、みなさんが、里山の中で行ってきた活動や、ふれあってきた人達との交流をまとめたものですね。一年を通した期間の中で、さまざまな活動内容が見て取れて、みなさんの努力と得てきた経験がよくわかるようにとりまとめられています。

また、見出しやテーマははっきりしているため、記事の内容がつながりがとてもわかりやすく、デザインにおいても、統一した記事の構成と色の分けにより、記事の分類が一目でわかりました。

それぞれの記事の内容も、実体験の中から感じた情報や感想がまとめられていおり、テーマとなっている「里山の知恵」がどれほど人とかかわり合いにつながるものなのかがよくわかりました。下段の情報記事は、別途調査した記事や、調査結果を報告したものですが、色違いになっているので、その区分が読み手にとっても大変わかりやすかったです。



とっておきのゴシンドウ★

今回、新聞に書かれた活動や調査は、とても貴重な活動であり、内容も盛りだくさんだったと思います。そのたくさんの情報を、しっかり分類・整理して報告されているので、大変よくまとめられたと思います。

みなさんの記事を読んで、森には多くの方や団体が関わり合っていることもわかりました。森は古くから人との営みの中で維持されつづけていて、結果、今日にもその恵みを得ることができるのですね。

ただ、今回の新聞は、誌面の大部分が活動報告になったので、テーマ(里山の知恵)に対しての最後のまとめに対する誌面が小さくなってしまったことで、発信力が弱くなってしまいました。一目で情報の全体像が理解できるような工夫が重要です。特に、見出しのテーマとともに、最後のまとめで「自分たちが得た成果」をしっかり伝えることは、今回のような活動報告では特に大切です。

みなさんが行った活動を通して得られた知識や、交流を総合的に捉えて、それを読者にむけて成果をわかりやすくまとめてPRすることで、次の活動や交流がつながっていきます。みなさんの得たすばらしい経験と知恵と成果をこれからも多くの人に発信してもらいたいと思います。

愛知県半田市 半田子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル: エコクラブ 活動新聞 in 半田

23-02(2位)

半田子どもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

季節ごとに楽しく活動をしていることがわかる新聞です。知多半島や半田市の環境のことがよくわかります。生き物のイラストもよく書けていますね！自然に接し、生き物のことをよく知っているからでしょうね。別の紙に描いたイラストを貼っているのも、立体感がでてよい工夫だと思いました。思ったことや感じたことを書いてくれているのもうれしいです。皆さんの活動のようすが生き生きと伝わりますね。

トビハゼの再生活動ではこれまでの出来事もかんたんに書いてくれたので、トビハゼが少しずつ再生しているということが分かりました。干潟は生き物のすみかや水を浄化するなど大切な役割を持っています。トビハゼのためにも、干潟をきれいにし守っていききたいですね。次回壁新聞を作る機会があったら、そのときにはトビハゼがさらに増えていることを報告できるといいですね。

とっておきのゴシンドウ★

文字が少し小さいと感じるところがありました。書きたい内容がたくさんあるとどうしても文字が小さくなりがちなのですが、文字は大きくしっかり書いたほうが、よみやすくなり、内容も伝わりやすくなりますよ。

書いている途中からスペースが足りなくなり、最後のほうの文字が小さくなってしまふこともよくあります。あまり小さくなってしまいそうときには、かける文字の数を最初にだいたい考えておく、鉛筆で下書きをしたあとにマジックで上書きをして、鉛筆で書いたことは消すなど工夫すると、バランスよく文字が書けますよ。



愛知県豊田市 ゴーウィングス
壁新聞のタイトル:冒険日誌

23-01(1位)

ゴーウィングスのみなさんへ
師範から一言！

冒険日誌というタイトルどおり、1年を通じてさまざまな種類の活動にチャレンジしたことがよくわかります。写真がたくさん使われているので、多くの文字で説明しなくても、みなさんがチャレンジした内容がよく伝わってきました。質問形にしたり、大切なキーワードだけ書いて、答えを書かないような表現にしたりしているのは、新聞を読んでいる人に興味をもってもらいやすいようにという気持ちがあるからかと思います。活動ごとに文字の色を分けているのも、よみやすくする良い工夫ですね。

昔の方法でお米作りをしたことを「体をきたえる」スポーツに例えているのが特に面白いと思いました。農業機械がない時代のお米づくりは本当に大変です。それをこのような楽しい形で表現にすると、読んだ人が「自分もやってみたい！」と感じてくれそうですよね。

とっておきのゴシドウ★

全体に同じような形で文字と写真がちりばめてあるので、ぱっと新聞を見た人には、いっしょんどこの内容が繋がっているのかすぐにはつかめないかもしれないなと感じました。活動ごとに背面に違う色の紙を貼ったり、タイトルの強調を強くしたりするなどで、より見やすくなると思います。

活動を通じて様々な賞をいただいていますね。成果をうまくまとめられているのだと思います。ただ「これを調べて賞をもらった」という内容だけだと、新聞を読んだ人は「へー、すごいなあ～」という感想で終わってしまうかもしれません。工夫したことや大切だと思ったことなどを一言書いておくと、読んだ人にも役立ちますし、みなさんががんばったことがより説得力をもって伝わるのではないのでしょうか。



愛知県豊明市 豊明エコキッズ

壁新聞のタイトル:豊明エコキッズ活動ランキングベスト 10in2017

23-03(3位)

豊明エコキッズのみなさんへ
師範から一言！

ベスト10の活動にしぼって、新聞を作ったことはとても良いアイデアだと思います。がんばって活動しているクラブほど、書きたいことがたくさんあると思いますが、人に伝えるときにはテーマを決めたり、内容を選んで書いたりしたほうがよく伝わるがありますよ。その点では、ベスト10のうちでも上位5つまでを詳しく書いて、6位以下はやったことだけ紹介したのもよい工夫ですね。ランキングごとに色紙で分けしてあり、またそれぞれの活動タイトルも大きくくっきりと書いてあるので、とてもわかりやすいです。

活動ランキングで1位にかがやいたのは干潟見学会でした。干潟はいろいろな生き物のすみかと言われていると思いますが、みなさんが書いてくれた生き物のイラストをみただけで、そのことが伝わってきました。2位の湿地観察会で見ることができたシラタマホシクサはみなさんの住む愛知県など、東海地方特有の植物なのですね。このような貴重な植物が近くで見られるとはうらやましいです。

とっておきのゴシドウ★

スペースの問題でむずかしいかもしれませんが、上位5位の活動場所を示す地図のようなものがあると、読んでいる人が具体的に活動のことを想像しやすくなるのではないのでしょうか。エコ活動だけでなく、地域のことを伝えることができる新聞になると思います。

5位の水質パトロールで「川は意外にきれい」と書いてくれていますね。観察できた生き物の種類から川の水質をだいたい想像することはできますが、せっかく水質検査もしているので、その結果もあわせて書くとういかに思います。水質をあらゆる一般的な指標を書いておくと、どれくらいきれいなのか、読んだ人にも具体的に伝わりますよ。



きだエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

紙やストローを細工することで、これだけ生き物を精密(せいみつ)に作ることができるのですね。びっくりしました。手先の器用さも大切ですが、なにより生き物の形を知らないと作ることができませんよね。紹介されている作品には、子供たちが作ったものも入っているのでしょうか。そうであれば、子供たちもよく生き物のことを学んでいるのだらうなと思いました。また工作を通じて、その生き物に関する環境や生態を学習しているということがすばらしいですね。
太陽エネルギーを使ったゆでたまごづくりもそうですが、楽しく環境のことを考えることができる活動ということが伝わってきます。

とっておきのゴシンドウ★

クラブの主な活動を紹介するための新聞であれば、よくまとめられていると思います。いっぽう、(特に文章は)これまでメディアで取り上げられた内容を活用されていて、クラブのメンバーが発信している内容ではありませんよね。活動を通じたメンバーの感想や、メンバー自身が作った文章などを使うと、より生き生きとした新聞になると思いますよ。

記事の切り抜きやテレビ放映時の写真は便利ですが、文字や写真がやや見づらくなったり、小さくなったりすることがあります。見やすくするほど、楽しく新聞を読んでもらえると思いますので、見やすさも考えつつ、写真や文章を使うといいのではないのでしょうか。

今回は工作と太陽光を使った実験の内容が主ですが、クラブではほかのエコ活動もされていると思います。また壁新聞を作る機会があったら、ほかの活動についてもぜひ紹介してください。壁にかけておいたら思わず人が集まって見に来てくれるような、新聞づくりをみんなで考えてみてくださいね。



三重県津市 なひがんばる隊

壁新聞のタイトル:水のゆくえ～水はどこから生まれるのか、そのヒミツにせまる！～

24-06

なひがんばる隊のみなさんへ

師範から一言！

家族のクラブで、エコ体験などいろいろなところに出かけたり、たくさん活動されたのですね。多くの活動の中から、「水のゆくえ」をテーマにまとめられたのはすばらしいです。
雨として降った水は、地下にしみこみ地下水となったり、森から川・海へと流れたり、水蒸気となり、また雨へと循環しています。
天然水の工場おいしい空気を感じ、自然いっぱいの森でおいしい水が生まれることを知ったのはよかったですね。おいしい水をたくさん作る自然林を育てる体験や、森林の栄養が海まで運ばれてできたおいしいカキを舌でも味わえてよかったですね。自然林をつくるには、いろいろな種類の苗を計画的に植えて育てていくのですね。とても多くの種類を植えていることをこの壁新聞ではじめて知りました。
「水のことを調べたら、森づくりと関係していることが分かり、思いもよらなかった」と、いいところに気づきました。この水の循環や生きもののかかわりの中で、人間のせいで汚したりするいろいろなところに影響が出てしまいます。おいしい水、おいしい海産物を育てるためにも、川を汚さないなどできることをすすめていってください。



とっておきのゴシンドウ★

奥大山、伊勢湾、大台町など、自然豊かなところへ出かけ、メンバーたちも環境の良さを体感し、多くのことを学べたようで良かったです。このすばらしい環境を守るために、日頃の生活の中で自分たちは具体的に何ができるのかを考え、実行できると思います。すでにエコな生活を送られているのであれば、周囲に伝えていくことも立派な活動です。みなさんの活動をさらに周囲に広げていってくださいね。

壁新聞は、タイトルを付け、イラスト、写真も多く、説明も工夫して子どもたちの字で丁寧に書かれていてとてもすばらしいです。みんなにぜひ知ってもらいたいことを、もうちょっと大きな字で目立つようにするとメリハリができてさらによくなるかもしれません。

三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ 壁新聞のタイトル:山・川・海 生物のつながり① ②

24-03、24-04 (全2枚)

四日市尾平イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

伊藤師範から一言！

まずは「海と生き物のつながり」のテーマを大きくタイトルに書かれているので、とても見やすい新聞に仕上がっていますね。みなさんで四日市のアカウミガメの子ガメが海に帰れるようなお手伝いをされたとはすごいです。人間が出したごみや光で子ガメたちの生育を妨げることないようにしていきたいですね。

他にも答志島まで行ってごみ拾いされたことも素晴らしいです。ウミガメロードづくり、ごみ拾いなど、実際にごみを見て、からだを動かし、海の環境のことを実感できたことと思います。良い環境をつくるためにこのような良い活動をこれからもいっぱい続けていってください。

答志島では、愛知、岐阜、三重県から流れ着いたごみであることを学ばれたようですね。これらの漂着ごみを無くすためにこのごみの問題を伊勢湾流域の人たちに伝えたいとのこと、とても素晴らしいです。ぜひ子どもエコクラブのみなさんから、たくさん発信していってください。

とっておきのゴシドウ★

海のごみについて知り、発信することはとても大切です。それに加え、自分たちや家族で、海の生きものを守るため、ごみを減らすためにできることはなにか？海だけの話ではなく、自分たちの暮らしとのつながりまでを考えると、身近にできることがいっぱい見つかるかもしれません。EM団子は、その効果についていろいろな説があります。海や川の水質をキレイにしたいと関心を高めることは良いことですので、簡易水質調査など他の方法を取り入れてみることも挑戦してみてもいいかもしれません。



四日市尾平イオンチアーズクラブ2の新聞をかいたみなさんへ

木村師範から一言！

生態系がこわれることにより、多くの生き物が数を減らし、やがては人間にも影響が出てきてしまう。人間も生き物の一種です。つい忘れてしまいがちになりますが、とても大事なことです。人間も生態系がきちんと働いているおかげで生きていられることに感謝していくようにしたいですね。

一度こわれてしまうと元に戻すのにとても長い時間がかかってしまいます。生態系がこわれる原因のほとんどは私たち人間です。みんなでどうしたら、生態系を守っていけるか考えていければいいですね。

このような新聞でみんなに呼びかけていくことも生態系ピラミッドを守るためにはとても大切なことです。

これからも活動を続けながら、新聞を使って全国のみんなに教えてください。

とっておきのゴシドウ★

山、川、海のつながりはとても大切なものですが、ふだんはあまり気づかないし考えないものです。みなさんがそのようなことを考えて活動を行っていることはとても素晴らしいことだと思います。答志島に流れ着く多くのごみのほとんどが伊勢湾流域から出ている、つまり人間の活動がとても多くのごみを流している。これはすべての人に関わる問題です。まだまだこういう問題は多いと思います。ぜひ次の新聞でも山、川、海のつながり、そしてその中で起こっている問題について紹介してくださいね。



三重県四日市市 海蔵しぜんクラブ

壁新聞のタイトル:①少年自然の家～自然を知ろう！～ ②海蔵川水生生物調査新聞

24-01、24-02 全2枚

海蔵しぜんクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

2日間のもりだくさんのプログラムをすごろく風に仕上げたのは、とてもわかりやすく見やすい工夫でしたね。時間も書いてあって、いつ頃何をしたのか、スケジュールがよくわかりました。ここに来るまで電車を使って、あとは歩いてきて大変だったみたいだけど、よくがんばったね。歩いてくるまでに周りの景色とか、どんな場所なのかとか、よくわかったんじゃないかな。

みんなの感想にも書かれていたけど、カヤックはとても印象に残った体験だったみたいですね。それがよく伝わってきました。カヤックから水に落ちた人はいなかったかな？みんな協力してご飯を作って食べたのも楽しそう。写真を見ていてうらやましくなりました。夜の昆虫調査、いろんな昆虫が飛んできたんだね。みんな、手をつかまえられたかな？

翌日の里山整備、荒れた里山をみんなで手入れして、生き物がたくさんいる森にしていくことはとてもステキなことですね。里山整備について、なぜ行うのかも書いてくれているので、初めて読む人にもよくわかると思います。森の中が明るくなって、春や秋にたくさんのお花がみられるといいですね。これからも自分のうちに周りにそういう場所があったら、里山の手入れの活動に家族やお友だちと参加してみてください。



とっておきのゴシドウ★

毎年、少年自然の家の自然体験を続けているということですね。みなさんの先輩も経験してきたし、これからみなさんの後輩も続けていくことでしょ。みなさんの年にはこんなことを体験して、どんなことを感じた、ということが他の年と区別ができるように、ぜひとも実施した年と日にちを書いておくといいと思います。

はじめの説明をしてくださっている「ハンマー」さんというのは、ニックネームなのかしら？何をする人でしょう？興味しんしんです。

当日、ハンマーさんや、カヤックの説明をくださった人は、どんなお話をしてくれたのかな？当日この場所にいなかった人にもわかるように、お話の内容をちょっと書いておくといいと思います。

今は里山整備をボランティアの人たちがやったり、学校や自然体験でやる人が多いですが、昔は人々が生活するために、里山の森の手入れをしていました。昔はどんな暮らしをしていたのか、里山や雑木林をどう使っていたのか、どんな道具を使っていたのか、などご年配の方に聞いたり、図書館で調べたりしてみてもいいと思いますよ。

三重県四日市市 海蔵しぜんクラブ
壁新聞のタイトル:①少年自然の家～自然を知ろう！～ ②海蔵川水生生物調査新聞

海蔵しぜんクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
海蔵川の水生生物調査は毎年続けられているのですね。とても貴重な記録です。毎年やっていると、以前の結果と比べることができますね。水のきれいさや、川の底の様子（石、砂、岩など）、流れの早さなど、水の環境の状態によって、水の生物も変わってきます。このように、毎年調査をしていると、水生生物の変化からその環境の変化がわかってくるのです。
今回の結果は、魚、貝・えび・かに、昆虫などに分けて整理してくれました。これは分類による区分けになりますが、とてもわかりやすくて良かったですね。水の生き物は、普段目にする人は多くはありませんから、お魚のように写真がはってあるのでもとてもわかりやすいと思います。何気なくみている川にこんなに生物がいるのかと、おどろくにちがいありません。
調査の手順も書かれてあったので、どんな方法でやったのかがわかりますね。去年は台風のために秋の調査ができなかったことは残念でしたね。でもお天気には逆ええですね。また次回の調査を楽しみにしておきましょう。今度はみなさんが、新しく来た子にお魚の採り方をはじめ、生物の名前やつかまえ方をぜひ教えてあげてください。



とっておきのゴシドウ★
先ほど書いたように、水生生物は、川の色々な環境によって変わってきます。川の環境の様子も書かれていると、どんな特徴がある川にこのような生物がいたのか、知ることができるので、ぜひ川の様子も伝えられるようにトライしてみてください。写真に撮ってはってみたい、イラストに描いてみたいすると、言葉で書くよりも簡単に伝えることができますよ。
昆虫、その他の生物も、がんばって写真を撮ったり、イラストに描いてみて、新聞にもたくさんはってみてください。「ケラ」は、最近なかなか見ることができない陸上にいる昆虫ですが、今回はたまたま川に落ちたのが採れたのかな。見たことがない人も多いと思いますよ。
それと、もしも去年や一昨年の調査結果があったら、今年の結果と同じだったのか、ちがっていたのかを比べることができます。川瀬先生や山本先生にきいてみて、去年の結果があるかどうか、あったら教えてもらったらいいですね。これからも、川の生き物に関心をもって、調査を続けてください
ね！
★写真をよくよくみると、お魚の名前と画像がちよっと違うような気がしました。名前を書くときにちがっちゃったかな。ハゼの仲間はとても判別がむずかしいので画像もよくよくみないときびしいですが、
ゴクラクハゼ⇒アユカケ アユカケ⇒ヌマチチブ ヌマチチブ⇒ゴクラクハゼ が正解だと思いまーす。

三重県松阪市 三重中学校・三重高等学校 科学技術部
壁新聞のタイトル:主体的に環境活動に参加してもらうためには

24-07

梅村学園 三重中学校・三重高等学校 科学技術部のみなさんへ
師範から一言！
壁(かべ)新聞紙面で科学新聞のような雰囲気(ふんいき)を楽しませてもらいました。海と森の野外活動を通して環境学習を組み立て実践(じっせん)するという、大人でも思いつかないような事例になりましたね。松名瀬干潟(ひがた)をその機能から三つに分け、ウミナナ類の生息調査から仮説を立ててみたものの過去の論文から大量死が成り立たないことに気が付き、仮説を検証中であるとまとめています。沢山(たくさん)の仮説があれば、すてられる仮説も多いと思います。少し2年生にはむずかしいと思いますが、これくらいでくじけずにもっとすばらしい仮説を証明して下さい。
さて、海の環境を良くするためには、森にも興味が向き、森林ボランティア参加のアンケートなどを行っています。活動に意欲的でないことに気が付いたようでクラブの1年生に独自プログラムを実施したとありますが、どんなプログラムだったのでしょうか。これも知りたいものです。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★
森の活動では、わかったこと、これから調べること、などをきちんと整理しておかないといけません。このフローのどこまで進んだのか、いろんな人にわかってもらうためには、完了(かんりょう)した調査のフローの箱書きに色を付けるなどわかりやすい工夫が必要です。わかりやすくすることも科学の大切な機能です。
特に「森の健康診断(けんこうしんだん)」ではもっと難しい事例もあるので、意識調査だけでは解決しないように感じました。壁新聞の仕上がりをみて、海と森の活動の区分が科学の手法(なぜ、どんな、どうしてなど)を使って絞り込んで考えてみてはいかがでしょうか？



三重県鈴鹿市 庄内なかよしクラブ

壁新聞のタイトル: 自然食品のおやつ さつまいも羊かん作りに挑戦!!

24-05

庄内なかよしクラブのみなさんへ

師範から一言!

さつまいもを利用した「いも羊かん」を作るために、「さつまいも」を作るための「畑の土づくり」から始めたところに感心しました。

米ぬかや野草くず、おち葉は足りましたか? 上手く「土」は作れましたか?

土づくりはどんなところがむずかしかったか、どんなところが大事だと思ったかなどを写真や絵を使って新聞に紹介してくれると全国のこどもエコクラブの仲間が興味を持って読んでくれたり、自分たちも土づくりにチャレンジすることもエコクラブが増えるかもしれません。

いもあめはどうやって作ったのですか? かべ新聞に作り方を書いてくれたらまた、いもを畑で作った時に、いもあめづくりをしたいと思うクラブもできるのでかべ新聞にも紹介してほしいと思います。

最終工程はむずかしかったですか? 乾燥は簡単にできましたか? 案外、乾燥もむずかしいでしょう。おじさんも海そうやお魚を乾かしますがむずかしいです。味はどうでしたか?

むずかしいことにチャレンジしていると思います。

是非、かべ新聞は全国に紹介されるのでほかのクラブのみんなが興味を持つようにわかりやすく紹介してください。

全国のこどもエコクラブのみんなに調べたことやわかったことをかべ新聞で知らせることもだいじです。

がんばってください!



サポーターへのとおきのゴシドウ★

農業も土づくりからチャレンジしてむずかしいけれど大事な事だなあとします。子どもとどうして土づくりがだいじか調べたり考えたりするところから始めると、より興味も沸くかもしれませんし、そういうことを壁新聞でも紹介するともっと判り易い、読み応えのある壁新聞になるのではと思いました。人間の暮らしと環境問題の繋がり、関連性を子ども達と一緒に調べたり考えながら、環境問題の大切さや課題と一緒に取り組んでいくのが大切だと思います。

本当にご苦労が多いと思います。こどもエコクラブの子ども達と一緒にがんばってください。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、食べものや生きもの、ゴミ問題や緑化等をテーマにして活動している団体が多いですが、これからも是非、こどもエコクラブの活動で頑張って壁新聞で全国の子ども達にご紹介ください。

三重県明和町 明和イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル: ①ゴミ・リサイクルについて。 ②牛乳パックをとことん使う。

24-08、24-09 (全2枚)

明和イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言!

明和イオンチアーズクラブのみなさんは、活動報告を2枚の壁新聞にまとめてくれました。「ゴミ・リサイクル」をテーマに活動されたとのこと。盛りだくさんの内容で、とっても読みごたえがあります。

特にすてきななあと思ったのは、お店の中で実際に3R 商品探しをしたときに、「リサイクル」だけでなく、「リユース」「リデュース」の商品・サービスを発見したことです。繰り返し洗って使えるリユースびんや、服のサイズ等をお直ししてくれるサービスなどは、リサイクルに比べるとエネルギーが少なくて済みますね。みなさんのお家でも、機会があれば積極的に利用できるといいですね。

他にも、なさの浜のごみについて、強い風の後に大小さまざまなごみが流れ着いてしまうことや、漁師さんがどんなことに困っているのか、とてもよく分かりました。

簡単にはいかないでしょうけれど「どうやったら、そもそものゴミが減るのか」を地域の人みんなと考えられるといいですね。

1枚目の壁新聞「4月からの歩み」では、みなさんがいつどんな活動をしたのかがパッとわかる目次のようですね。

2枚目の壁新聞は、みなさんの活動の中で何度も出てきた「牛乳パック」について、工夫しながら書かれていて、とっても分かりやすいですね。



とっておきのゴシドウ★

2枚目の壁新聞には「牛乳パックをとことん使う」というすてきなタイトルがあるようです。これは、内容をよく見てみたいと思わせる、いいタイトルだと思いますので、大きく書いてあるといいなあと思いました。

お店にお客さんがリサイクルできるものを持ち込んでいれるボックスの中に、リサイクル出来ない物が混じっていることについて、みんなで解決策を考えて、ポスターを作ったこともすてきな活動ですね。まちがいが減ったとのこと、大成功ですね!

壁新聞に、リサイクルボックスに入れられたトレーなどがその後どうなるのかも書いてくれています。もしかしたらこの情報をリサイクルコーナーに展示すると「持ってきたものは、ちゃんと役に立つんだな」と、また持ってきてくれる人が増えるかもしれませんね。みなさんが活動の中で知ったことや、感じたこと、考えたことを、いろんな人に伝えることで、他の人の行動も変わっていきます。ポスターに限らず、色んな形でみなさんのステキな活動を「伝える」ことにもチャレンジしてくださいね。

TANAKAMI こども環境クラブのみなさんへ

師範から一言!

大きく描かれた女の子のイラストが、ひときわ目をひきますね。女の子のまわりには、ステージ1からステージ6までの色々な活動の報告がされています。TANAKAMI こども環境クラブのみなさんは、自然の中でいっぱい生き物観察をされていて、壁新聞にもたくさんの生き物の絵や写真があふれています。カヌーに乗って、春と夏と秋のそれぞれのヨシを観察したというのは、琵琶湖ならではのですね。それに、田上山、田んぼ、西野水道など、活動の場所も色々あり、みなさんとても楽しそう!

とっておきのゴシンドウ★

今回の壁新聞で、とくべつにステキなのが、メンバーの子どもたちがメッセージカードを持っている写真です。きれいな川や琵琶湖にしていきたいということ、そして、多くの人に知ってほしいという気持ちなど、目標とかどんな気持ちで活動しているのかが伝わってきました。これは、すっごくいいですね! 目標や気持ち、そして情報を発信することを、ぜひこれからも大切にしてほしいと思います。

女の子のイラストの服も、よく見ると葉っぱの模様が見えます。写真も、アップの写真だけでなく、活動の全体の様子がわかる写真もあり、去年よりも壁新聞の内容がパワーアップしていますね。

次の壁新聞も楽しみにしていますので、ぜひ、どんな風にしたら壁新聞を読む人に分かりやすくなるのか、楽しみながら色んな工夫をしてみてくださいね。



滋賀県大津市 大津こども環境探偵団

壁新聞のタイトル: 葛川少年自然の家発見新聞

25-04～25-09 全6枚

大津こども環境探偵団のみなさんへ

師範から一言!

葛川少年自然の家での楽しい活動についてまとめられていますね。星空観察、水生生物探し、火おこし体験、昆虫採集など、今は都会でなかなかできない良い体験をしましたね。星を観察するには明るい夜空だとなかなか難しいですし、水生昆虫を多く見つけるにはきれいな水の川でないとむずかしいですね。暗夜行路も暗い道でないとできませんし、サーチ・ザ・ツリーも木がたくさん生えている場所でないとできません。

こういう体験をすることによって、自然の大切さ、大変さ、そしてなぜ大切にしなければいけないかを学ぶことができるのですね。これからもこのような体験を行って自然を感じてみてください。

とっておきのゴシンドウ★

6つの班がそれぞれ新聞を作ってくれて、自分の感じたことを書いてくれています。それぞれ感じるものがちがうのがわかって興味深いです。

他の班の新聞記事でも、体験をしてどうだったか、何が分かったか、他の班のみなさんの声を取材して新聞を作ってみるなど、他の班の人の声を聞かせてくれると、より味のある、よい新聞になると思います。また、体験したことが多いので、各テーマ(火おこし、星空観察、水生生物、昆虫採集、暗夜行路、サーチ・ザ・ツリーなど)を班ごとに1つずつ取り上げた新聞というのもおもしろいですね。次回にも期待しています。



しが kids エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

しが kids エコクラブのみなさんは、一人ひとりがそれぞれ、がんばった活動について紹介をしてくれています。どんな気持ちで、何をがんばったのかが良くわかって、とってもステキな壁新聞です。しが kids エコクラブのみなさんにかかれば、ごみひろいも楽しい競争ゲームに！ ごみに点数が付いていて、あぶないごみは点数が高いなど、面白いですね。それから、街路樹に花壇を作ったら、犬や猫のフンもなくなり、きれいになってお花も楽しめるだなんて、とってもステキです！

また、水生生物調査では、和邇川の上流と下流を比較して、上流の方が生き物が多い、なんてこともわかりましたね。妹子まつりでのリサイクルマーケットでは、となりのたこ焼き屋さんほもっとたくさんの方がきて、やきもちを焼いてしまったとのこと。でも、いらないしなものを必要な人に売って、また役に立てるようにすることは、おいしいものを食べることに負けないくらい、すてきな事です。

とっておきのゴシドウ★

しが kids エコクラブのみなさんのスゴイところは、どんな活動をするのかを、子どもたちで相談して決めていることです。

和邇公園の池をきれいにする活動では、泥や藻をきれいにするだけでなく、市役所の人に相談をして、池に植物を増やす提案をされています。汚れる池を掃除するだけでなく、きれいな池を作っていこうというのは、大人も顔負けするぐらいすばらしい活動ですね。また、仲間を増やすために、ポスターを作って学校に貼らせてもらったというのも、とっても大事な活動です。こんなに面白くてステキな活動をしている子どもたちがいるんだとたくさんの人に知ってもらえるって、嬉しいし、仲間が増えたらもっといろいろな活動ができますよね！これからも、みんなで仲良く楽しく活動を続けてください！



ぼてじゃこワンパク塾のみなさんへ

師範から一言！

今年も1年間数多くの体験活動をしましたね。子ども時代にこういう活動ができるのはとても貴重な体験だと思います。

今回興味深かったのはイチモンジタナゴのタライでの繁殖実験です。私の住む関東ではタナゴもすっかり見られなくなっていました。昔見られた生き物がなくなるのは何かの原因があります。生き物を知り、その生活を守ることによって絶滅を防ぐことができます。こういう実験はそのためにもとても貴重な経験だと思います。

田んぼにも多くの水生昆虫がいて、自然の豊かな場所であることがわかります。新聞に活動内容がよくまとめられていて、とても見やすい新聞です。次回以降も期待しています。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★

親子でこのような活動することは子どもにとって貴重な経験になると思います。サポーターの方々にはいろいろなご苦労もあると思いますが、ぜひ続けていってほしいものです。

水辺の活動はとっても楽しいものですが、一方で危険もあり、準備などの苦労を考えると1つ活動するのも大変なのに年間を通してこれだけ活動するのは皆様の多大な努力があると思われます。このような活動が他地域でも行われることを願います。

次は、水辺の安全についての活動(ライフジャケット使用のための子ども向け講習会)を開いていただき、それを新聞で発表して、全国に安全な水辺での活動を広げてもらえたらうれしく思います。



NPO 子どもネットワークセンター天気村 こんぺいとうクラブのみなさんへ
師範から一言！

身のまわりの場所、たんぼ、川、びわこ、竹林、たくさんの場所で活動していますね。もうひとつ、ずいぶんたくさんの人といっしょに活動していますね。どちらも、素晴らしいことです。活動では、今まで知らなかったことをたくさん発見しているのかな。知ることは楽しいよね。たくさんの知恵にふれることは楽しみです。自分のまわりにあるものはすべて、自分の先生です。ぜひ、「たくさんの知恵と豊かな恵み」を分かち合うことをめざしてください。

『おかずとり』、いい言葉を知りましたね。最近では使われなくなったことばですが、この『おかずとり』という言葉大切に、みなさんの活動をみなおしてみると新しい発見があると思いますよ。活動で最も良いと思ったところは、「自分たちにできることは何なのか」をいつも考えていることです。新聞にも『自分たちで出来る範囲でやることはやる』と書いていますね、いいこと、大切なことに気づきましたね。無理をしないことは、長続きすることにつながります。ひとと自然と「えがお」をつなぐパイプ役になって、周りの人を「幸せ」にして、みなさんが「幸せ」になってください。

とっておきのゴシドウ★

「なぜ、『おかずとり』が少なくなったのでしょうか。『おかずとり』をしなくなったのかな、それともできなくなったのかな、みんなで相談したことがありますか。

『おかずとり』が残るとどんないいことがあるのだろう。むづかしいけれど話し合ってみましょう。答えが出なくてもいいよ。「自分たちにできることは何なのか」が見えてくるといいですね。



滋賀県草津市 アイキッズ～ エコアイディアキッズびわ湖 ～ 壁新聞のタイトル:

25-12

アイキッズ ～エコアイディアキッズびわ湖～のみなさんへ
師範から一言！

滋賀県からよく似たデザインの壁新聞(かべしんぶん)が3つ出てきました。どれも黒バックに白文字で、小見出しには明るい色合いの縁(ふち)取りがしてあり、見やすくする工夫が見て取れます。それでも副題をみると3つの壁新聞はそれぞれ特徴(とくちょう)があります。アイキッズの仲間は「滋賀びわ湖の湖魚食文化を発信する」という副題のついた壁新聞です。紙面の上半分にびわ湖で行われている漁法(沖曳(ひ)き網(あみ) 漁体験, びわ湖で魚釣り, 溪(けい)流(りゅう)つり)を体験するんですね。どの子の表情を見るととても楽しそうですね。これとは対照的に紙面の下半分には、まるで食堂のメニューのように魚料理の名前が書かれています。僕(ぼく)もいろいろな新聞を見せてもらっていますが、食堂のメニューのような壁新聞は初めて見せてもらいました。

溪流(りゅう)つりでは大きなさかなを釣(つ)り上げていましたが、外来魚の退治は上手(うまい)いかなかったようですね。でもかまゆでゴリはおいしかったと味覚で感想を書いているのはいいですね。貴重な体験になりましたね。

黒バックに小さい白文字ながらよく見ると上手くまとめられている新聞になりましたね。びわ湖のように淡水(たんすい)の生き物がたくさん生きているところでは、このような習慣を続けていってほしいと思います。食べるという文化は継続(けいぞく)+していかないと途切(とぎ)れてしまいます。

新聞全体の印象は、文字は小さいですが、写真の配置や子どもたちの表情がよく、採集から調理して食べるところまで、それぞれコラムもまとめて書かれていますので、判りやすい壁新聞になりましたね。それぞれの記事の最後に子どもたちの感想が書かれていて、理解を深めてくれます。良い新聞を見ることができました。

とっておきのゴシドウ★

ゴリの沖曳(ひ)き網(あみ)で「大漁」のゴリが捕(と)れたと書いていますが、ここは「大量」の間違(まちが)いですね。よく見て下さい。字の間違(まちが)いには注意(ちゅうい)しましょうね。また、活動の中では、あいさつ、チャレンジ、感謝という合言葉を大事にしていると応募(おうぼ)用紙(ようし)に書いてきていますが、20名がこのような心得(こころえ)を守り、実践(じっせん)できるということはとても大切なことだと思いました。これから心(こころ)得(とく)を守り実践(じっせん)できる子どもたちを育てて下さい。応援(おうえん)していますよ。



ときわようちえん エコたんけんたいエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

ときわようちえん エコたんけんたいの みなさんが、いろんな かつどうを かべ
しんぶんにかいてくれました。いちねんかんで いろんなことを しましたね！
たうえや いねかりは おもしろかった ですか？ たいへんでしたか？ おにぎり
パーティー、いっぱい おにぎりをたべたのですね。おいしかったですよね。
さつまいもほりでは、とっても たくさんの さつまいもが とれましたね！ ぜんぶ
で いくつ あったのかな？ おおきな おいもも、ちいさな おいもも ありました
ね。

ごみひろいは、ペアの おともだちと きょうりょくして がんばりました。みんなの
おかげで、まちが きれいになったことでしょう。

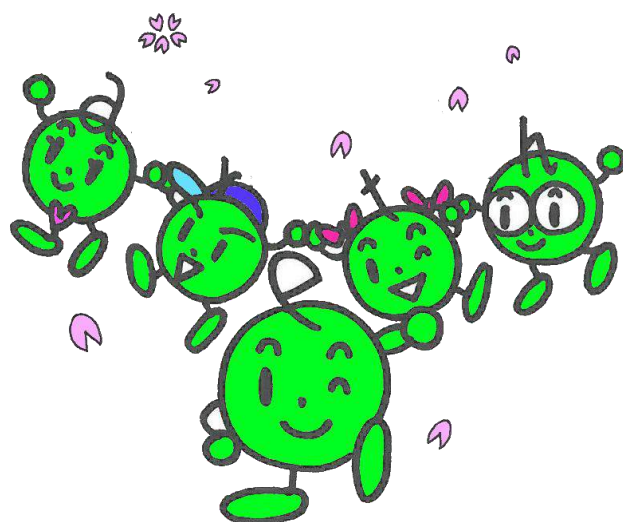
とっておきのゴンドウ★

たうえで たんぽに はいったときは、どんなかんじが しましたか？ あしは つ
めたかった ですか？ あたたかかった ですか？ めるっと ふわっと ふしぎな
かんじがしませんでしたか？

さわったかんじや、におい、あじ、みえるもの、きこえるおと など、かつどうの な
かで かんじたことを たいせつに してくださいね。

ふうせんかずらや あさがおの たねは、いくつぐらい みつかりましたか？ か
ずをかぞえてみるのも おもしろいかもしれませんね。

あすらかんのんじで みつけた どんぐりは、どんなふうにして あそんだのか
な？これからも、しぜんと なかよく みんな げんきに たのしく かつどうをして
くださいね。



なかす野洲川たんけん隊のみなさんへ

師範から一言！

この壁(かべ)新聞も黒バックに白文字で書かれていますが、よく似たデザインの壁新聞が3つ出てきたうちの一つです。でも見出しを見ると6つのイベントでまとめています。

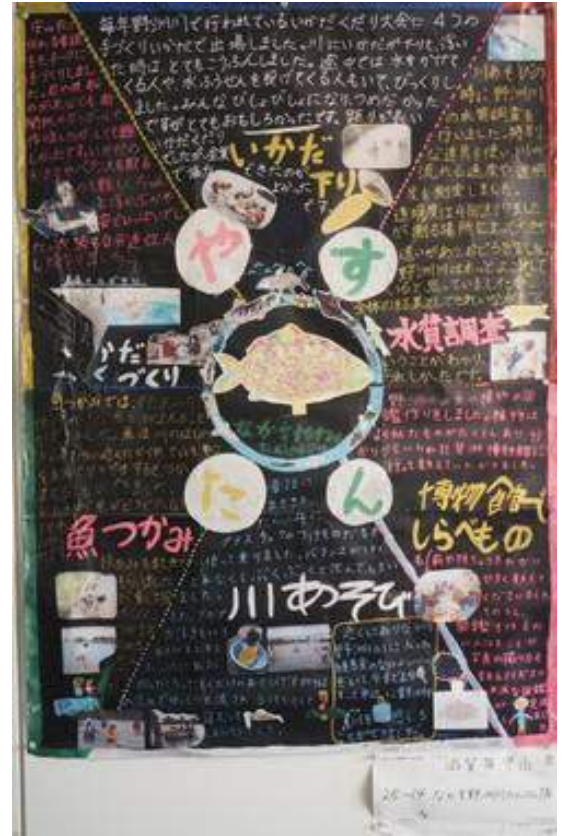
いかだ作り、川くだり、水質調査、川遊びと魚つかみ、博物館で調べものをする、盛りだくさんの活動をしていますね。

一番面白く感じたのは、毎年野洲川(やすがわ)でいかだ下り大会に4つのいかだで出場したことですね。何といっても冒険(ぼうけん)が一番楽しいと思いますよ。魚つかみでは、タモ網(あみ)をつかってガサガサを体験すると、網に入った魚がピクピクする姿に感動していますね。また、昔の「たらい舟(ふね)」をプラスチックのつけものだるで再現しようとしています、うまくいかなかったようです。どこに原因があったのか、考えてみて下さい。プカプカ浮(う)きとどこがちがっているのか、検討しておく来年の川くだりに役に立つことがあると思いますよ。それにしても子どもたちの笑顔がいいですね。事故のないように活動を続けて下さい。

とっておきのゴシドウ★

この壁新聞で特徴的(とくちょうてき)なのは野洲川の水質調査をしていることです。しかも野洲川の水質は悪いと思っていたが、実はきれいだったということを発見していますね。

川や湖の水質は市や町が定期的に測定しています。測定した結果は「平成29年度環境(かんきょう)調査報告書」(守山市)にまとめて発行されています。ここにいくつか水質を測定した結果がのっていますので、自分たちの結果と比較(ひかく)して、野洲川の水質について考えてみるといいと思います。



下之郷遺跡キッズクラブ GoKids のみなさんへ

師範から一言！

この壁(かべ)新聞も黒バックに白文字で書かれていますが、よく似たデザインの壁新聞が3つ出てきたうちの一つです。下之郷遺跡(しものごういせき)やそこに暮らした弥生人(やよいじん)と同じ暮らしを再現して学び、「むかしの生活復原」という大きなテーマで展開する活動を頼(たの)もしく拝見しています。今回の壁新聞の上半分に大きな弥生式土器(やよいしきどき)が貼(は)り付けてあって、眼を引きます。この土器を使ってフナずしを作ったというのが今年のトピックスで、世界初ですね。

このほかにも下之郷うどん、栗(くり)ご飯、赤米(あかこめ)かゆ、しなべなど下之郷遺跡につながるのある材料と道具を駆使(くし)して、古代人の食卓(しょくたく)を再現しようとする努力には感動しました。食べ物の再現は一番わかりやすく、印象深いと思いました。

また、子どもたちの発想と思いますが、湖と川と森という自然の中からいろんな道具や食料を見つけてきて、それぞれを組み合わせる発想の豊かさにも驚(おどろ)かされます。半年後のフナずしの出来上がりが楽しみですね。

とっておきのゴシドウ★

この壁新聞では珍(めづ)らしくドングリの工作や弓矢(ゆみや)体験などが載(の)っていました。学校でも自然の材料を使った工作に取り組んでいるところは少ないと思います。工作の時間では、いつも使っているはさみやナイフだけでなく、キリやカンナなどめったに使わない工具を使うことによって手や足も器用になってくることに気付かれます。

このような体験学習も重要だと思いますが、いかがでしょうか。湖や川の活動のほかに、森の活動にも取り組んで下さいね。チャレンジ精神でがんばってください。



甲賀市立油日小学校エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

はじめに、みなさんの学校のことが書いてあって、たいへん自然がいっぱいあるところで勉強していることがよく分かります。そして、ビオトープを中心としたエコ委員会の活動、学年の委員会による活動、エコ宣言の活動を上手にまとめています。一年を通して、全員が参加できる素晴らしい活動をしていますね。みなさんが楽しみながら、学習していることがよく分かる良い新聞です。

ビオトープは「つくるときよりも、あとの管理がたいへん」とよく言われます。18年もの長い間、ビオトープをずっと守ってきていることは、たいへん素晴らしいことです。油日小学校の『たからもの』ですね。これからもビオトープの約束を守って、運動会のリレーのバトンように、つぎのこどもたちにひきついでいってください。ビオトープでは、どんな観察をしているのですか。以前の観察の結果をまとめることで、新しい発見があるかもしれません。

ビオトープで自然の大切さを知り、クラスで相談して身のまわりの問題に気づいて、エコ宣言をしていることは、たいへんよい活動の流れです。自分たちで相談して、自分たちで決めて、みんなで実行しています。「教室を出る時、昼休みは教室の電気を消す」、「持ち物に名前を書いて、大切に使う」、むづかしいことではなく、身のまわりでできることをすすめていることはたいへん素晴らしいです。これらのことが、おうちの人にも広がるともっと効果が出ますね。

とっておきのゴシンドウ★

もうすぐ、「ビオトープも成人式」ですね。ビオトープは委員会活動の中心のひとつです。作ってくれた人の思い、守ってきた人の苦勞、次の世代のひとへの期待など思いを考えてみるのもいいですね。

写真には活動した日を書くようにすると情報が増え、思い出も広がりますよ。



西京極児童館自然探検隊2004のみなさんへ
師範から一言！

一年間の活動をまとめて書いています。その年にどんな活動をしているのかがひと目で分かります。良いまとめ方です。新聞の中のこどもたちが動くのも素晴らしいですね。たきに飛びこんで楽しかったことが、読む人にも良かつたわります。切り絵やおり紙をうまく使っています。メンバーのみんなが協力して、楽しく新聞を作っている様子が見えてくるようです。自然の中で楽しんで、また、そのことを思い出しながら新聞を作って楽しんで、二度も楽しめたのかな。よかったね。セミの脱皮殻(から)はイチョウの木の前元にはなかったんだね。分かったことを教えてくれて、どうもありがとう。脱皮殻(から)はどんな木のどんな部分で見つけましたか、どのようにしたら、脱皮殻(から)を見つけやすいのですか、読む人がどんなことを知れたがっているのだろうかということをおもうかべて、文章を書くようにするといい新聞になると思います。

天神川でのごみ拾いの活動はご苦勞様でした。地域の人といっしょに活動してくれて、どうもありがとう。ところで、ごみはどこから来るのでしょうか。『なんでだろう』、ふしぎですね。掃除しなくてもいい天神川になるといいね。

天神川は桂川と合流して、最後は大阪湾に流れています。ごみが海に流れて海の生き物はこまっています。たとえば、コンビニでもらうレジ袋はウミガメがえさのクラゲとまちがって食べることがあります。そのゴミがからだの中にのこり、ほかのえさが食べられなくなることがあります。海に住む生き物を守るためにも、ごみを落とさない町、誰かが捨てたゴミでもみんなが拾うような町になるといいですね。



とっておきのゴシンドウ★

一年間をふり返って、活動は楽しかったですか、自然に興味をもつことができましたか、どちらも答えが「はい」なら100点満点です。自然観察にはむずかしい知識はいりません。まずは、自分の家の近くにどんな植物があって、どんな昆虫がいるのか。そんな興味を持つことが大切です。今まで学習したことを活かして、もう一度、身のまわりの自然観察をするのもいいですね。天神川の上流には、太秦(うずまさ)、北野、鷹峯(たかがみね)と歴史的にもいいところがたくさんありますね。昔から、たくさんの人々が守り続けてきた川だと思っています。これからも、みんなといっしょに守っていきましょう。それから、源流を探検すると新しい発見があるかもしれませんね。

せいわエコクラブ1の新聞を書いたみんなへ
師範から一言！

まずは、環境大臣賞の受賞おめでとうございます！

「水はどこから」のテーマで、山、湖、海で様々な体験活動をされ、それをとてもわかりやすく伝えてくれるすばらしい壁新聞です。琵琶湖から大阪湾へ繋がる大きな地図イラストが印象的で、ひとめでわかりました。

大阪の水は琵琶湖から来ていたのですね。その水源の森を豊かにして、水をたくさん貯えることが大切であることを体験を通じて感じられたのですね。間ばつや、下草刈りは大変な作業だったと思いますが、水源の森を守るためには大切です。そして森の植物などの自然と触れ合い、湖水浴や秘密基地づくりなど自然の中に入ったのも楽しかったことでしょう。みなさんの手で、それらの自然がさらに豊かになるよう見守ってってください。

そして、「チリメンモンスターをさがせ」は、お友達とワイワイ見つけると楽しかったことでしょう。磯観察のときも、それぞれの生き物を調べ、イラストもよく観察して描かれていてすばらしいです。いろいろな種類の生き物たちが暮らしている海の環境も大切にしないとね。

感想で、「私たちの活動をもっと多くの人に知ってもらって、いっしょに水を守ってほしいです」と書いてくれたように、みなさんでもっと日本中の多くの人に伝え、いっしょに水を守ってってください。



サポーターへのとおきのゴシドウ★

年間を「水はどこから」で一貫して活動されたのは、子どもたちにもわかりやすく良かったことと感じました。そして、子どもたちが楽しく活動されるようなお楽しみをたくさん取り入れられているのも、サポーターさんたちの長年のご経験の成果で素晴らしいことと思ひ拝見しました。

街なかで育つ子どもたちが、琵琶湖の水源林、大阪湾の自然護岸などでの体験活動ができる機会は貴重なものだと思います。最後に活動ごとの感想コメント、これからに向けての言葉を引き出されているのも素晴らしいです。

しいて言えば、継続している子どもがいっぱいやるのでしたら、昨年までとの比較、今年あらたに気づいたことなども引き出せるとさらに内容が深まるかもしれませんね。

せいわエコクラブ2の新聞を書いたみんなへ
師範から一言！

「たのしもう！エコかつどう」として、たくさんの活動を楽しむことができましたね。

写真やかんそうから楽しかったようすが伝わってきます。

色もたくさんくふうして使い、とっても楽しいふんいきのかべ新聞になっています。

たけのこほり、いそかんさつ、かんばつ、湖水浴、野鳥観察など、自然となかよくなりましたね。

たまねぎそめ、アロマキャンドルづくり、木工ざいく、しめなわづくり、みそづくりといろいろなものを作りましたね。それぞれ、捨てられてしまうものを活用したり、自然を生かすなどエコ活動のいいところがあります。ふだんの生活の中でも捨てられてしまうものを減らすことを考えてみてください。キッズフェスティバルや、大阪市発表会などで、発表したことは大変だったと思いますが、とってもすばらしいです。みなさんの楽しくて、エコな活動を、もっと多くの人に教えてあげてください。



サポーターへのとおきのゴシドウ★

実に様々な活動に楽しく取り組まれていて感動しました。

楽しい活動の中でも、その環境とのかかわりについて子どもたちに伝わっているようで、素晴らしいです。作文では低学年の子どもたちもしっかりと理解されているようで驚いています。

季節を変え水源の森を訪問されると、子どもたちに気づきも多かったことと思われます。このような貴重な体験がたくさんできる子どもたちは恵まれているなと感じます。

ゴミ拾いについては、毎回量を調べ、どんなゴミが捨てられているかを調べているのでしたら、お菓子など食品の容器包装、レジ袋など、さらに細かく個数を数えると、ゴミの一つひとつにさらに目が向くことと思われます。地域内のどこにどんなゴミが多いのか、それはなぜ？、それを減らすには？、などを一緒に考えていくとさらに活動が深まることと思ひます。

子どもたちがたばこの吸い殻を拾っていると、それを見た大人は捨てられなくなると思ひます。

すでにいろいろな機会で発表されているよう、外部に対しての発信を続け、子どもたちの活動から、子どもたちの声で、多くの人たちへメッセージを届け、人々の環境配慮が推進されるよう刺激を与えてください。よろしくお願いします！

大阪市立新北島中学校 科学技術部1の新聞を書いたみんなへ
師範から一言！

みなさんの部活動では、ほんとに様々な環境活動を行っていますよね。エコクラブの活動レポートでも見させていただいています。特にフィールドにでて問題意識を高くもって活動している様子はいつも感心しています。今回はそうした活動の成果発表ともいえる新聞になりましたね。

新聞の内容も、自由な構成の中に、図表とイラストが混じり合って「新北島中科学技術部らしさ」が出ていてとても良いですね。きっちりつくることも一つの方向性ですが、私は作ったグループの自主性とその「らしさ」があふれて共感できる情報の方が、社会を変える力をもっていると思っています。また、先輩たちからの指摘や後輩への指導によるレベルアップも感じました。多くの人がその内容に見張る新聞ができたと思います。

とっておきのゴシドウ★

今回、表題にある「大阪にある自然」ということで、大阪出身の私もとても興味をもったのですが、内容は、みなさんの対象としているフィールドの調査結果がメインでした。新聞の表題は、その新聞の顔ともいえるものであり、読み手への最初の挨拶のようなものですから、もう少し内容とリンクしたタイトルや興味をもってもらう工夫も考えてみると、より魅力的な伝達ができると思います。

それから、みなさんの部活では、たくさんの調査を行い、その結果もしっかりつくっていますが、まずはなぜそのテーマに取り組んだのか、もう少し詳しく書かれていると、読み手が感情移入できると思います。環境問題は、いかに身近な問題として考えてもらうかが、一つの鍵となるので、読み手の気持ちを想像しながら、「誰に、なにを伝えたいか」という視点で工夫に取り組んでみると、もっと情報発信力が強まって、多くの人に届くと思います。



大阪市立新北島中学校 科学技術部2の新聞を書いたみんなへ
師範から一言！

みなさんの部活動では、ほんとに様々な環境活動を行い、成果を生むことで、たくさんの展示や発表を行っていますよね。エコクラブの活動レポートでも見させていただいています。

私は、環境活動を実際に行うことと同じぐらい、その内容と成果を社会に発表し、ちゃんと評価を得るということが大切と考えています。

今回はその発表の様子をいきいきと描くことが出来ましたね。みなさんの発表や展示に関する意気込みや気持ちがとてもよく伝わりました。またそれを通して、みなさんの成長も願わずにはいられませんでした。

活動に対して、成果を得たならば、次の活動に繋がられるように、こうした発表の成果を一区切りとしてまとめることは、これからの部の発展にとっても、とても大切だと思います。

とっておきのゴシドウ★

ほんとに様々な展示や発表会に参加しましたね。それぞれすごく意義のある展示や会になったと思います。それぞれの会の内容の特徴を生かして紙面を工夫すれば、もっとその内容や魅力をわかりやすく伝えることが出来たのではないかと思います。そういう意味では、ペットボトルロケットの記事はとてもいいデザインで仕上がっていますね。楽しい様子も伝わってきます。

科学技術部ということは、理系ということもあり、内容の正しさや成果が重要視されますが、こうしたたくさんの人にその成果を見てもらうときは、いかにわかりやすく共感してもらうかが大切なポイントになります。

情報発信に対する「デザイン」や「工夫」は、周りとの化学反応を活性化させるための触媒のような働きをもちます。賞状を型どって受賞歴の表記なども工夫しているので、他の情報も工夫すれば、どんどん周囲の反応が活性化するような壁新聞が生まれるかもしれませんね！



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:①ゆきぐみレンジャー え〜こ・レンジャー新聞 ②つきぐみレンジャー新聞 ③ほしぐみレンジャー新聞
幼児 27-05、27-06、27-07(全3枚)

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー ゆきぐみの新聞を書いたみんなへ
師範から一言！
ほいくえんのみんなでいろんなことをしていますね。
とてもたいせつなことに、コツコツとりくんでいるのとしゃんがよくなるのでかんしんしました。
「ささげ」ってさいしょはなにかなあとおもいました。
たねまきからしてたのですね。ピーマンやきゅうりもそだてていたら、みずやりもまいにちたいへんだったでしょう。
ムシがたくさんきませんでしたか？ ささげやきゅうり、ピーマンはたべてみましたか？
おじさんのいえでも「うすいタンク」をつかっています。そんなことをしているひとはすくないとおもっていましたが、みずをだいにすることもとてもだいじなことです。



とっておきのゴシドウ★
ほいくえんやこうえんでの「セミのぬけがらしらべ」もがんばりましたね。くまぜみとあぶらぜみがわかるんですね。
おすとめすもしらべたのはだいじです。もっと「くまぜみ」がおおくて「あぶらぜみ」がすくないかとおもってました。
「にいにいぜみ」や「つくつくぼうし」というせみもすこしはいるかもしれません。少しかたちがちがうせみのぬけがらがないかまたみつてください。
テントウムシやカマキリもみつけたみたいですね。
ほいくえんやこうえんもよくみたら、たくさんのおきものがくらしていますからまたしらべて、ぜんこくのこどもエコクラブのみんなにも、かべしんぶんでわかりやすくおしえくれたらうれしいです。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★
地道な大事な取り組みをされていると思います。写真もわかりやすく様子が伝わってきます。
幼児を対象にした活動は難しいことも多いですがコツコツ子ども達と自分たちでできることを学びながら続けること自体が大事です。自宅では野菜を育てることもできない子どももいます。
環境問題は本やお話を聞いて勉強するだけでは解決しないですから、やってみることを幼児のころからチャレンジすることが大切だと思っています。
今後ともみんなで取り組んでいることを壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの皆さんに紹介して頂きたいと思います。
これからも、先生方も子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:①ゆきぐみレンジャー え〜こ・レンジャー新聞 ②つきぐみレンジャー新聞 ③ほしぐみレンジャー新聞

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー つきぐみの新聞を書いたみんなへ
師範から一言！
ほいくえんのみんなでいろんなことをしていますね。
とてもたいせつなことに、コツコツとりくんでいるのと、しゃんがよくなるのでかんしんしました。
やさいをつくるまえに、まず「はたけ」をじぶんたちでつくったのがすごいなあとおもいました。
つちをたがやしたり、うねをつくるまでじぶんたちがしたのはたいへんだったとおもいけれどたのしそうですね。
これからもぜんこくのこどもエコクラブのみんなにも、かべしんぶんでわかりやすくおしえくれたらうれしいです。



とっておきのゴシドウ★
「はたけのポルカ」も、おじさんもみたいです。「はたけ」はいつかいつくったらおわりじゃないよ。
これからのていれもだいじなのでみんなでがんばってまた、おしえてください。
スローフードのうめぼしづくりやうめジュースづくりもたのしさがつたわってきました。
じぶんでつくったらおいしいですか？

サポーターへのとっておきのゴシドウ★
地道な大事な取り組みをされていると思います。写真もわかりりやすく様子が伝わってきます。
畑づくりから取り組み、それを壁新聞にしたり、はたけのポルカにして発表するのもすばらしいし楽しさも伝わってきます。たいへんだったことや上手いかなかったこともあったと思います。
これからもみんなで取り組んでいることを壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブの皆さんに紹介して頂きたいと思います。
これからも、先生方も子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー ほしぐみの新聞を書いたみんなへ
師範から一言！

ほいくえんのみんなでいろんなことをしていますね。

ちいさな「うんち」みたいな「むし」をみつけたんですね。とりのうんちに、ほんとうにそっくりですよ。
くろいところも、しろいもようがあるとこもにしています。こんどは、とりのうんちもみつけてください。
よくみると、たまごがあったり、もっとほかのむしもいるかもしれません。
これからもぜんこくのこどもエコクラブのひとつにも、かべしんぶんでわかりやすくおしえくれたらうれ
しいです。

とっておきのゴシドウ★

エサはなにをやったのかな？ たくさんたべるのでこまっているほいくえんやしょうがつこうもありま
す。

ちょうちょまでそだってよかったですね。とかいではちょうちょもへっているのですよ。

おりがみでちょうちょをつくらあそんだのですね。ちょうちょがどんなところにとんでくるか、どんな
ところでやすんでいるのかもまた、みてくださいね。ちょうちょのおりがみであそぶときにもやくだつ
とおもいます。

じぶんでちょうちょのひみつをみつけたり、ほんでしらべたらたのしいですよ。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★

地道な大事な取り組みをされていると思います。写真もわかりやすく様子が伝わってきます。

身近な生きものを観察したり育てることも、しっかり自分たちですることは幼児にとってもいい経験になります。餌をちゃんと食
べているかや大きくなっているかや調子が悪くないかも毎日、世話をし初めてわかることもあります。先生方が気づいても子
ども達が自分で気づくことも大事なので待ちながら応援してあげてください。楽しさも伝わってくる壁新聞です。これからもみん
なで取り組んでいることを壁新聞にまとめて全国のこどもエコクラブのみなさんに紹介して頂きたいと思います。

西谷師範、ありがとうございました！次はどこの地域かな？お楽しみに！

細田児童館エコキッズのみなさんへ

師範から一言

こうべしかんきょうしょうれいしょう(神戸市環境奨励賞)、おめでとう！！
みなさんのエコかつどうのがんばりをみとめてもらいましたね。

「なつやさい」、「えだまめ」と「わた」をそだてたようすがしゃしんでよくわ
かるかわいい「かべしんぶん」です！！5がつから11がつまで、まいにち
いっしょうけんめい「なつやさい」や「わた」たちのお世わをしてくれたの
で、たくさんのしゅうかくができましたね、おつかれさまでした！！またエ
コクッキングでみなさんがそだてたやさいたちはとてもしんせんでおいしか
ったとおもいます。やさいたちがとてもよろこんでいたことでしょう。
「わた」のひとつのみがこしは22こもできたことにはおどろきました。す
ばらしいことです。らいねんはなんこの「わた」のみができるかたのしみ
で、つぎの「かべしんぶん」でほうこくしてね。まっているよ！！

とっておきのゴシドウ

らいねんは「わた」でなにかをつくることにちょうせんしてはいかがでしょう。いと、ぬいぐるみ、クリスマスのかざりなどがつく
れるかもしれませんね。「わた」をたねからそだて、たくさんの「わた」のみをしゅうかくして、なにかおもいでになるものができ
あがれば、しぜんへのかんしゃのきもちでいっぱいになるとおもいます。

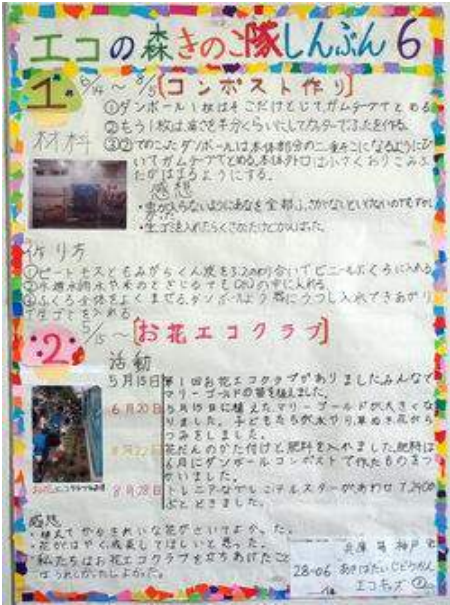


兵庫県神戸市 あきばだいじどうかん エコキッズ①
壁新聞のタイトル: エコの森きのこ隊新聞6

あきばだいじどうかん エコキッズ①のみなさんへ
師範から一言！
コンポストを作ったのですね。すごいな。むずかしかったでしょう。虫が入らないようにするのがむずかしかったと書いてくれています。においがもれることはないですか？ おじさんの家にもコンポストが2台ありますが、夏はくさくなります。作ったコンポストは、家に持って帰って使っていますか？ 児童館で使っているのですか？
コツコツ使ってゴミを減らしたり、肥料を作って使うことが大事です。また続いて壁新聞で全国のこどもエコクラブの友だちに教えてください。お花エコクラブも始めたんですね。

とっておきのゴシドウ
苗をうえる花だんのじゅんぴをしたり、苗をうえたり、水やりしたり何がむずかしかったですか？虫がついたりかれそうになったりしませんでしたか？花がさいたら花ふんやハチミツを採りにミツバチが来たり、鳥が来ませんでしたか？
実やタネはできませんでしたか？
来年にお花エコクラブをしたら、集まってくる虫や鳥のこともぜひ、調べてください。実やタネもできているかもしれませんからまた、壁新聞で教えてください。

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆
コンポスト作りやゴミ問題、植物を育てる活動をこどもエコクラブの活動で継続的に行うことは、根気もいるし生きものを相手にするので大変だと思いますが、子ども達が新しいことを見つけたり自分で調べたりこともできるのでぜひ、継続して取り組んでください。
先生方の頑張りも目に浮かぶようです。みんなで学んでいることが壁新聞から伝わって来ました。壁新聞は全国の方が見ていますので、楽しい活動の一つとしてモデルになるとと思います。こつこつ継続することが一番大切です。これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



兵庫県神戸市 あきばだいじどうかん エコキッズ②
壁新聞のタイトル: エコの森きのこ隊新聞6

あきばだいじどうかん エコキッズ②のみなさんへ
師範から一言！
エコ工作をしたのですね。もう使わないもので工作することをエコ工作と呼ぶだけでなく、ムダがない工夫をしたり材料やエネルギーをムダに使わない工作のことを「エコ工作」と呼ぶことがあります。
みんなが作った、けん玉づくり、帽子づくり、タッセルホルダー作りはどうか？何がむずかしかったかや、なんで「エコ」なのか、もう少し全国のこどもエコクラブのみんなに壁新聞で教えてあげてほしいと思いました。

とっておきのゴシドウ
おじさんもドンぐりでコマを作って大事にコマ回しをしてあそんだり、人形を作ったかざったりします。いつまでも大事にしたらエコだと思います。ゲームをしたり、飾りにしたり、役に立てたりして本当のエコ工作になるように工夫して、全国のこどもエコクラブの仲間に教えてあげてください。



☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆
昔、ペットボトルや空き缶を使った工作はなんでもエコ工作と言われる時代がありました。でも工作をしてあとは、特に役立てられずに、結局はたくさん、ゴミにして、リサイクルもできずに埋めたり燃やすしかなくて、「エコ」の意味が問題になったことがあります。
中々、難しい問題ですが、しっかりこの辺りも話し合ったり考えたりしながら活動を進めて行くことも大事だと思います。工作は、子ども達の創造性を育てたりものづくりをすることで手先を器用にしたり大変楽しいアクティビティです。ぜひとも本当のエコに繋がる工作をこどもエコクラブの活動で発展させ、全国に壁新聞ご紹介ください。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

兵庫県神戸市 ゆきのごしょエコクラブ 壁新聞のタイトル： ゆきのこエコ新聞

ゆきのごしょエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

児童館のかつどうでまいねん、くふうしながら、がんばっていてすごいなおもいました。クリーンさくせんを、まいつきつづけてえらいとおもいます。

ぜひとも、ペットボトルやおおいゴミのしゅるいをしらべてポスターをかいいたり、ごみをへらすにはどうしたらよいかをみんなでかんがえてください。ゴミをひろうのがだいじですが、なにがおおいかしらべたり、どこからゴミがくるかわかったらゴミがへるかもしれません。

こうさくもおもしろいですね。じぶんでつくったものはだいじにつかうとおもいます。

児童館のまわりのたんけんもたのしいですね。カニやエビがいたのですか？ いつまでもい

てほしいですね。かみしばいでうみのことやちきゅうをまもることをかんがえたのですか？

児童館やいえでできることもあるのでみんなでがんばってください。

みどりのカーテンづくりやおはなのうかえもたのしいしたいせつなかつどうです。

まちななかで、木やはなをそだてるのはとてもたいせつです。

エコふうとうづくりもだいじです。 いえでもできるのでやってみてほしいです。

これからも児童館でとりくんだことを、こどもエコクラブの壁新聞にまとめて、にほんのこどもエコクラブのみなさんにおしえてあげてくださいね。



サポーターへのおきゴシドウ

都会では植物や生きものが育つところ、生存できるところが減っています。回りの公園や川、児童館の庭にも、緑を育てたりして頂きたいと思います。

緑を増やすこと、生きものを調べることも、環境学習や自然の再生することにも繋がってとても大事な活動です。壁新聞も判りやすく是非、また新聞にまとめたりと先生方の頑張りも目に浮かぶようです。

みんなで取り組んでいることをこれからも壁新聞にまとめてほしいと思います。壁新聞は全国の方が見えていますので、楽しい活動の一つとしてモデルになると思います。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

兵庫県神戸市 あさひクラブ

壁新聞のタイトル： あさひエコしんぶん

あさひクラブのみなさんへ

師範から一言！

あさひ児童館は、明石川のすぐ近くにあるんだね。明石川のマップに写真がたくさんはってあって、よくわかります。みんなで一緒に歩きながら写真を撮ったのかな。身近な明石川について、山口先生に昔のお話をきいたのは、とてもいいことですね。人は弥生時代から明石川の近くに住んでいたんだね。それからずっと人と川の関係は続いていたんだね。雨がたくさん降って、川から水があふれたこともあったのかな。山口先生の子どものころは川でとれたうなぎやモクズガニを食べていたんだね。みなさんも今は川をきれいにしたり、ホタルを守ったりして、川で活動ができていてとてもいいことだと思います。

クリーン作戦のマップはとてもよくできていますね。どんなゴミが落ちているのか、よくわかりました。たばこの吸いがら、ペットボトル、空き缶がたくさん落ちているのを見ると、川を歩いてポイっと気軽に捨ててしまうんだね。花火のごみも、みんな川で遊んだあと、後片づけもしないで帰っちゃうんだね。みなさんの感想にも書かれていましたが、とても残念なことです。だけど、こうした新聞でいろいろな人に見てもらうことで、少しでも「気をつけようね」と呼びかけるきっかけになると思いますよ。



とっておきのゴシドウ

写真やイラストをふんだんに使っていますし、どんぐりの折り紙もはってあってとても楽しい新聞に仕上がっています。さらにアドバイスするとしたら、見やすくする工夫があると思います。例えば、しぜんたんけんたいの明石川のマップ、写真がたくさん貼ってあってとてもわかりやすいですね。これに番号がふってあって、下に説明が書かれていました。この説明文が、写真のすぐ下にあると、とても読みやすくなるかな、と思いました。

また、グリーン作戦とか外来種のカメの捕獲などの活動をした日付けが書いてあると、より新聞らしくなるし、活動の記録としてもいいものになると思いますよ。

クリーン作戦ではいろいろなゴミが落ちていて、どんなゴミが落ちているかをみることによって、どういうときに、どんな人がゴミを捨てるか、わかってきました。どうしたらゴミを減らすことができるか、みんなで考えてみたいですね。地域の人たちにも呼びかけて、一緒にクリーン作戦に参加してもらうこともいいことです。ゴミをすてないようにするにはどうすればよいか、話し合ってみるのもいいかもしれませんね。

兵庫県神戸市 しのっちょ・バレーヌ
壁新聞のタイトル:綿を育て！紡いでみよう！！Recycle 工作

しのっちょ・バレーヌのみなさんへ
師範から一言

しのっちょ・バレーヌの新聞は、写真を上手く使って綿の育成様子が紹介できています。綿が種から育ち、花を咲かせ、綿になるまで枯らさずにがんばって育てることができました。育てている時に病気や虫の被害も受けずに、真っ白な綿ができましたね。

昔は日本でも綿の栽培がたくさんされていたけれども、今はほとんど外国で育てられたものを私たちは使っています。なので、綿を育てる様子は、今では日本ではほとんど見られなくなっているの、とても貴重な体験になったと思います。そしてその様子を壁新聞でうまく伝えることができました。

とっておきのゴシンドウ

今回のタイトル、「綿を育てて紡いでみよう」と「リサイクル工作」の記事の関係がよく分かりませんでした。綿を育てて、糸を紡いだようですが、その糸でモビールを作ったのでしょうか？ モビールは、ふとんをリサイクルした綿の糸だけで作ったのでしょうか？ もしそうなら、モビールを作るのに十分な綿が取れなかったのかな？ 綿を大切に使う方法として、布団の綿リサイクル工作も一緒にしたのかな？ その辺りが、私にははっきり分かりませんでした。

また、今回の活動に、なぜ、「綿」に注目したのか、その理由も壁新聞に書いてあるとさらにこの新聞を作った意図が伝わるとと思います。

※綿が足りない分はお布団の綿からリサイクルして作ったようです^^



神楽こども園 りんごキッズのみなさんへ
師範から一言
おともだちひとりひとりののがおえにかこまれて、みどりがいっぱい
のちきゅうと、そのちきゅうからおおきくなったふたばのはっぱがとて
もかわいいかべしんぶんですね。
ちきゅうのりくちのぜんぶが、このようにみどりのしよくぶつにかこま
れると、すべてのいきものにとってとてもたいせつなみずやくうきが
きれいになり、エコなちきゅうになりますね。
おこめのとぎじるで、はなにみずやりをしたり、せかいのこどもたち
にワクチンをおくるためのエコキャップをあつめたり、ごみひろいをし
たりして、とてもすばらしい「エコかつどう」をやってくれて、ありがと
う！！また、おともだちといっしょにおこめづくりやみそづくりもとて
もうまくできましたね。おめでとう！！これからこのようなすばら
しい「エコかつどう」をおうえんしているよ！！

とっておきのゴンドウ
「エコかつどう」はつづけることがとてもたいせつですので、ねんちゅ
うさんのおともだちにもおしえてください。
そしてりんごキッズのおともだちぜんいんでの「エコかつどう」は、ち
きゅうにとてもやさしいおおきな「ちから」になるとおもいます。これか
らがんばってね！！



玉ーアクアリウムのみなさんへ
師範から一言！
1年間、週に2回ずつの調査は大変だったことと思います。僕も環境調査員と
してよく調査に出かけます。それだけに調査の大変さもよくわかります。
最近では「外来種」の害がよく取り上げられています。外来種の駆除はやむを
得ない場合もありますが、「外来種に罪はありません」ということに気づいたの
はとても大事なことです。この点を忘れてはただ殺すだけになってしまいます。
実は外来種の多くは食用として日本に移入されたものが多く、食物として利用
するのは本来の目的を考えても良いことだと思います。命を無駄にすることなく
「食べる」という皆さんの活動がすばらしいことだというのが新聞から伝わってき
ます。

とっておきのゴンドウ★
そして自分のおうちでやっていること、以前の新聞では駆除のため捕まえたアメ
リカザリガニを食べたとありましたが、今回はいろいろな生き物を食べてみたよ
うですね。ただ駆除するだけでなく食用として利用するのはとてもいい案です。
実はオオクチバスもブルーギルもとてもおいしい魚です。僕も東京で外来魚を
食べる会で調理されたものを食べましたが白身でかなりおいしかった記憶があ
ります。
次は今回とちがった調理法を試してみてください。いろいろな外来種の食べ方
も研究してもらって、また新聞で発表してください。有効な利用法があれば、積
極的に駆除も進めていくことができるので、「食べることで減らす」というのは実
に有効だと思います。ぜひまたみなさんの考えた調理法を教えてください。



兵庫県姫路市 ひめじアースエンジェル
壁新聞のタイトル:①警報のヒミツ ②子ども「エコ活」大作戦

28-10(推薦)、28-11 (全2枚)

ひめじアースエンジェル①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

今年の夏も台風や大雨・地震で日本とりわけ西日本にたくさん被害が出ましたね。そして、何度も警報が出ました。私たちの暮らしの中で、残念ながらますます警報についてしっかりと知っておく必要が出ている中で、警報についてや、対策についてしっかり調べ、明確に新聞にまとめることができました。

対策の項目で、「学校が休みになって嬉しいと喜ぶのではなく、危険が迫っていることを自覚することが大切」という文章には感服しました。

また、この新聞を読んで私自身、警報が出た時の行動について再確認することができたので、この新聞を読んだ他の人達も、同じように異常気象に対して自分たちでどのように備えるか再確認したにちがひありません。

とおきのゴシドウ

新聞の記事にもあるように、被害を最小限に食い止めるには、ハザードマップなどで自分たちの住んでいる地域の情報を知る必要があります。ひめじアースエンジェルのみなさんの住んでいる地域のハザードマップについて、一緒に調べたりもしたのかな。みんなで情報を共有することはとても大切です。姫路市の具体的な対策についても調べて新聞に書いて欲しかったです。

最後に、異常気象について個人の備えだけでなく、地域(グループ)で備えることも大事なので、みんなで一緒にできる防災についても一緒に調べてくれるといいなあ、と感じました。



ひめじアースエンジェル②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

私たちの毎日の生活で、環境のことを考えた行動について3つのテーマについて上手にまとめたカラフルな新聞です。2番目のテーマ、「エコなジュースの選び方」というのはとても子どもらしくていいなあと思いました。

だけど、「冷たくないジュースをえらぶ」と「CO2を出さない」というところが、私にはよく分かりませんでした。冷やすために冷蔵庫の電気を使うから、冷たいジュースを選ぶのが環境によくないのでしょうか。お店で売っているジュースを買って、冷たくても冷たくなくても、店に並ぶまでにそのジュースを作るためにたくさんのエネルギーを使っています。なので、最後に冷やして飲むか飲まないかだけ考えるのでは、エコな選び方にならない気がします。いろいろな種類の飲み物がどうやって作られ(原料がどこから来ているのか、どんな入れ物に入っているのか、どこからお店まで運ばれているのか)、お店に並ぶまでのエネルギーも比べる必要があるでしょう。ちょっとむずかしいかもしれないけど、調べてみてね。

とおきのゴシドウ

たくさんのエコ活動を紹介してくれていますが、それぞれ、どうしてその行動をすると「エコ」なのか、もう少し詳しい説明があればよかったかな。また、実際自分たちはどんな行動をしているのか紹介してほしいです。次に新聞を作る時は、1つだけテーマを決めて、そのことについて詳しく調べ、実践してみて、そして取り組んだあとどう感じたかを書いてくれると、さらに他の人もやってみようと思わせる新聞になると思います。



兵庫県姫路市 ひまわりキッズ
壁新聞のタイトル:①川や海はなぜよごれるの? ②川や海がよごれるわけ

28-12、28-13 全2枚

ひまわりキッズのみなさんへ
師範から一言

いっぱい活動している中から、今回は、「川や海がよごれるわけ」にテーマをしぼって、調べてまとめてくれたのですね。なんでよごれるのか、よごれないようにするにはどうするのかなどをよく調べています。

ほかにも、田うえ、稲かり、森林ほご、イベント参加など、活動をしたようすをかべ新聞にまとめて、みんなにお知らせしてください。活動してできたこと、感じたことなども教えてください。

タイトルはカラフルに大きく作られ目立つようにできていてステキです。



とおきのゴシドウ★

次は、調べたことを、おうちのかたといっしょにやってみたり、おうちではどうなっているのかをしらべ、よごれないようにしてみよう。メンバーのおうちでは、あぶらやよごれは紙でふいてからあらっていますか? じっさいにどのようにやっていますか? そのときのくふうはありますか? やっていなかったおうちではメンバーが教えてあげましたか? このようにできることをすこしずつやってみましょう。そして自分のおうちでやっていること、やってみたことなどをかべ新聞で教えてください。

サポーターへのとおきのゴシドウ★

たくさんの活動にも参加され、多様な活動をなさっているのがすばらしいです。豚の解体の見学までできたとはおどろきです。でも、壁新聞ではこれらのようすがわからずに残念です。壁新聞では、調べたことよりも、体験や活動のようす、活動を通じてわかったこと、感じたことなどを、できるだけ子どもたちの目線で書いて、みんなにお知らせくださるとうれしいです。

川に行って、家の近くと上流とのちがいに気づいたのはいいですね。どのように違いを感じたのでしょうか? 水の色、におい、生きもの、植生や周囲のようすなど比べてみるとよいかもしれません。また、水の汚れを調べるのであれば、簡易パケットスト(COD)を使用したり、下水処理場の見学などもできます。

自然遊びを通じて環境保全を学ぶというのは、子どもたちにとっても有益でしょう。これからも自然遊びを通じた楽しい活動をたくさん続けていってください。

グリーンキッズのみなさんへ

師範から一言

長いこと、いろんな活動を続けていますね。感心しました。えい語にふれようは良いことをしましたね。

外こくのことを外こくの人から教えてもらうのは大人になっても大事ですよ。ぜつめつしそうな生きもののことを聞いたのですね。世界中で生きものがへっているそうですよ。

日本でもいろんな生きものの種類も数もへっていますよ。また勉強して教えてください。

壁新聞に書いてくれたとおり、ぜつめつしそうな生きもののたちが、ちゃんとくらせるために、私たちのできることもあることを勉強していたので感心しました。もったいないことをしない。電気を使いすぎない。ものをたいせつにする。

そのとおりですね。ほかにみんなのできることもあると思います。

みんなで考えて勉強してください。また壁新聞で、全国のこどもエコクラブの仲間に教えてください。楽しみにしています。

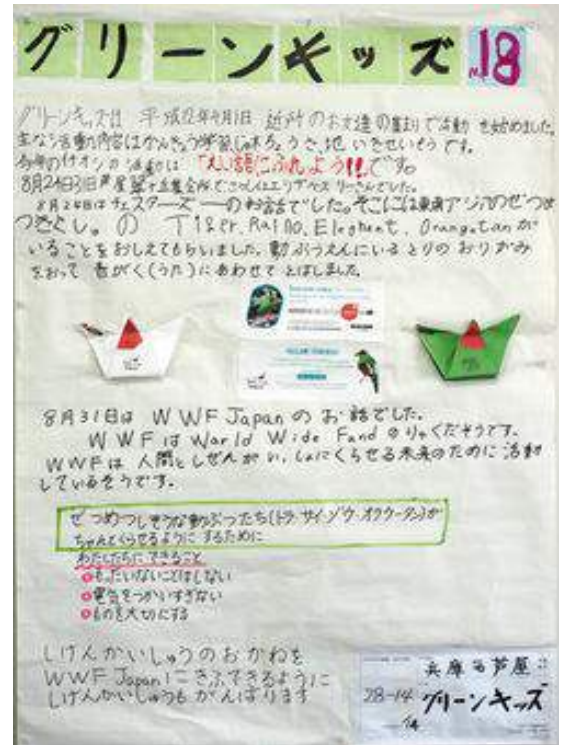
サポーターへのとおきゴシドウ

グローバルな視点を育てていくためにも大事な活動をされていると感じました。

ぜひ、チャンスがありましたら継続してください。

食料もエネルギーも海外に依存しなければ暮らしていけない日本の大事なエコ活動だと思います。身近な足元のローカルな活動と世界に目を向けたグローバルな活動を組み合わせることが大人を対象にした環境学習でも大事ですが子ども達を対象にしたこどもエコクラブの活動でも大事だと思います。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



自然といきものみ～つけ探検のみなさんへ

師範から一言！

みんながくらしている街は、山あり、川あり、林あり、畑ありなど自然がいっぱいの所かな。ビルばかりの街や電車や自動車が走り回っている街に住んでいるこどもエコクラブのお友だちもいるでしょう。自然が分かりにくいお友だちもいるでしょう。「自然といきものみ～つけ探検」クラブのみんなは自然がほうふな街にいるのだからけれど、自然の中に生きているよ、ということでみんなと生きものたちがつながっていることをこの壁新聞では、いろんな活動を通して教えてくれています。

5月31日に2つのクラブ合同で開こうしきがありました。きんちょうしたけど自こしょうかいで「これから1年間みんなよろしく！」とあいさつをしたのですね。自こしょうかいでもう一つだいじなことは、名前をおぼえてもらうことです。一つの例をしめします。リーダーの細田くんは太っているか、やせているか分かりませんが、「ぼくは太っているけれど名前は細田と言います」というとみんなは、ドッと笑ってすぐ名前をおぼえてくれると思います。

メダカ観察と生態調査を7月22日にやりました。小さな池にもモツゴやヤゴ、メダカ、コイ、ミジンコやサギなどいろんな生き物いることが分かりました。すばらしいことに気づきましたね。実は、私たちのまわりにはいろんな生き物がたくさんいることに気づくことで、人間だけが生きているのではないことに気づくことができましたね。

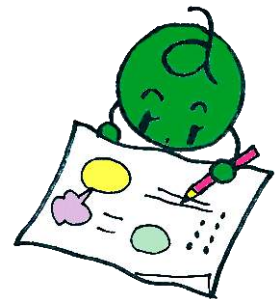
メダカをとって自分の家で育てたのですね。身近に飼っていて観察するといろんなことが分かると思います。それぞれの人が観察結果をもちよって、ノートに書き、話し合ってみると良いと思います。知らなかったこと、ビックリしたこと、おどろいたこと、感心したことなどいろいろとあると思います。そして命の大切さにも気づくでしょう。



鳥取県米子市 自然といきものみ～つけ探検
壁新聞のタイトル: 自然に生きるぼくたちと生きものたち

中海食べ物探検っていうのは、中海にいる食べられる生き物をしらべることですね。七珍と言ってどんな生き物がいるかを勉強したのですね。実際の生き物も見たのですか？観察したり、中海からあみですくい取ったのですか？りょう理をしたようですね。かにごはんやアサリのしるを作りました。そのほかにいろいろと作ったようですね。いちばんおいしかったのは、やはりかにごはんだったようですね。みんなでりょう理をつくっているようすもしゃしんでよくわかりました。楽しそうですね。自分でつくったりりょう理はやっぱりおいしいかと思います。

日清バイオマスの工場に行って、どういうふうにして発電するかを見学し、説明してもらって分ったようですね。バイオマスというのは、木材のような自然の中でそだった物を原料として、それをもやして熱にかえて、水をわかします。水は100℃をこえると水蒸気がいっぱい出ます。その水蒸気で発電機の歯(は)車を回して電気を作ります。みんなも自転車に乗った時にタイヤの回転で発電機を回すと電気がつくのをけいけんしたことがあると思います。それと同じです。発電機を回すのを、タイヤの回転でまわすか、水蒸気のいきおいでまわすか、あるいは風の力の風車でまわすか、水を高いところから低いところにおとす時の力で水車をまわすなどいろいろあります。火力発電所は石炭や石油、ガスをもやして水を熱くして水蒸気を作り、発電機を回します。原子力発電も同じで原子力で水を高温にして水蒸気を作り、発電機を回します。発電機を回すのではなくて太陽の光で発電もできます。鳥取の自然環境館で見たのが太陽光発電です。ちょっとむずかしい話ですが、地球温暖化の原因であるCO2を出さない発電は何だろうか？ということで世界の各国では、どうやって電気を作るかを考え、決めています。日本では、鳥取県では、あるいは米子市ではどうやって電気を作ったらいいだろうか？などのことを、こどもクラブのみんなでいつか話合ったらどうでしょうか？



鳥取県米子市 自然といきものみ～つけ探検
壁新聞のタイトル: 自然に生きるぼくたちと生きものたち

とっておきのゴシドウ★

日野川で水生生物ちょうさをやりました。川の中に入って石のうらにいる生き物を調べて水のきれいさやきたなさを判定したのですね。こんな生き物がいるところは、水がきれいですよ、あるいはきたないですよというのをあらかじめ勉強してから行ったのかな？あるいは生き物をとって来てから、本やサポーターの人から教えてもらって水の判定をしたのかな？

生き物から環境の良さ、悪さを知ることは大事なやり方ですね。生き物はその環境に、てきしたところに住みますが、人間にとって住みにくいところにも生きている生き物はいます。人間はいろんな道具や機械をつかって、人間が住みやすい環境にしていますが、その環境は生き物にとって住みやすいのだろうか？ということもみんな考え、話し合ってみるのも良いかなと思います。日野川をよごさないように油やごみを出さないようにしたいと気づいたことはすばらしいです。

それはそれとして、今回の壁新聞でみんながけいけんして、見て、考えたことは、人間がすみやすい環境というのは、どういう環境なのだろうか？生き物がすみやすいという環境であり、地球であるならば人間にもすみやすいのだろうと思います。そのためには、どうするか？

リーダーの細田くんがまとめて書いてくれましたね。生き物がすみやすい環境、地球というのは、たとえばきれいな水であることです。ごみがいっぱい、農薬や洗剤がながれる川、水の中では、生き物は苦しみます。死んでしまいます。すこしでもみんなができることを続けていくようにしたら良いと思います。一人一人の力がまとまると大きな力になります。自分一人がやってもダメだろうと思ってはいけません。一人が二人になり、二人が三人になり、三人が四人になりというように多くの人が協力して自分のすんでいる街を、川を、中海をきれいにすることが大切だと思います。



それ行け中海探検のみなさんへ
師範から一言！

4年生から6年生までの20人の“それ行け中海探検”クラブのメンバーは、7月から11月までの探検活動:生き物調査、水鳥観察、ゴズつり、クルージング体験、ヨット体験や食べ物探検もして、中海の豊かな自然を実感しました。その活動の様子を写真と絵とクイズも入れてくれて壁新聞にまとめました。みんな楽しそうに活動している様子が良く分かりました。

生き物はあみですくいとり、スジエビ、ごかい、も、コノシロ、クラゲやゴズ(ゴゼとも書いてあるが??)などをたくさん見つけることができました。ゴズつりもできる中海です。水鳥観察会では北から飛んできたコハクチョウをたくさん見つけました。コハクチョウだけでなくマガンやカワセミなどいろいろな鳥がいる中海です。クルージングやヨット体験もできる中海です。中海七珍料理の探検もして、自分たちで料理をして食べる体験もできる中海です。ということで“豊かな中海”というのが良く分かる新聞になっていました。

中海の近くを流れる日野川の水質調査と水生生物調査も行いましたね。この川から中海に水が流れこんでいるのですかね?中海は汽水湖ですから、海水と淡水がまざっためずらしい湖ですね。日野川の水は、きれいな水、ややきれいな水、きたない水、とてもきたない水とに分かれていたようですが、上流、中流、下流での水のちがいでしょうか。水のきれいさ、きたなさでそこに住む生き物もちがいがありますね。今回の調査では、どんな生き物を見つめましたか?私たち人間もきれいな空気の所に住みたいですね。魚や生き物もきれいな水に住みたいと思います。でもきたない水の中にでも生きる生き物がいます。生き物って強いんですね。なぜ、きたなくなったのかについても、勉強しましたね。

ゴズつりも楽しかったでしょう。ゴズという魚は関東ではハゼといひます。私も小さいころは、東京湾の近くに住んでいたんで、何回も東京湾に行ってハゼつりをしました。エサはごかいでした。みんなもごかいでゴズをつったのですか?ゴズがエサに食いつくとグーとひいて、すぐにつれた!という感覚が手に伝わり、とてもうれしい気持ちになりますね。つったゴズはどうしましたか?私たちは、ハゼを干して焼いて食べました。たくさん食べた経験があります。おいしかったです。



鳥取県米子市 それ行け中海探検 壁新聞のタイトル:豊かな中海について知ろう

コハクチョウを見るには、朝早く行く必要があるのですね。何時ころに行くのですか?数百羽のコハクチョウが見られるなんて、うらやましいです。私は見たことがありません。鳴き声にもぎやかですか?コハクチョウは中海の魚やもを食べているのですか?エサがたくさんないとコハクチョウもシベリアから飛んでこないですね。エサがたくさんあるということは、中海がきれいでないとダメですね。環境を良くすることの必要性が良く分かりますね。カワセミもいるようですが、私が住んでいるところでもカワセミを見ることができます。

カワセミは水に飛びこんで魚をつかまえて食べます。飛びこむ時、音を立てずにスーと入ります。したがって、魚は気がつかないのでつかまえることができます。カワセミのくちばしにとくちょうがあります。このくちばしの形をまねして山陽新幹線の500系先頭車両を作りました。山陽新幹線はトンネルがとて多くて、トンネルに入る時と出る時に音を立てずに静かに出入りするためにカワセミをまねたようです。

とっておきのゴンドウ★

それ行け中海探検クラブのみんなのすばらしいところは、色々な活動をやって活動のおもしろさや楽しさをしっかりと書いてくれていることですが、それ以上にすばらしいのは、生き物を通して環境を大事にする、良くすることをしっかりとうたえていることや自分たちが何をしなければいけないかを考え、実行に移そうとしていることです。もう一つすばらしいのは、宍道湖自然館ゴビウスでの学習にも見られますが、いろいろな活動の報告の中に、一生けん命勉強しようという姿勢がいつも見られることです。クラブの伝統でしょう。次に続く5年生、4年生もこの姿勢を引きついでくれるでしょう。

リーダーがまとめを書いてくれています。とても大事なことが書かれていました。「人がしてしまったことは、人の力で何とかする、何とかする」「そうです」だから人間なのです。

ここの内容をもっと考えていくと、問題や課題がわかったら、自分たちでできることは何だろうと考え、他人にまかせるのではなく、自分たちも解決に向かって行動をおこすことでしょう。これまでは中海をきれいにするために大人たちががんばりました。これからは、大人たちといっしょになってみんなも中海をきれいにする行動をやることですね。

中海の活動を通して、今、世界が問題にしている地球温暖化や森林の減少についても、しんけんに取り組む必要があると気づきました。立派です!こういう身近なことから大きな問題に気づく“ものの考え方”ができるリーダーであり中海探検クラブのみなさんであることは、本当にすばらしいですよ。

日吉津イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

みんなでいろんな活動をしていますね。
一番、感心したのは「ごみをへらして自然を守ろう」と壁新聞に大きく書いたところですよ。
やはり中海はまちの中にごみが増えていますか？
水鳥かんさつ会や中海クルージングやかんきょうフェスタは楽しそうですね。
中海の水はあまりきれいでなかったり汚れていたんですね。
せっかく行っただからかんきょうフェスタの人に質問したり調べて来て壁新聞でも紹介してほしいと思います。全国のこどもエコクラブのみんなに、調べたことやわかったことを壁新聞で知らせることもだいじです。がんばってください！



とっておきのゴシンドウ★

どんなところで、みんなで「へらさないで自然が守れない」と思いましたか？
おじさんは川や海岸で生きものを観察したりごみを拾う活動をしています。ごみを拾うだけではダメだな。捨てないようにしないといけないし、ごみをへらさないといけないと良く思うので感心しました。
ごみを拾っても拾っても捨てる人がたくさんいるのでキリが無いのです。みんなはどう思いましたか？
今度は、壁新聞のタイトルにした理由を全国のこどもエコクラブの仲間にぜひ紹介してください。

☆☆サポーターへのゴシンドウ☆☆

自然体験学習や自然観察会も楽しく安全にが一番大事だとは思いますが、子どもたちが調べたり記録すること、発信することを経験できたりますます すばらしい活動になると思います。
子ども達が自分たちでまとめた壁新聞で「子ども達の思いが伝わってきて良い」と思いました。
全国にも発信されて、こどもエコクラブの子ども達やサポーターさんの参考にもなりますし、環境対策の輪の広がりにも役立ちますのでこれからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。
本当にご苦労が多いと思います。こどもエコクラブの子ども達と一緒にがんばってください。

上津探検隊のみなさんへ

師範から一言！

自然たっぷりのとてもすばらしい「ケロケロカエル調査新聞」を作ってくれてありがとう！！

1年間に55回というものすごい数で上津探検隊のみなさんがいっしょうけんめいにいろいろな活動してくれたので、このようにりっぱな調査新聞ができたのです。また来年に向けてのすばらしい目標も一つ一つくわしく書かれており、とてもおどろきました。
たまごの数がへった「モリアオガエル」とたまごの数がふえた「ヤマアカガエル」の11年間のデータ、さらにその理由と今後のしっかりとしたいさくには感動しました！！非常にきちょうなデータなので、今後もぜひ、この調査を続けてほしいと思います。
「カエルランド」の絵がじょうずに書かれているので、そこがどのようなところで、どのような生き物がいるのか、この調査新聞を読んだお友だちにかんたんによくわかるとても良いアイデアだと思います。
すべての生き物の「命」にとって、水や空気がとても大切で、これらの生き物の食べる・食べられるの関係(食物連鎖や生たい系のピラミッド)を通じて、いろいろな「命」のつながりを持っており、「カエルランド」のかけがえのない自然について学んだことをじゅうぶんに発表できたみごとな調査新聞だと思います！！



とっておきのゴシンドウ★

調査新聞を通して、みなさんと自然とのかかわりあいがとても重要であることをじゅうぶんに体験できたことを大人になっても忘れないようにしてください。

またこのような大切な体験をみなさんよりも小さい子どもたちにも伝えていけるようにがんばってください。そしてみなさんの1年間のたくさんの活動をいっしょうけんめいにおうえんしてくれ、そしてこのようにりっぱな調査新聞ができあがるまで、ねっしんにささえてくれ人たちへのかんしゃの気持ちを忘れないようにしてください。

倉敷イオンチアーズクラブ マスカット隊のみなさんへ
師範から一言

1年間で体験したこと、考えたことがとてもわかりやすく書かれている壁新聞だと思いました。マスキングテープを使って、枠を作っていて、読みやすくなっていますね。文字もペンではっきり書かれていて、とても良いと思います。
リサイクルマークのついたものを使うことを「リジェネレート」というのですね。私も普段からなるべくエコマーク商品を使っています。リサイクルはリサイクルするだけでなく、その商品を使ってこそ完結する、循環が成り立つ、と言いますので、リジェネレートに取り組むことも大切ですね。
ごみと雑紙を分けたら、ごみの量が半分以下になったのですね。すごい！お菓子の箱など、雑紙は結構多いので、みなさんのようにしっかり分別すれば、貴重な資源になりますね。
クリーン大作戦では、一番多かったごみは「空き缶」だったそうですが、タバコの吸い殻がないのがめずらしいなと思いました。街中ではタバコの吸い殻が多いのですが、自然の中ではプラスチック関係のごみが多いのですね。
とっておきのゴシンドウ
活動したことや、発見したこと、思ったことなどが自分の言葉で書けていますね。普段から活動をした時にはメモを取ったり、ふりかえりをしたりしているのだと思います。ぜひこれからも続けて下さい。
「まとめ」に書いてある「昔の生活をするのはむずかしいので・・・」というのは、その通りだと思います。でも、そこで自分たちは「倉敷市のごみゼロ作戦 5R」をやろう、と考えたことはすばらしいことだと思います。自分に合った取り組みの方が長続きします。周りの人にも声をかけて広めやすいですね。まずはできることにみんなで取り組んでいきましょう。



わくわくエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

私も淡水魚関係の仕事(調査、講師等)をしています。最近ではウナギに関して悲しいことばかりが話題になりますね。そんな中で調査をしている川でのウナギの発見。死体だったとのことですが、ウナギが棲んでいることが確認されたのはうれしいことと言っていいかもしれません。
その他にもアカザ、オヤニラミ、スナヤツメ等が見つかったことから加茂川は水質のいい川だということがわかります。オオサンショウウオまで見つかったのですから東京に住んでいる私にはうらやましい限りの生き物の多い川ですね。
そんな川で調査を続けていることは、とてもすばらしい活動でだと思います。今後もこのような活動が継続されることを願っています。私にできることは協力していけたらと思います。

とっておきのゴシンドウ★

一般の方々に川の状況を知ってもらうためにも、「川をきれいにする5か条」はとても重要なものだと感じます。
ウナギを含め日本の淡水魚は、熱帯魚にくらべ、体の色が地味なものも多く、目立たないために知られていないこともあります。
それが保護活動の際に、支障となることもあるので、このような活動はとても大切です。
今回発見されたウナギをきっかけに、次の新聞では、ぜひ写真入りで、こんな生き物がいます、と紹介してもらえればと思います。とてもよい活動なので、私も東京から応援しています！



イオン広島祇園 チアーズクラブ よつば隊①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

「メンバーの名前にたくさんのステキなマークがついているけれど、なんだろう？」
まずそんな感想を持ちました。なるほど、表題のおもちゃのエコ工作でつくった
「オリジナルはんこ」で生まれたマークだったのですね。メンバー紹介と、活動成
果と、そして見た目の楽しさも兼ね備えた、とてもステキなデザインになりました
ね。

また、エコ川柳の方は、順だって配置するのではなく、元気いっぱい、まるで流
れる木の葉のように配置していますね。これにより、読み手も、流れるように川柳
を楽しむことができます。川柳は言葉のリズムが大事ですが、この川柳集では、
いろんな学年の川柳が、自由に流れるように配置されているので、全体としてもリ
ズムよく、とても楽しく読み進むことができました。



とっておきのゴンドウ

川柳という形をとれば、多様なこどもたちの気持ちをうまく表現できるので、これからも活用してほしい文化ツールです。読んでも
年齢層を選ばず好まれるので、壁新聞とは相性もいいですね。

今回の壁新聞を読んで、私は、＜オリジナルはんこ＞はどうやってできたのだろうと、もっとくわしく知りたくなりました。作り方も絵
つきで書かれてはいますが、道具や使い方、色の付け方などの作業が少しわかりづらかったです。「私もやってみよう！」と読ん
だ人達が思えるように工夫してみると、グンと情報の魅力やわかりやすさがアップしますよ。

環境活動は、結果も大切ですが、それを普及するためには、その過程をいかに見せるかということも大切な視点になります。み
なさんの活動そのものが、エコ活動になっているので、これからもどんどん活動を報告してください！

イオン広島祇園 チアーズクラブ よつば隊②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

世界文化遺産である「厳島神社」。そして、島全体も聖地として昔から崇めら
れていたため、今もすばらしい自然景観が残されていますよね。

しかし、日本有数の観光地でも有り、都市地域からも海を挟んで近いため、
どうしてもゴミなどが海岸に流れてしまいます。みなさんが、こうしてゴミ集め
などの活動を行っているの、今もその美しさが保たれているのですね。そ
れにしても、危険なゴミも漂着しているのですね。こうしてみなさんが分類し
て表してくれるので、ゴミを通して、社会の問題も見えてきます。今回の新聞
ではそれがすごくよくわかりました。

また、ゴミ収集の記事とともに、生物観察の記事も載せたことで、命の場所と
しての宮島の自然と大切さもアピールでき、「宮島を守ろう！」というメッセー
ジがよく伝えられたと思います。



とっておきのゴンドウ

世界遺産には、実は3タイプあります。「文化遺産」と「自然遺産」そして自然と文化ともに優れている「複合遺産」です。「厳島神
社」は自然遺産ではなく文化遺産で登録されています。

さて、日本には、現在世界遺産が20ありますが、そのうち自然遺産は4つしかありません。「複合遺産」に至っては0です。日
本は自然が豊かだといわれているのに、どうしてでしょう？日本の代表的な自然景観の「富士山」も世界遺産として登録されて
いますが、これも信仰の地としての評価がされた「文化遺産」です。

日本は、豊かな自然をもっているのですが、その保全がうまくいっていない、という問題があります。だからこそ、みなさんの
ようなゴミ清掃などの活動やそのPRによって、自然環境を守ることが非常に大切になっています。

日本の顔であり、世界の宝である宮島をずっと美しく保ちつづけるために、みなさんの活動はとても大切な役割を担っていま
す。地域と一緒に活動を育て、そのすばらしさを世界中に発信してほしいと思います。

あわっ子！エコ！クラブのみなさんへ
師範から一言！

三井住友銀行賞おめでとうございます。

多岐にわたる様々な活動の取組みと、それらをうまく壁新聞にまとめ発信されているのがとても素晴らしいです。それらが評価されたことと思われます。

自然体験、生き物観察、季節の野菜を楽しむ、エコクラフトなど、春夏秋冬それぞれで季節を楽しみ積極的に活動されているのがステキですね。

清流吉野川で、自分たちの住む町の川と河口近くの川で様子の違いを体感できたことと思います。吉野川市内の飯尾川は宝物のような川とのことで、ぜひ皆さんで、この環境が維持できるように大切にしていってください。

家族中心のクラブでも、体験型イベントへの参加や、季節を楽しむ行事などでこのように様々な活動ができるものかとおどろいています。地域の文化や伝統行事を楽しまれているのもすばらしいですね。農作物を通じて産学官農工商のコラボレーションを学んでいるとのこと、幅広い視野で、地域の環境や持続可能性を考え、地域のリーダーとなっていってください。

メンバーも今年度は高校3年生でメンバーとしては最後の学年、最後の集大成の壁新聞を期待させていただきます。



とっておきのゴンドウ★

ひとつ気になったのは、飯尾川の COD 値がとても高いことです。清流なら COD1～3 ぐらいかなと思っていましたが、もしかしたら何かの原因があるのかもしれない。ごみや泡が浮いているというのは生活排水が流れてしまっているのかもしれない。川でも違う地点や、別の支流なども調査してみて、そのちがいがわかると何かの発見があるかもしれません。身近な川は私たちの生活の影響が出やすいところです。この身近な川の汚れが減り(COD 値が下がり)環境が良くなるように、どうすればよいのかを考え、ぜひこどもエコクラブの子どもたちからの声として、役所の人、まちの人たちにも伝えていってください。この飯尾川の水が吉野川へと流れ、吉野川の河口近くの生き物たちの生育にも影響してしまいます。壁新聞としては、項目ごとにわかりやすく区切られていますが、「じょう水じょうしんぶん作り」などそれぞれに小見出しがつくと、さらに新聞らしくなるでしょう。

シオン・エコサイエンスクラブのみなさんへ
師範から一言！

シオン・エコサイエンスクラブのみなさんは、いろんなことをやったのですね。身近な川や池の水質調査をしました。メダカとカダヤシの数を調べました。いろいろな所の二酸化炭素の濃度も調べました。調べるだけでなく、ごみを拾う清掃活動やリサイクル工作もしました。ザリガニ釣りもしました。エコキャンプで四万十川や黒潮町での体験活動や化石掘りもやったのですね。身近な自分たちが住んでいる地域を知る大事な活動と共に楽しいこともしました。1 年間を振り返るとこんなにたくさんのことをやったのかと、みんなもビックリしたのではないのでしょうか？

ところでみなさんは、きれいな地球で遊びたいと願っているのですね。きれいな地球ってどんな地球なんだろう？1 年間の活動が始まる前に、みんなて話し合ったのだと思います。

どんな地球、どんな日本、どんな香川県、どんな木太町、どんな街、どんな地域にしたいのですか？

実際にやっている活動を見ていると、きれいな川、池があり、メダカがたくさん生きていて、二酸化炭素濃度が 200ppm 位に低くて、みんなが大変お世話になっている早明浦ダムがきれいで周辺にもごみが無いような街になってほしいのでしょうか。

実際に水質を測ってみたり、二酸化炭素濃度を測ってみたり、メダカやカダヤシの数を調べたり、ダムに行ってみると、いろいろな問題が分かりましたね。きれいとはまだ言えないじょうきょうでした。実際の状態はどうであるかを最初に調べて、その結果を解析して、どうしたらみんなの目標である“きれいな地球”にするには、ということを考え、次にみんなが行動を起こすことがとても大事です。ただし、自分たちだけではどうしようもないこと、自分たちの行動では解決できないこともあるでしょう。でも問題をはっきりさせ、何をしたら良いか？自分たちで出来ることは何かを考えることは、非常に大切だと思います。

水質調査は、2002 年からけいぞくして調べているのですね。とってもおもしろい結果が出ていますね。数値の表にしていますが、横軸が COD で縦軸が透視度、あるいは横軸が年月で縦軸を COD や透視度のようなグラフにしてみるともっとわかることが見えてきませんか。この表の数値結果からは水の透明度と COD の値が、関係がないようですが、私にはちょっと意外でした。透明度が悪くなると COD が高くなるのかなと思っていましたが、関係が無さそうですね。グラフにしてみるとちがうかも知れませんが・・・年月と COD や透明度のグラフに見ると、どうして COD や透明度が上がったり、下がったりした理由も見つかるかも知れませんよ。

香川県高松市 シオンエコサイエンスクラブ
壁新聞のタイトル:きれいな地球で遊びたい

とっておきのゴシンドウ★メダカとカダヤシの数の変化もおもしろい結果ですね。せっかくこれだけのデータがあるので、データの説明だけでなく、なぜ、そうなったかをみんなで話し合い、原因を考えるようにしたら良いと思います。まちがっても良いのです。みんなで考え、話し合いをしてこうだろうと言う原因を出してみることが、とても大事です。メダカがたくさん生きていた次の年は、きゅうげきにへって、ほとんどゼロ匹になってしまう、カダヤシがメダカの卵を食べてしまうからなのですが・・・でも木太北部小西側水路は2017年に回復していますが、なぜだろう？

人間を含めて生き物が元気で生きていくためには、食べ物が必要ですね。それに寝たりする住み家が必要です。それに食べられてしまうてきがないことも大事です。生きていくためにきれいな空気や水も必要です。そんなことを考えながら、なぜ、メダカがいなくなったのか考えてみると良いですね。カダヤシにたまごを食べられたこともあるかも知れませんが、メダカと共にカダヤシも少なくなっているようなので、カダヤシのせいだけではないかも知れません。

二酸化炭素濃度の測定結果もおもしろい結果ですね。濃度が高くなったり、低くなったりする原因を自然が豊かであるか、少ないか？で判断しました。ところで自然って何のことですか？森、木や植物のことを考えているようですが、川や海も自然です。砂漠も自然です。山も、岩だけの山も自然です。逆に自然がないところは、二酸化炭素濃度が高いですが、なぜ、高いのでしょうか？自然が有る、無い、だけで原因を考えるのは、ちょっと足りないではありませんか？植物を植えることはとても大事なことです。二酸化炭素濃度がなぜ高くなったか？二酸化炭素を出さないようにするには、どうしたら良いか？逆に空気中に出てしまった二酸化炭素をどうやって低くするか？ということをみんなで話し合っ、その結果を書いてほしいと思います。家庭から出る二酸化炭素は、どこから一番出るでしょうか？そこをちゃんとわかると、みんなが何をやったら良いのかの解決策が出ますよ。この次の壁新聞は、みんなが考えた“なぜ？”を書いて、こういうことだから“こうしたい”と言うことが書かれている新聞を期待しています。

最後にせっけんスイーツ作りの作品は、本当においしそうですが、食べられるのですか？



愛媛県新居浜市 新居浜イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル: めだまっちしんぶん

新居浜イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

とてもカラフルな「めだまっちしんぶん」を作ってくれてありがとう！！
木の葉っぱにみなさんの気持ちがたいへんよく書かれている「めだまっち」、とてもかわいいね！！また、こうような葉っぱで「めだまっち」を作ると、もっとちがうふんいきの顔になり、さらに楽しくなると思いますので、今度チャンレンジしてみてね。

「田んぼの学校」では、田植えの時のきちょうな自然体験、稲かりの時にはいろいろな生き物や稲の米の数などの調査、もちつき・しめ縄作りの時には今ではなかなかできない日本のでんとう文化の体験を通して、たくさんの人たちと協力しあって、思い出にのこるきちょうな「田んぼのいっしょう」の勉強ができたと思います。渦井川のカジカガエルの観察やロマネスコの収穫もめずらしく、とてもよい体験ができましたね。リサイクル工作のりっぱな募金箱も作りましたね。その募金で困っているたくさんの人たちを助けてあげる活動もすばらしいと思いますので、続けてがんばってね、おうえんしているよ！！



とっておきのゴシンドウ★

このクラブを結成して15年以上もたっている活動は、せんぱい、おともだちそしていっしょうけんめいにおうえんしてくれたサポーターのみなさんたちの協力、理解、思いなどが長い間しっかりしていたからだだと思います。さらにこれらの活動を通していろいろな発見、不思議や感動がたくさんあったからだだと思います。このように息の長い活動をこれからもずっと続けていってほしいと思います。

レインボーキッズのみなさんへ
師範から一言！

発信したいことを左端のコラムに漢字一つや短い文字で表したことで、何かな、読んでみよう、というきっかけを上手く作れています。そして、それぞれの項目について様々な活動を、上手くまとめています。そして、活動内容も森・食・自然・農・伝統とたくさんの領域にまたがった活動であり、その報告が1枚の写真とともに簡潔にまとめられていて大変読みやすいです。それぞれの写真が“ecogramu”仕立てになっている所なんて、今どきの新聞だなあと感心しました。Likes 数がそれぞれの項目で違うので、なにか意味があるのかな、と考えてみたりもして、とても楽しい新聞です。

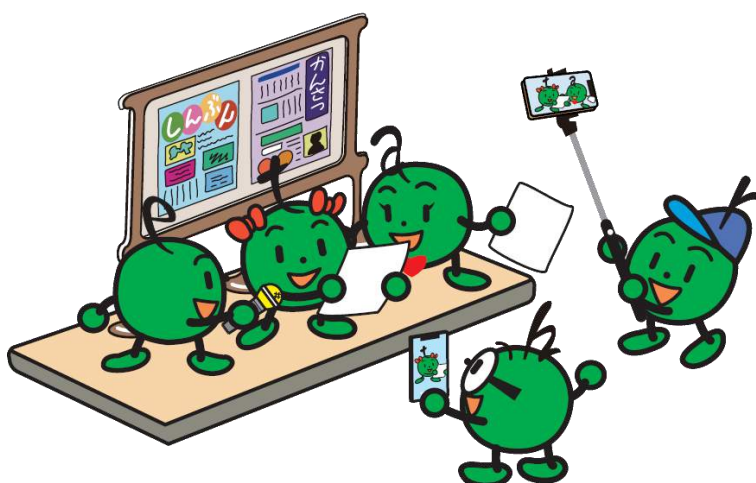
メンバーに高校生がいるからかな、持続可能な漁業について考えさせるMSC・ASCのラベルについて書かれていたり、これからの環境活動のキーワードESDがタイトルになっていたり、いろいろな深く考えて書かれた壁新聞です。レインボーキッズの活動を知り、私たち大人ができることのヒントもいっぱいです。



とっておきのゴシドウ★

赤枠で書かれた来年の目標にしたがって、2018 年もいろいろな取組を実践しているのだらうなと想像します。

とりわけ、「愛媛の魅力をもっと知る」という目標、愛媛の魅力を環境の眼でどのように捉え、壁新聞などでどのような形で私たちに伝えてくれるのか、とても楽しみです。また、今年の夏の自然災害を振り返っても、防災の知識を身につけておく必要が増しています。康太郎君の今回の避難訓練の体験を含め、異常気象に備えるために何をしたら良いかいろいろと学び、ぜひみんなに伝えることも今後の活動に入れていって欲しいなと思います。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン

壁新聞のタイトル:①それいけ香美市こどもエコクラブ ②未来のために今 CoolChoice！！
(枚)

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン①を書いたみなさんへ
師範から一言！

香美市こどもエコクラブの1年間の活動がないので、6年生2人が活動全体をまとめたのですね。
すごい力作です。

活動日を書き、どんな活動をしたのかをタイトルと写真を入れて、さらに感想なども書き込みました。
それにしても非常にたくさんの活動をしたのですね。ビックリです。クラブの人数が2人と書いてある
けれど、2人でこれだけの活動をしたのではないですね。今、私の手元には香美市こどもエコクラブ
の壁新聞は、4枚あります。クラブの人数を合計すると44人ですので、44人ががんばってやった結
果ですね。ですから「みどりサイクル」「ハッピーアドベンチャー」と「ハッピーコロリン」②の活動をま
とめて「それいけ 香美市こどもエコクラブ」①となっているのかと思います。

主な活動の③リサイクルの大切さの啓発活動では、バリューNoa の店のエコ発見たんけんや大前田商店や田中石灰工業のリサイ
クル工場見学をしてリサイクルの実態を見学してきました。本で読んだり、テレビで見たり、人から話を聞くだけでなく、実際に自分の足
と目で見ることで印象深く、且つ理解も深まります。どういふことかと言うと、足でかせぐ、すなわち現場に行き、目で見たり、鼻でにおい
をかいだり、肌で熱さを感じたり、耳で機械の音を聞いたりする5感にうったえる活動がとても大切です。その活動を香美市こどもエコク
ラブは実践していることに頭が下がります。啓発活動として3年生の岩村さんが壁新聞を発表しています。その目的はほかの人たちみ
んなに知らせたいからと書いてありました。すばらしいな！

今年一番うれしかったことは、さおりが原に生態系が復活したこと。植物は緑が濃くなり、花が咲いた。虫もたくさんもどってきた。うれ
しいでしょうね。みんなの努力が実を結んだのですね。スズメバチも飛び回っていましたが刺されないように気を付けてください。
台風18号でみやびの丘がメチャメチャになって大変でしたね。悲しいですね。いっしょうけんめい木を守り、草花を守ってきたのだと
思います。また、11月19日には雪もめずらしく降りました。台風が強くなり雪が季節外れに降るなど日本の気象がくるってきました。
これらは地球温暖化が原因の一つであるようです。みんなでCool Choice をやって、少しでもCO2を減らしていきましょう。

6年生のリーダーががんばって「みどりの小道」環境日記で環境大臣賞を受賞して、本当におめでとうございます。3か月間継続して
日記をつけるのは、簡単なようですが、そんなことはありません。良かったですね。実は壁新聞師範の私も地球温暖化防止活動の環
境教育・環境学習を長年継続して実施したことが評価されて、2017年12月4日に環境大臣賞を受賞しました。お互い良かったです
ね。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン

壁新聞のタイトル:①それいけ香美市こどもエコクラブ ②未来のために今 CoolChoice！！

私たちの楽しいサポーターたちと私たちのゆかいな仲間たちの写真はとっても良いですね。顔が見えるというのは、人と人
をつなぐ大きな力になります。

リーダーは中学生になり、これからはこれまでのようには活動はむずかしいようですが、“やります！”と宣言してくれているよう
で、ぜひ、後輩たちのためにもがんばってください。永年、ごろうさまでした。

とっておきのゴンドウ★

主な活動の①シカの食害から山を守る活動は、苗や木を保護柵で囲んで食べられないようにしています。これまでも効果は出
ていたかと思いますが、その後はどうですか？②のCool Choice の輪を広げるは、クールビズカラーとウォームビズカラーの
実験がそのうちの一つでしょう。

色と光の関係は、どうなっているかは分かっているかと思いますが、ちょっとだけ説明しましょう。

赤色って光の色の内、赤色の光だけが反射して目に届くから私たちは赤色に見えるのです。赤色以外の光は吸収されて目に
届きません。白色というのは、全部の色の光が反射されて目に届くから、私たちには白色と見えるのです。それでは黒色ってな
ぜ見えるか分かりますか？黒色って光はありません。全部の色の光が吸収されて、光が目には届かないから目には見えないの
です。目の網膜には光が来ていません。その時は脳の中でこれは黒色ですと判断するので、黒色と分かるのです。黒色のま
わりが黒色でないと、まわりは見えます。しかしまん中の黒色からは光が来ないので、結果として黒色が見えるのです。従っ
て、バックが黒色の壁や幕の前に黒色の服を置いても、黒色の服は見えません。差がないから見えないのです。だから夏は白
色の服を着て、太陽光線を全部反射させて熱を吸収しないようにします。逆に冬は黒色の服を着て太陽光線を全部吸収して、
熱がたまるようにするのですね。木や草は緑色をしています、木や草の光合成には緑色は使えない光なので、反射していま
す。その結果、木や草は緑色に見えます。木や草は緑色が好きなのかなと思いますが、実際は好みの色ではないようです。色
を考える時にこんなことも考えるとちょっとおもしろいかな？



香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン②を書いてくれたみなさんへ
師範から一言！

Cool Choice ってなあに？この壁新聞を見てください。よく分かりますよ。“賢い選択”
Cool と言うとクールビズという言葉で良く知られましたので、涼しい と言う意味かなと思いますが、ちがいます！クールな人間と言ういい方もありますね。冷静な とか沈着な人間 とか言う意味からも賢い と言う意味が想像できますね。もう一つ、Cool Choice という言葉にこめられている「賢い選択」とは、私はこうします、ぼくはこうします あなたはどうしますか？ということでみんながこうするから私もこうします、ということではなくて自分が考えた結果、私はこうしました、という一人一人の意思がこめられている活動だと思っています。
この壁新聞の良さは、一人一人がこんなことをやったら、地球が救える、地球のCO2を少なくすることが出来るのではないかと、ということで一人が一つのテーマを選択して、自ら調べて、行動をします、行動をしましょうと提案していることです。



家を涼しい、エコな家にするには、どうすれば良いかを細川はるかさんは考えてくれました。
風通しを良くしよう！太陽の光があたらないようにしよう！打ち水をしよう！カーテンをつけたら良いのでないかな、の4つを考え実際に温度を測ったりして調べました。世の中で言われていることが本当だろうか？自分で調べました。本当にすばらしいやり方です。打ち水をすると温度は下がるけれど湿度が上がることが分かりました。蒸し暑くなることが分かりました。快適な環境ではないですね。日本では昔から打ち水をやって快適な暮らしをしていましたと聞いたことがあるでしょう。でも、打ち水は朝や夕方のちょっと涼しい時にやっていました。昼の温度が高くなってからはやっていません。細川さんも気がついたように湿度が高くなり蒸し暑くなることを昔の人は知っていました。打ち水をすれば涼しくなるということで間違ったやり方をしている人も世間には多いようです。
時久心さんは、服の色に着目してクールビズを考えました。ペットボトルのまわりに黒、赤、青、黄、白のフェルト、そしてフェルトなしの場合の温度を測りました。一番温度が高くなったのは黒、反対に一番低くなったのは白でした。これは予想通りではなかったですか？冬は黒い服を、夏は白い服を着るでしょう。時久さんの調査でおもしろいのは、1年生から6年生までの結果を分けて、なぜ、黒い服を着るのかを調べた事です。服を着る時には、暑さ寒さだけでなく、カッコいいから、気に入っているから、好きだからなどの理由で黒服を着ることがはっきりしました。でも、時久さんは、CO2を減らしたいから夏の暑い時には白服を着てもらうように「スタイルブック」を作り、黒服を着る人に配りますとのこと、すばらしいチャレンジですね。

“カレーでSTOP温暖化”何これ！というすばらしいキャッチフレーズですね。地産地消ということでカレーの食材でフードマイレージを計算して、地元食材を使うことの良さをアピールしてくれました。地産地消が良いということは、聞いていたでしょうが、実際に食材を取り上げ、計算をしてみて、良さがはっきりしました。このようにみなさんのどの活動も自分で調べてみることをていついていいることが、本当にすばらしいです。

恒吉空澄さんは、水をテーマに Cool Choice を考えてみました。トイレはどうなっているのかな？1階と2階のトイレの結果ではどうなったのか分かりませんが、1階は正しくない結果だったと言いますが、何が正しくなかったのかな？次に家庭の水の使い方を調べてみたら、シャワーの水の使用量がとても多いことにビックリしました。お風呂に入ってシャワーを使うのは、当たり前と思っていたが、実際に水の使用量を調べると336Lで、お風呂とトイレは130L程度でした。圧倒的にシャワーの使用量が多かったです。調べてみることの大事さが実感できました。大人が出来る節水として、シャワー、洗車、料理、水を出しっぱなしにしないことが書いてありますが、大人だけでなくみんなも出来ることですね。

先生たちのエコについても調べたようですね？みんなが取り上げたこと以外のこともたくさんありました。みんなが気がついていないこともあったかな？こんなことも参考にして自分は何をしたら良いか、ヒントがたくさんあったと思います。

Cool Choice とは、自分が出来ることを選択して続けることが大事です。Cool Choice は1年中やることです。今回は夏版でしたが、冬版はどうやるのか楽しみです。結果を待っています。

とっておきのゴシドウ★

渡辺まといさんと黒石佐和さんは、家で使っている電気に注目して、照明やエアコンを節電することの大事さを実際にいろいろと調べて導き出しました。節電がいい！というのは聞いていたと思いますが、お二人のすばらしさは、本当に節電が良いのか？どの位いいのかを調べたことです。自分たちで調べたことですから、他の人に話し、提案する時に力強さがにじみ出ます。

家庭から出るガスのCO2で一番多いのは電気ですと聞いてびっくりしたようですね。どうして電気を使うとCO2がたくさん出るか分かっていると思います。家にあるテレビやエアコン、掃除機を使うとどこからCO2が出るのだろうか。家の中にある電気機器からはCO2は出ません。発電所でするのですね。石炭やガス、石油を燃やして電気を作ります。物が燃えるとCO2が出ます。

でもちょっと考えて欲しいことがあります。将来、未来の生活で電気を使わない暮らしって考えられますか？たぶん、これからも電気は使い続けるでしょう。電気が悪いと言ってがまんして使いましょう！となったらとても不便な、苦しい暮らしになるでしょう。どうしたら良いでしょうか？考えてみてください。

香美市こどもエコクラブ 自然となかよしのみなさんへ
師範から一言！

「自然となかよし」というクラブ名で「自然はともだち」という壁新聞の中で、一つの山の形を三つのテーマである「山」、「原」と「川」にわけて、それぞれのふうけいをちがった色にわけて、さらにそれぞれの活動を絵やしんつきでとてもうまくせつめいしてくれましたね。これによって自然をともだちとしてなかよくしていることがほんとうによくわかるすばらしい壁新聞です！！

さおりがはらの「山」に木が少なくなったので、ブナの木のをえをうえて、さらにシカよけのネットも苦労してはってがんばりましたね。うえたばかりの小さなブナの木を食べるシカからまもるためには、このネットが一番いいほうほうの一つですね。

「原」ではネギやニラでりょうりをして、水やせんざいなどをあまりつかわないようにした大きなさらでの「エコりょうり」は、とてもよいアイデアですね。

「川」では舟入川をきれいにするためのゴミひろいはとてもりっぱな活動ですね。おともだち、しどうをしてくれる人たち、かぞくの人たちといっしょに「山」、「原」と「川」の自然をまもるために、これからもずっといろいろなかんきょうやエコ活動をつづけてほしいと思います。



とっておきのゴシドウ★

「山」、「原」と「川」の自然をまもるためのいろいろなかんきょうやエコ活動が前の年と今年とくらべてどのくらいよくなったか、またはわなくなったかのデータのきろくといっしょに、みなさんのこれらのすばらしい活動や思いをどこかではっぴょうできるようにしたら、さらにやりがいやはげみにつながると思います。また、「山」、「原」と「川」になぜちがう色でわけたかをこの壁新聞のどこかでかんたんにせつめいしてくれていれば、この壁新聞を読んでくれるおともだちにもっとわかりやすかったかなと思います。

香美市こどもエコクラブ みどりクラブのみなさんへのみなさんへ
師範から一言！

四国の地図の絵が書かれた「楽しいエコキャンプ新聞」の壁新聞は、一泊二日のエコキャンプでの活動がくわしく書かれており、この新聞を読んでくれるお友だちが本当に楽しくなるような新聞ですね！！

この1年でやった活動でもいろいろなきょうな体験ができてよかったね。バームクーヘン作りではこげずに年輪(ねんりん)のかたちがうまくできて焼けたようだね。

くじら館では海にすんでいる生き物についての映像、動画、クイズなどで勉強できてよかったね。

くらやみたんけんも、いそたんけんもハラハラドキドキだったようだね。エコキャンプすごろくは、エコキャンプでのたくさんの活動をとてもしょうずに説明している思い出にのこるすばらしいゲームだね。

とっておきのゴシドウ★

壁新聞の名前が「楽しいエコキャンプ新聞」なので、どこがどのようなエコ活動につながったのかももう少し書いてくれたら、もっとすばらしい壁新聞になったのかなと思います。

お友だちとあそんだすごろくの結果はどうだったかな。次回の壁新聞では、ニッセイの森での植樹、物部川でのゴミ拾い、古紙回収センターやプラスチックの再生センター見学のことも知りたくなりましたので、これらのほうこくも首を長くしてまっていますよ！！



香美市子どもエコクラブ 自然とふれあい隊のみなさんへ
師範から一言！

自然とのふれあいにかんするいろいろな活動のことを一枚の「自然を守るぞ」壁新聞にかききれないくらいたくさんをいっしょうけんめいにかいてくれてありがとう！！「自然とふれあい隊」の活動の一つ一つくわしくせつめいしてくれて、みなさんが自然といっぱいふれあいながら、自然が大好きなことがほんとうによくわかりました！！

雪がつもって寒い日にみやびの丘でブナの木のをえをうえたり、ニッセイの森でヒノキの木のかんばつをしたりして、森を守り、育てるためのすばらしい活動をしてくれて、ほんとうにおつかれさまでした。

しょうがやゆずのあめもおもしろそうで、食べたくなりました。バリューの見学ツアーでお店でのさまざまなエコ活動をたくさん学んで、エコキャンプではくじら館で江戸時代にくじらをつかまえた時のれきしの勉強や竹でバームクーヘン作りを楽しんだりして、とてもたくさん思い出ができてよかったね。自然やエコについての活動のつづきをつぎの壁新聞で楽しみにまっているよ！！



とっておきのゴシドウ★

森を守る活動では、まわりには危険(きけん)がいっぱいあるので、森を守っている人たちの安全指導(あんぜんしどう)をしっかりときいて、けがをしないように安全に、指導されたようにこうどうをすることが一番たいせつなことです。

つぎに木をうえたり、かんばつをしたりして、森を守り、そして森を育てるほご活動は、一本一本の木を自然のなかのよいおともだちと思って、みなさんでいつまでもつづけることもじゅうようです。森の木のはたらきにはいろいろありますが、とくに地球温暖化(ちききゅうおんだんか)のげんいんの一つである二酸化炭素(にさんかたんそ)をすって、みなさんにとって一番たいせつな空気(くうき)・酸素(さんそ)を太陽の光でつくり、森の中に地下水として水をためてくれるというひじょうにたいせつなはたらきを森の木はもっております。したがって、定期的に森のほご活動をしてあげないと、けんこうてきな森でなくなり、森のたいせつなはたらきができなくなり、みなさんだけでなく、その森にすんでいるすべてのいきものの「命(いのち)」があぶなくなります。いつまでも自然や森を守り、森を育てるほご活動をつづけていってくださいね。次の壁新聞を楽しみにしていますよ！！

香美市子どもエコクラブ ハッピーアドベンチャーのみなさんへのみなさんへ
師範から一言！

野中兼山、上杉鷹山、熊沢蕃山は天下の三山と呼ばれ、江戸時代の藩の立て直しをした立派な役人と言われています。そのうちの一人 野中兼山は高知県・土佐藩を現在の自然あふれる土地を作ったということで高知県のみなさんは尊敬している人ですね。

今、自然あふれる高知県をもっともっときれいな高知県にしたいと、ハッピーアドベンチャーのみなさんが立ち上がりました。今、みなさんが目になっている自然は、川です、海です、木です。みんな水が必要です。そんな水を豊かに高知県の中に引き入れたのが、野中兼山ですね。でも、良く見ると川や海にごみを捨てている人がいます。木はどうなっているでしょうか？山をくずして家を建てています。かんばつをちゃんとやらないので木が弱っています。林業をする人が少なくなったので、木のめんどろを見る人が少なくなって荒れ放題になっています。

そんな自然を見て、みんなはごみを川や海にすてないようにポスターを作ろうと考えました。ごみを見つけたらひろってごみ箱に入れよう。野中兼山が水を引き入れて高知県・土佐藩を豊かにしたので、水の大事さもみんなの関心時です。

日本は雨が多いので水のありがたみをあまり感じない人が多いようです。そして山が海に近くまであるので、日本の川は急流になっていて、気を付けないと降った雨がすぐ海に流れて行ってしまいます。そのため、昔からため池を作って、すぐ水がなくならないようにしているのも日本の特徴です。それと日本の川や山に降った雨水は、流れが早いので、あまりたくさんの鉱物物質を溶かしていない軟水なのでとてもおいしいのも特徴です。そんな水を大事にしたいとみなさんも考えているようです。



とっておきのゴシドウ★

「自然を守ってくれて ありがとう」と壁新聞のまん中書いてありますが、誰に言っているのですか？そうですね。野中兼山に感謝しているのです。野中兼山の考えと実際の工事の状況もくわしく書いてくれましたので、良く分かります。工事は、実際にはとても大変だったようで死人も出たし、逃げ出す人もいたようですね。このような多くの人の力と苦勞の果てに出来た用水路と自然に私たちは感謝！感謝！ですね。

ぜひ、みなさんの力ですばらしい自然をこわさないように、次の世代にきれいな自然を受け渡してください。

香美市こどもエコクラブ リサイクルチームのみなさんへ
師範から一言!

きれいな青い空と緑の山の絵に「自然は宝物!」と大きく書かれた壁新聞にとってもおどろきました!!! さらにみなさんによる自然や森林を守る活動にも感動しました!!!

都道府県別に高知県が84%(平成29年度)という森林率(ある土地において森林が占める割合)のランキング1位を長い間続けている理由が、みなさんのようなボランティアの人たち一人一人によってその森林がしっかりと守られて、その定期的なすばらしい保護活動でりっぱにささえられているからだということをこの壁新聞を読んで大変よくわかりました!!!

日本を代表する自然あふれる高知県のすばらしい森林をいっしょうけんめいにかんばって守ってくれてありがとう!!! この壁新聞のくわしい活動内容や高知新聞の記事(きじ)を読むと、ほかのお友だちや師範もみやびの丘やさおりが原の自然や森林体験に行きたくなりますね。次回の壁新聞がとても楽しみにになりました。待っているよ!!!

とっておきのゴンドウ★

みなさんにとって森が息の長い友だちになるためには、森にはいろいろな重要なはたらきがあり、特に大切なことは、地球温暖化の原因の一つの二酸化炭素をすって、空気・酸素を作ること、雨水をきれいにし地下水としてためる、そして洪水(こうずい)や土砂(どしゃ)くずれをふせいでくれることをぜひ学んでほしいと思います。みなさんの壁新聞に書かれているように、「受けつがれる活動」として森にこれらのはたらきを十分に発揮(はつき)させるための森林保護活動をお友だちやボランティアの人たちといっしょにいつまでも続けていってほしいと思います。



香美市こどもエコクラブ みどりサイクルのみなさんへ
師範から一言!

しぜんがいっぱいの香美市、木や花がいっぱいの香美市、エコやリサイクルがいっぱいの香美市は何色のまちだろうか? みんなは何色だと思いますか? やっぱみどり色だと私は思います。みんなのクラブの名前は、みどりサイクルといいますが、とってもおもしろい名前ですね。みどり色の「リ」とリサイクルをかさねて、「みどりサイクル」と名づけたのですね。いいなー!!!

岩村さんの発表パネル「リサイクルで地球を守ろう!!!」は、こどもエコクラブ「みどりサイクル」の活動をまとめたものですね。みんなでお店のエコミーつけた!!! という3ヶ所のしせつの見学でたくさんのエコをみつけたことを、ほかの人たちにもお知らせしたかったのかべ新聞を作りました。エコをみつけただけでなく、これからは、プリントのうらが白だったらメモちょうに使うとか、スーパーに行く時はエコバッグを持って行くとか、小さくなったふくは、いとこにあげますなど、ごみをへらすようなくらしかたをすることまで書いてくれている、とってもすばしいかべ新聞の発表になっています。

みやびの丘では、雪がいっぱいで歩くと「ザクザク」という音がしたり、手でさわるとかんかくがなくなるなどのけいけんもしました。なすとりの話では、なすのつかみかたで注意することと、なすの料理がすきになったというおもしろい話をありがとう。エコキャンプでは、サメかクジラがそばにいてビックリした、お風呂が大きくてびっくりしたことや、トイレ休けいでのおにごっこが、ざんねんながらできなかったこともいんしょうに残りましたね。シーカヤックでは、きょうそうしたのですね。これもふだんではけいけんできないきょうなたいけんでしたね。

人文字でエコクラブを書িয়েくれました。エコはしぜんがやってくれるものではありません。そしてみんなが手を取りあってきょうりよくしてやると、こうかが大きいです。そんなことをこの人文字はあらわしています。拍手! 拍手! です。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ みどりサイクル 壁新聞のタイトル: 自然を守っちゃう

とっておきのゴシドウ★

今年はエコ、リサイクルということをじゅうてんてきにべんきょうしようということで、いろいろなしせつへ行き、じっさいに見てきましたね。とってもすばらしいやり方です。本を読んだり、人から話を聞くだけでなく、自分の目でじっさいを見ることは、いんしょうが深くなり、よくわかりますバリューNoa というお店に行き、いろいろなエコを見つけました。げんかんのリサイクルボックスでは、白いトレー、とう明なトレー、かん、ペットボトル、牛乳パックに分けられて、回収されていました。私が住んでいるまちのお店では、トレーとペットボトルと牛乳パックの3種類に分けて回収しています。香美市では、白色ととう明のトレーを分けて、そしてかんも回収しているんですね。お店に入ると天井の電灯と商品が置いてあるたなの電灯がとところどころ消してあるのに気がつきました。電気を使いすぎないようにするエコですね。そして商品が地産地消(ちさんちしょう)であることにも気がつきました。遠くから商品を運んでくると、トラックや自動車や船などのエネルギーが必要ですが、近くの畑からもってくるとエネルギーも少なくてよいので、エコですね。お店では、新聞、ざっし、チラシも回収しているようで、これを大前田商店に持って行くようで、その後どうなるのかな?と気になりました、ということでみんなのエコの目がとてもすばらしいな一と感心しました。

そうだ! 大前田商店に行ってみよう! 大前田商店に見学に行きました。

紙、空きびん、空きかん、発泡(はっぼう)スチロール、服、ダンボールそして新聞紙がリサイクルされていました。商店の人から何にリサイクルされるかを聞いたのです。回収しないですとごみになります、リサイクルするととても役に立つ商品になることが分ると、むやみにすてないで、回収に出そうという気持ちになりますね。牛にゅうパックの紙は、とてもよい紙なので、また再生されて紙になります。牛乳パックからはがきを作るという体験をみんなは、いずれやるかと思っています。いろいろな色がまざったびんは、昔はうめたてていましたが今はこなごなにくだいて道路の石にします。これもエコですね。発泡スチロールの箱は見たり、さわたりしたことがあるかと思っています。とても軽かったです。でもインゴット(かたまり)にするととても重たかったかと思っています。

田中石灰というプラスチック再生センターにも行き、実際のような様子を見学し工場の人から、どんな製品(せいひん)になるかを教えてもらいました。プラスチックボトルをこまかく切って、フレークというものにします。つぎにフレークを熱で細かい丸いつぶにします。これをペレットといいます。みんなはペレットにさわってきましたね。ペレットを高温でとかして細いあなから出して、糸、綿をつくり、糸、綿から布をつくり、みんなが着ている服を作ります。田中石灰では、ペレットまで作るのか、糸、綿まで作るのか、どうでしたか? トレーを分別しているところを見て、プラスチックを出す時に、ちゃんと分けないといけないなと分かりましたね。みんなは実際の工場などに行くと、どこに問題があるかをちゃんと気がつくようで、とてもすばらしい見学たいけんをしているな一と感心しました。

みどりサイクルのみんなの体験と経験は、とてもきょうなことでしたね。この次のかべ新聞では、どんな体験と経験を書いてくれるのか、とても楽しみです。

福岡県北九州市 イオンチアーズクラブ若松

壁新聞のタイトル: かっぱ隊が行く 2017

40-03

若松イオンチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言!

「かっぱ隊が行く」の壁新聞には、エコ活動に関するいろいろなたくさんの記事(きじ)があり、とても楽しいわくわくする新聞ですね!!! 「捨てればゴミ。いかせば資源!」のタイトル、大賛成、とてもすばらしい言葉です!!! この言葉を全国的にせんでんしたいですね。エコタウンに行き、ゴミがきちゃんな資源にうまれかわっていることをたくさん学習して、いろいろなことをとてもうまくまとめましたね。金、銀、銅のレアメタルが2020年の東京オリンピックのメダルに生まれかわることはとてもおどろきです!!! さらに、「まとめ」のところの食品ロスを減らすために・食べものを大切にするための「食べものの残しま宣言運動」のマークが一番気に入りました。①「ごみをへらす工夫」②「自たくで食べ物を大切にする工夫」③「これからの地球を大切にするねがい」は、今いろいろなところでこの食品ロスが問題になっているようですね。一人一人の日本人が、この宣言のように食べ物を残さなくなったら、世界一、すばらしいエコ活動につながりますね。この宣言をじつげんするために、これからも続けていっしょうけんめいがんばってね!!!

とっておきのゴシドウ★

「捨てればゴミ。いかせば資源!」や「食べものの残しま宣言運動」を日本中に広げられるようになればとてもうれしいですね。また、みなさんのこのようなすばらしいエコ活動をどこかでたくさんの人たちの前で定期的に発表できるようにして、できるだけ多くの人たちにこの宣言にさんせいしてもらい、じつげんしてもらえようようにサポーターの人たちといっしょに行動してはいかがでしょうか。



ガールスカウト F9 クラブのみなさんへ
師範から一言！
大倉川での生き物調査に関して、半年間のこの活動記録を「きっかけ」、「準備・予想」、「活動までの流れ」、「まとめ」のそれぞれのセクションに分けて、プロの人が作ったような、読者の立場から読みやすく理解しやすい、とてもすばらしい壁新聞です。
絶滅危惧種の「オヤニラミ」のことをみなさんの壁新聞で初めて知りました。この「オヤニラミ」を大倉川で発見できてよかったですね。「オヤニラミ」の名前は、オスが卵を守る様子・「親がにらみをきかす」というところからつけられたと言われており、とてもめずらしい名前ですね。「まとめ」に書かれているように、「大倉川にはたくさんの生き物が住んでおり、この生き物を守っていくには日々の生活の中でさいななことでも気づかっていく。」ということは、むずかしいことも時々あるとは思いますが、とても大切で基本的な自然保護活動ですね。大賛成！！

とっておきのゴシドウ★
このようなすばらしい大倉川のことをもっと読者のみなさんに知ってもらうために、さらにこれらの生き物の保全活動のために、定期的な生き物調査をすることも大切であると思います。この調査によりどのような生き物がどの地点で増えたり、減ったり、その原因を調査して、どのような保全活動が必要かを勉強すれば、もったときような大倉川になると思います。
次回の壁新聞をわくわくして待っています！！



緑ヶ丘エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
「環境未来都市」の北九州市にはいろいろなエコセンターがあり、みなさんがいっしょけんめいエコ活動をしていることにおどろきました。また、緑ヶ丘エコクラブ新聞での北九州の環境のせんでん、ありがとう！！「自然にふれあうイベント」でペットボトルやビニール袋のような人工物をひろってくれて、山田緑地の森はとてもよこんでいると思います。
これらの人工物は、自然のものとちがいが、土になったり、木や草などの植物の栄養になったりしません。だからそのような人工物がたくさんある森の木は人間や他の生き物にとってとても大切な空気を作ったり、地下水をためたりする働きがうまくできなくなります。都会の勝山公園にもいろいろな植物、昆虫、野鳥などさまざまな自然の仲間たちがたくさん住んでいて、人間もこれらの仲間たちといっしょになかよくくらしに行かなければなりません。森や公園では人工物などを捨てないで、人間をふくむすべての自然の仲間たちのとても大切な一つ一つの「命のつながり」があることを忘れないでほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★
家庭で使った油でろうそくをつくることはとてもりっぱなリサイクル活動ですね。森の中でもすばらしいリサイクル活動があり、そこに生きているものすべてがいろいろな関係でつながっており、森の働きにはむだな働きはありません。これからも「自然にふれあうイベント」を続けて、自然や森が健康的な働きが出来るようにいつまでやさしく守ってあげてほしいと思います。



羽根木東区寺子屋(家庭塾)エコクラブ①と②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

羽根木東区寺子屋(家庭塾)エコクラブのみなさん、こんにちは！1992年2月に創設されたので16年目に入ったんですね。とても長い間活動を続けているんですね。地域の小学生の居場所づくりとしてスタートしたとのことで、活動内容は、読み・書き・計算や詩の朗読、くさ笛会による読み聞かせなどの学習以外にカルタやコマ回し、トランプや外での遊びなど子ども達があきることなく過ごしているようですね。

寺子屋(家庭塾)の基本的考えは、「みんなちがってみんないい 楽しく遊んで楽しく学ぶ」ということで、とてもすばらしいスローガンですね。みんなもお友だちと分けへだてなく、一緒に遊び、学び、気持ちよく活動ができますね。

でも約束事がいろいろとあります。寺子屋(家庭塾)の憲法3か条があります。環境についての約束が3つあります。2017年度の地球環境活動は、野鳥観察、川を美しく、地球をみつめ直すの3つです。

3つと言うのは、とても良い考え方です。2つでは少ない！4つ以上だと多すぎて守れない、ということで、3つがとても良いです。私もいろいろなことを提案したり、クイズを出す時など3つにまとめるようにしています。守りたいことはたくさんあると思いますが、大事なことを3つにしぼってやるようにするのが良いですね。自分の身のまわりのことに注意して見ると、3つと言うのがいろいろとありますね。過去・現在・未来と言う考え方、交通信号は赤・黄・青、賛成か？反対か？の時は、○・△(検討中)・×、歌は3番までなどなど・

2017年は、みんながすぐできる「環境」のことを話し合って、1.新聞・雑誌を集めよう、2.ビン・かん・カマボコ板を集めよう、3.ごみを出す時に分別に協力しよう、と言う環境活動に取り組んだんですね。具体的には、1.は子ども会等と協力して新聞・雑誌を集めて出す、2.は空きかんをひろうこととつり竿を作って、空き缶つり遊びをする、カマボコ板に絵を描いてカマボコ板美術館にしました。3.は家のごみを出す時に分別をしっかりとやる、ということで大事なことは、無理しないで自分たちが出来ることを少しずつでよいですから、継続してやることです。みなさんは出来ているようですね。



とっておきのゴシドウ★

空き缶をひろい、あつめると環境として何が良いのだろうか？街がきれいになるね。良いことですね。もう一つ、空き缶を集めて、もう一度、鉄やアルミにして製品にすると資源がむだにならないですね。山から鉄やアルミの鉱石を掘り出し、使わなくてすみますね。それと製品にする時のエネルギーが少なくてすみます。例えば、アルミについては、山から鉱石のボーキサイトを掘り出し、アルミの板を作り、製品にするまでのエネルギーを100とすると、街の中に捨ててあるアルミ缶をひろって、アルミの板を作り、アルミ缶を作る場合のエネルギーは、たったの3で良いのです。エネルギーもむだになりません。

みんなは、いろいろな活動をやっているようですが、参加しているお友だちの声が聞こえませんか。やった結果はどうだったか？感想は？などのことも書いてくれるとうれしいな。

次回の壁新聞には、お友だちの声・感想が書いてあるとうれしいな。

羽根木東区寺子屋(家庭塾)エコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

特集 ふるさとの先達に学ぶ ということで行橋市出身の農民詩人・定村比呂志の50回忌にちなんで朗読会が開催され、寺子屋エコクラブのメンバー13人が定村比呂志の詩を朗読したことを報告してくれました。

ふだんから定村比呂志の詩を朗読していたのでしょうか？定村比呂志の詩は読んでいなくても、詩の朗読はふだんからやっていたので、13人の朗読はとても上手、すなわち心からの叫びになっていたのだと思います。それと、ほとんどが暗唱していたので、会場の参加者108名の方々が感銘を受けて、大きな拍手がおきたのだと思います。

ふだんの努力が実を結んだようで、大変良かったと思います。

この朗読会のことは、大手の新聞にも大きく取り上げられて、寺子屋エコクラブのことははっきりと書かれていて、大きくPR出来たと思います。

とっておきのゴシドウ★

定村比呂志の詩は、体制批判の部分もあり、本は発禁になり、本人も投獄されたとのことです。でも時代が移り変わり、定村比呂志の功績が見直され、今回の朗読会にもつながったようですね。寺子屋エコクラブのスローガンで“みんなちがってみんないい”が、昔はそうでなかったのですね。それで投獄されたのですね。でも、みんな同じで良い、みんな同じが当たり前ではないのですね。寺子屋エコクラブのスローガンが、とても大事なことを言っていることが分かりますね。

ちがった意見、考えが世の中にも知れわたり、みんなで考えてみるのが大切なことです。

みなさんがこれから大きくなっていく時にこのスローガンを思い出して、自分の意見、考えを持つようにすることがとても大事です。



福岡県行橋市 村の学習室
壁新聞のタイトル:羽根木東区寺子屋(家庭塾)かべしんぶん

羽根木東区寺子屋(家庭塾)エコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

2017 年度の地球環境に関する活動目標は、野鳥観察、川を美しく、地球をみつめ直すの 3 つでした。野鳥観察は 10 月 14 日に 50 人が参加し実施しました。川を美しくは、今川ウオッチで今川にすんでいる生き物たんけんに 10 月、11 月に行きました、と報告があります。
野鳥観察では、キジバト、ヒヨドリ、モズそしてカラスの 4 種類を見つけたようですね。
今川で見つけた生き物は何だったのだろうか？どじょう？ふな？アメリカザリガニ？水鳥もいたのかな？寺子屋の先生:古谷信一さんの祈り展があって、寺子屋 15 年のあゆみが写真を交えて開催されたのですね。400 人が訪れてみたのですね。みんなも行ったのでしょうか。
それに合わせて寺子屋の 16 年間のあゆみをまとめてくれました。とっても長い間、そしてたくさんの卒業生(卒塾生)が社会へ飛び立って行ったのですね。継続は力なり！すばらしい寺子屋であることが、あゆみを見て良く分かります。今いるみなさんは、これから入ってくる子ども達のためにも、「楽しく遊び、楽しく学ぶ」を率先して実行するようにすると良いと思います。

とっておきのゴシドウ★
卒塾生の山尾百合さんが大学の卒業研究で「平成の寺子屋」ということで羽根木東区寺子屋で 6 年間学んだことをまとめたようですね。みんなはうれしかったでしょう。
論語の中の、子曰わく「人の己を知らざるを患えず。人を知らざるを患う。」を取り上げて卒業論文で、寺子屋での経験したこと、学んだこと、実感したなどから、どういことを言いたいのかを解釈し、説明したのですね。
「みんなちがってみんないい」「他人といつもくらべるのではなく、自分で自分のよさを見きわめなさい」と解釈したとのことですね。
この解釈が私の実感とちよつちがついていました。論語で言っていることは、相手が自分を理解してくれないと悩むことはない。それよりも、自分は果たして、相手を理解しているだろうか。それを心配すべきである。ということかと思っています。この解釈をさらにつめていくと、山尾さんの解釈になるのかな？
今回の壁新聞には、はがき新聞コンクールで団体賞・入賞、29 年度ひび信 俳句大賞を受賞などの記事もありましたが、残念ながららくわしいことは書いてないので、すばらしい受賞なのでしょうが、もったいないなと感じました。
壁新聞としてみなさんが何をやったかは書いてありますが、その結果がどうなったかが書いてありません。ぜひ、次の壁新聞ではやったことの結果やメンバーの声、感想などを書いてくれた方が、もっと活き活きとした新聞になるかと思っています。期待しています。



福岡県筑紫野市 エコまめクラブ
壁新聞のタイトル:こん虫ひょう本を作ろう！ 40-06

エコまめクラブのみなさんへ
師範から一言！
こん虫ひょう本というテーマについて、くわしい内容がもりだくさんの新聞になっています。その中で「こん虫さいしゅうのマナー」と「虫のいのち」についても書いてくれました。大切なことですので、ひょう本を作る人にまず知ってもらいたいことですね。“はねや足がとれてもそのままひょう本にする”とあるので、具体的でわかりやすいです。
今まで作ったひょう本の写真をみると、いろいろな種いのこん虫で作っていることが分かりました。私が作ったことがあるのは、クワガタムシのひょう本ばかりですが、においが残らないようにするのにくろうしました。何かくふうをしていますか？
「バイオミミクリー」では、生きもののすばらしさが人の生活に利用されていることが分かったと思います。こん虫ひょう本作りを通して、こん虫のことをよく知り、生きものだけでなく生きものがくらす自然を大切に活動につなげていってください。

とっておきのゴシドウ★
「こん虫とは？」で体のつくりを説明してくれました。新聞にかいてくれたこん虫の絵で、たとえばクワガタムシやカブトムシの足がはねの下についているように見えますが、ふしぎに思いませんか？えっと思ったら胸がいくつに分かれているか調べてみましょう。



薬草クラブのみなさんへ
師範から一言！

災害の時の料理は、新鮮な野菜やお肉が手に入らない時に、予め備蓄しているもので、おいしく食べられるものを書いてくれていますね。普段とちがう大変な時には、かんたんな道具で時間をかけずにすぐにできる料理法を工夫しなければならないし、家族やお友達と協力しながら作り、みんなで囲みながらおいしいね、と言って食べる時間はとても大切な時間ですね。避難生活はどんなものなのかをいろいろと想像するきっかけになったことと思います。これを作ったみなさんだけでなく、これを読む人たちにも、非常時のことを考えてもらう、いいきっかけになるとと思います。

面白いと思ったのは、たきこみご飯にコーラを入れるという工夫です。水が手に入りにくい反面、自販機の飲み物を使えるということでコーラを入れるのですね。どんな風に仕上がるんだろう？やってみたくまりました。このような調理方法を覚えておくと、災害時だけでなく、キャンプのときとか、他にいろいろな場面で役に立つと思いますよ！



それと、「薬草クラブ②」の④お茶のところに、いろいろな植物や野菜とその効能が書かれていました。大変興味深いです。昔は薬がなかなか手に入らなかったから、こうして自然のものや野菜の皮などを使って、薬代わりに飲んでいたのです。何がどんな症状に効くのか、年配の人たちはよく知っていて、子どもはおばあさんやお母さんから教えてもらったに違いありません。こうした昔からの暮らしの知恵を壁新聞で伝えていくことも有意義な活動ですね。

とっておきのゴシドウ★

私も春になると、よく草花を空き地でつんできて、それを調理して食べてみる、というイベントをやります。つんできた草を洗っててんぷらにしたり、おひたしにしたりして食べてみます。身近な植物でどんなものが食べられるのか、どんなものに毒があるのか、今の人たちはほとんど知りません。だから、「へー、こんなものが食べられるのか」とおどろいてとても興味をもってくれます。このイベントをした後は、身近な草花がみんな食べ物に見える、って言うてくれます。

薬草クラブの紹介を読んでもと、みなさんもそんな活動をしているようですね。身近な草花で食べられるものを写真をはったりイラストで描いたりして、どんな植物が食べられるとか、薬草になってどんな効能があるのかを、次はぜひとも紹介してみてください。

今はスーパーやコンビニに行けば食べ物がかんたんに食べられます。でも、昔の人たちは、畑で野菜を育てたり、野や山から食べられる草花を探してきたり、シカやイノシシをとったりして食べていました。自然の恵みをいただき、自然に感謝していました。便利な今の時代も、元をたどれば太陽の光や水を使って育った植物が、食べ物の出発点になっています。だから人間が自然の恵みをもらって生きていることには変わりありません。でも今の生活のなかでは、そういうことが見えにくくなっています。人間は、自然の力によって食べ物をいただいているということもメッセージとして少しでも人々に伝えることができるとステキなことだなあとと思います。

だいやエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

写真が多く、色使いもとても見やすい新聞ですね。カブトガニについて、うまくまとめられていると思います。

カブトガニはとても貴重な生き物ですが、現在では生息地がどんどん失われつつあります。ぜひ、これからもカブトガニが住める海になるように活動を続けてもらえればと思います。

そんな中、大村湾にはゴミが落ちていることも多いとのこと。まだまだそこらへんにゴミをかんたんに捨ててしまう人がいるのは悲しいことです。ただ、このような活動は海の生き物にとって重要なことです。地道な活動ですが、今後も継続してがんばってください。

とっておきのゴシドウ★

内容的にはカブトガニについてよく調べられた新聞だと思います。「カブトガニのヒミツにせまる」というのも人目をひく、いいタイトルですね。活動内容も見学や保護活動といった多くのことが行われていてすばらしいことです。

そこで、今回は「減ってしまったカブトガニを再び大村湾に呼び戻すには」、どうしたらいいか、そのために私たちに何ができるのか、を新聞にまとめて、全国の友達に教えてくれるとうれしいです。ぜひ、これからも保全活動を行いつつ、調査活動を継続していきましょう。



日奈久小学校 体育・環境委員会のみなさんへ
師範から一言！

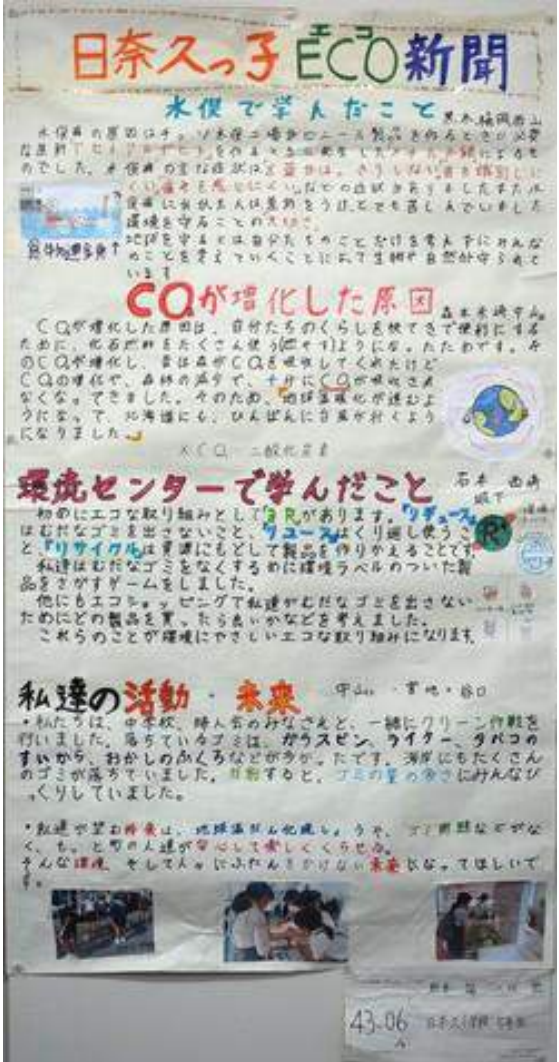
まず新聞のタイトルが、たすきがけのように斜めに新聞を突っ切る形で配置されているデザインが面白いと思いました。タイトルを使って書く内容を分けているのもよいアイデアですね。
資源ごみを活用した企画「エコランド」のことが内容ごとに整理されて書かれており、とても分かりやすい新聞になっていると思います。読む人に考えてもらえるクイズ形式があるのもいいですね。ただ文章を読むよりも、もっとエコランドのことを考えてもらえると思いますよ。
資源ごみを使ったおもちゃについて具体的に書いてあるので、どのようなおもちゃなのか読んでいるひとが理解しやすいです。楽しいおもちゃができるんだ、ということも伝わってきます。ゴミの量やエコランドに参加した人数などを数字で示しているのも、読み手に伝わりやすくなる工夫で良いですね。

とっておきのゴシンドウ★
ISO 調べのグラフは、みなさんが調査した結果を示しているのでしょうか？せっかくのデータなので、読む人がわかるように説明を書いてみましょう。グラフタイトルをつける、使われている数字の単位を書く、だれを対象にした調査か、調査したのはいつかなど、どうしたら読む人によく伝わるか想像しながら説明してみてください。ちなみに調査の結果わかった「自分の物に名前を書かない人が多い」のはどうしてなのかな？書いてくれる人を増やすにはどうしたらいいと思いますか？もっとよくするためのアイデアがあれば、それも新聞にのせてみてはどうでしょう。
新聞では記事をよりわかりやすくするために写真や絵を使うことがあります。エコランドの写真やゲームの様子などの絵があると、よりわかりやすく楽しい新聞になるのではないかなと思います。



日奈久小学校5年生のみなさんへ
師範から一言！
学んだそれぞれのことについてタイトルをはっきりつけ、内容ごとに分けて書いているので、みやすくできていると思いました。環境にかかわる広い分野の内容を勉強したことがわかります。どうしたらその問題を解決できるのか、みなさんの考えが書いてあるのもいいですね。
とくに「水俣で学んだこと」に書かれている食物連鎖の絵が分かりやすかったです(ちなみに、食物連鎖をつうじてアセトアルデヒドの「生物濃縮」が起こったので、水俣病は発生しましたね)。問題を説明するために文章だけでなく、絵を使うのは良いアイデアだと思いました。

とっておきのゴシンドウ★
内容は整理されていてわかりやすくできているので、特にアドバイスはありません。
あえてあげるとすれば「私達の活動・未来」に書かれている「ゴミの量の多さにびっくり」ですが、どのくらいのゴミがあったのでしょうか。具体的な数値などの情報を書くと、読んだ人が想像しやすくなると思います。例えば何キロぐらい、あるいは大きなゴミ袋何袋分などの説明をするといいかと思いました。数値が多すぎると内容がむずかしくなることがありますので、新聞全体のバランスを考えて情報を入れてみましょう。新聞に書けそうなデータを取っておくことを考えながら、活動してみてもいいですね。



次世代のためにがんばろ会 こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言!

この壁新聞は、わずか3人で活動した成果がまとめられています、とても楽しそうにみえますよ。「次世代のためにがんばろ会」というサポーターのみなさんからの応援が効果的に働いていると思いました。特に今年の新聞は、八代の川についての特集のようになっていますが、水質調査、球磨川水浴場、浜辺の大掃除などの野外活動の他に、氷川ダムの日・キャンプなどに出かけて、ダムに関する学習を深めていることも体験学習のメニューを増やすことになっています。さらに緑のカーテン、どんぐりの木の植樹、ピーマンの栽培などにも挑戦しているのはすばらしいことです。

とっておきのゴンドウ★

この壁新聞にアドバイスをするのであれば、ひとつひとつの記事が小さいことと文字の大きさがそろっていないので、読みにくくなっていることです。こんなときは、記事本文を書くときにマス目が入った模造紙を使って、始めから最後まで同じ大きさの文字を書くように注意しながら書いてみることです。わずか3人では記事の様式や写真のレイアウトまでとても忙しかったのではと思います。それでも感想文がちゃんと書けていますので、中学になったらもっと上手になると思いますよ。大切なことは「調べて、遊んで、考える」、この新聞のテーマとなっている言葉のとおりです。あとは見やすくする工夫です。例えばダムは、これに関連する記事を同じ色のテープで囲み、ピーマンと緑カーテンではダムとは違う色のテープで記事を囲む、あるいは色紙に記事を書いて貼り付けるなど、まだまだいろいろな工夫をして、明るく楽しい紙面にしてみましょう。



水俣市立水俣第二中学校のみなさんへ
師範から一言!

この壁新聞で一番感動したのは、7年間の環境教育を通して、①もったいない心の育成、②やってみようの心の育成、③広めようの心の育成の三つの心を育てることを重点化していることです。行動だけでなく、心を育てることが何よりもすばらしいと感じました。たくさんの壁新聞がこどもエコクラブに送られてきますが、心を育てることをテーマにしているのは「環境二中新聞」がぼくの記憶では初めてだと思います。もちろんこれは7年間の成果の積み重ねが大きいと思いますが、次の見出しにある「部活よりも優先のごみ分別収集活動」の言葉が定着していることから判りますね。ぜひ、この三つの心を育てることを続けて下さい。応援していますよ。

とっておきのゴンドウ★

大人数のクラブでまとめるのが大変じゃないかと思いますが、壁新聞を拝見して、何にでも手を広げるのではなく、学校版環境ISOと地域ごみ分別収集活動への参加、新聞作りに集中しているところが、長続きするポイントになっているように感じました。

地域ごみ分別収集は、実際に地域のみなさんと一緒になって分別して処理するんですね。これは水俣市内の他の地域でも同様の活動がなされているのでしょうか?参加率を集計しているそうで、中学生が地域活動を応援しているのは、珍しいことかも知れません。大いに自慢できる活動ですね。



熊本市益城町 広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)

壁新聞のタイトル:①熊本の湧き水・力強い”復幸”～まけない・広西湧き水プロジェクト～ ②生活こそが環境活動！！

43-01、43-02(全2枚、どちらも推薦)

広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

すばらしい構成と色彩で、アート作品のように魅了のある壁新聞になりましたね。テーマにも書かれてあるとおり、とても「力強い」みなさんの想いが伝わってきました。大胆な構成や色彩とは違って、掲載している情報は、各地の水質調査内容や、管理方法、インタビューなど、きめ細やかでいい内容ですね。思わず引き込まれてしまいました。

また、パンフレットや壁新聞を作成することによって多くの人の声を届けて、それを活動に活かすなど、情報の大切さと性質をきちんと理解しているので、大変楽しく読むことが出来ました。相手に伝える大切さ、情報を共有することの可能性を強く感じさせるすばらしい壁新聞になったと思います。

とっておきのゴンドウ★

厳しい震災を乗り越えて、地域の自然と向きあい、その大切と感謝をこうしてまとめられたことは、地域としても非常に大きな意味をもつのだと思います。また、地域に豊かな資源があるからといって、それだけでその大切さを理解できるわけではありません。「全校に広めよう」の記事にも書かれているように、実感を伴うことが必要です。

震災を始めとする自然災害は日本各地でどこでも起こりうることであり、だれでも被災する可能性があります。そんな中、この自然豊かな日本でいかに暮らしていくか、みなさんの活動は、こどもたちによる一つの地域継承のモデルになると思いました。これから新たにつくる「パンフレット」にもとても興味があります。壁新聞とはちがって、掲載できる情報量も限られてきますが、地域の豊かさを共感し、こどもたちに希望を見出すことができれば、きっと地域の人達を幸せにすることができると思います。とても楽しみにしています！



熊本市益城町 広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)

壁新聞のタイトル:①熊本の湧き水・力強い”復幸”～まけない・広西湧き水プロジェクト～ ②生活こそが環境活動！！

広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

私の好きな環境スローガンに「グローバル(世界)で考え、地域で実践する」という言葉があります。まずは自分のいる地域で着実に活動を実践することで、小さくとも確実に社会に影響を与えることができます。みなさんの「生活こそが環境活動」もそんな気持ちなのではないでしょうか。

それにしても、学校単位でここまで活動ができるのは、すごいことですね。

まずは身近なことから行動しようという姿勢によって、着実に成果を得ていますね。実現のための組織とそのネットワークについてもしっかり書かれているので、どんな風に学校が一体となって活動したのかがよくわかります。

そして、この壁新聞では、取り掛かりのスタートから、目標、方法、チェック、そして結果までの内容がしっかり伝えられていますので、大変すばらしいと思います。

とっておきのゴンドウ★

今回、みなさんが報告してくれた学校生活を舞台にした環境活動は、環境経営に取り組んでいる企業にも紹介したいと思うほど大変すばらしい内容でした。同じ様に取り組んでいる企業や環境プログラムがあるので、さまざまな事例も取り込んで、これからの活動を発展させてほしいと思います。

さて、「生活」をテーマにした環境活動で、もっとも大切なことが「継続性」だと私は思っています。

学校内での「各クラス的环境目標」や「委員会 with 環境」の取り組みの実現において、様々な取り決めを考えましたが、その多くは禁止事項や指示事項になっています。数値目標を達成するためには仕方ないとはいえ、実は企業でも目標が高すぎると、「環境活動疲れ」というものが出てしまうことがあります。

さすが「環境委員会」の目標は、＜楽しく環境のことを伝える＞という目標になっていますね。「たこさんたわしづくり」もとても楽しそうです。＜楽しさ＞というのは、これからの環境活動にとって大切な動機付けだと思います。必要な禁止事項と同時に、活動が楽しくなる工夫やしかけ、そして情報発信の方法を学校みんなで考えてみるのも楽しいかもしれませんね。これからのみなさんの生活が、環境や社会にやさしく、また楽しいものであることを願っています。



芦北町立佐敷中学校 環境・美化委員会のみなさんへ
師範から一言！
一番上(最初によむところ)に主な内容、その下に具体的な内容を書く構成となっており、わかりやすい新聞になっていますね。使い古しのチョークやペットボトルキャップがどうして役立つのか、フローを使って説明しているのもよい工夫です。
地域ボランティアの方々が学校のためにお花を提供してくれているのですね。地域ボランティアの方々とはどのような経緯で連携が生まれたのでしょうか。その辺のこともぜひ知りたいと思いました。
全クラスにお花を配っているのはみなさんかと思いますが、そのお花のお世話しているのは各クラスの生徒さんたちなのではないでしょうか。そのことも書いておくと、普段お花のお世話をしている全校生もうれしいかと思います。地域と全校が協力して続いている取り組みとは、素晴らしい活動ですね。

とっておきのゴンドウ★
使われている色が赤と黒のみで色が少ない印象を受けました。項目ごとに色紙を貼るなどして見た目をよりはなやかにすると、よりたくさんのひとに興味をもってもらえる新聞ができそうです。
委員の目標で「環境に関心を持てた人が9割以上」とされていますが、実際にはどのくらいの人に関心を持っているのでしょうか。またこの目標が達成されたことはどのように確認するのでしょうか。アンケートなどの調査を行うのかな？もしそうであれば、その結果を新聞などで発表してみてもおもしろそうですね。その時には調査の結果だけでなく、結果に対するみなさんの考察もぜひ書いてみてください。読んだ人にとって、自分たちがどうしていけばいいか考えるためのヒントになるとと思いますよ。



田上川こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！
田上川にすんでいる生き物についてとてもよく調べられています。クラブのみんなでこういう活動を行うのはいいことですね。私の住む関東で見られるのはアブラハヤが多いのですが、鹿児島だと同じような場所ではタカハヤが見られるのですね。こういう地域によるすんでいる魚のちがいがわかるのも調査の大きな楽しみですね。
田上川にすんでいる魚は、以前ならふつうに見られた魚が多いですね。ふつうに見られる生き物がふつうに暮らしていける、そんな環境が大切なのですね。このような生き物がこれからも生き続けられるような環境が守られるように、これからもこのような調査活動を続けていってもらえたらと思います。

とっておきのゴンドウ★
自然体験活動の重要性を考えると、このような活動はとても意義あるものです。水辺の活動はとても楽しいものですが、一方で危険もともないますので、サポーターの方のご苦労も多いかと思います。水辺での活動の際は「ライフジャケット」着用をお願いできれば、と思います。
新聞は活動内容もよくまとめられていて、川の様子もわかりやすかったです。調査の方法なども載せてもらえると、よりわかりやすくなると思います。今後も継続して調査することにより、年ごとの変化もわかることでしょう。ぜひ継続した活動を願っています。



西伊敷小学校こどもエコクラブ 6-1 のみなさんへ
池田師範から一言！
リサイクル、生き物調査、環境日記とたくさんの環境活動をしていることがよく分かりました。
いろいろなリサイクルに取り組んでいますね。自然の中で作りだされたものは、自然の中でじゅんかんしますが、人が作ったものが最後に「ごみ」となると、もやしたり、うめたりしています。資源(しげん)としてまた使うことで「ごみ」をへらすことができるので、リサイクル活動をぜひつづけてください。
プールの生き物調査のほかにビオトープの手入れをしているようですね。同じような水場ですが、すんでいる生き物をくらべてみたことはありますか？プールの生き物調査でたくさんのヤゴが見つかるようですが、どんなトンボのヤゴか調べてみると、生き物のことを知ることができるし、ビオトープにも役立つと思います。
「緑の小道」では日ごろ感じたことなどを3カ月書きつづけていて、すばらしい取り組みだと思います。日記を書くことで、ふだんの生活を「環境活動」という面でふりかえりながら、気づきがあるはずです。それが小さなことであっても自分でできることをつづけることが環境活動ではとても大切です。

とっておきのゴシドウ★
トンボのヤゴは大きくわけて、プールのようにとまった水にすむものと、川のように流れる水にすむものがあります。ビオトープも水の流れがなければ、止まった水です。もうひとつ大切なのが、植物があるかどうかです。たまごをうむときに水面や空中にばらまくとンボには植物はひつようありませんが、植物にうむとンボもいます。プールやビオトープにどんなトンボがきているか調べてみてください。



西伊敷小学校こどもエコクラブ 6-2 のみなさんへ
池田師範から一言！
食物連鎖という自然の中でくらす生き物たちのつながりをテーマにしてくれました。自然を守ったり、生き物を守ったりする上で、このつながりはとても大切なことなので、感想もふくめて楽しく読みました。
毎年プールの生き物調査でみつける生き物は食物連鎖のどこにいるのか考えてみましょう。ヤゴ、アメンボ、オタマジャクシで草食の動物はどれかな？ヤゴやオタマジャクシは、大人になるとトンボとカエルですね。プールに子どもがいるということは大人も同じ自然の中にくらしているので、トンボとカエルも食物連鎖にいれて考えてみてください。

とっておきのゴシドウ★
生き物調査では10種類以上の生き物が見つかったようですが、プールの水をぬかないでいたら、プールの中ではどのようなことがおこって、ヤゴとオタマジャクシの数はどうなるでしょうか？
人がプールの水をぬいたり、救ったりしなければ、食物連鎖でバランスがとれるはず。食物連鎖のピラミッドで上にいる肉食動物がたくさんいたばあい、エサとなる草食動物がへると、同じ種類の肉食動物どうしであっても大きい方が小さい方をたべてしまうこともおこります。
イラストでかいてくれたように、食物連鎖のスタートは植物ですね。カマキリやバッタを描いてくれましたが、プールで見つかった生き物をトンボやカエルもふくめて、この食物連鎖のイラストの中にかいてみるとおもしろいと思います。



鹿児島県鹿児島市 鹿児島市立西伊敷小学校エコクラブ
壁新聞のタイトル: 自然大好き西伊敷新聞

西伊敷小学校こどもエコクラブ 美化環境委員会 5年生のみなさんへ
岡本師範から一言！

緑色って、みんなのまわりのどこにあるかな？すぐ気がつくのは、草や木の葉っぱの緑ですね。お店やスーパーに行くと野菜や果物を売っているところにもたくさん緑がありますね。バッタなどの虫にも緑色があるね。交通信号の青色は、よく見ると緑色だね。もしかしたらみんなが持っている、着ている洋服にも緑色があるのじゃないかな。

緑色を見ているとなんとなく気持ちが落ち着いてくるようです。緑色って私たちの気持ちをゆったりとおだやかにしてくれる色だそうです。環境に良いと言うのも、緑色にぴったりです。エコの色は？とみんなに聞いてみると良いです。たぶん、みんなは緑色です！と答えるでしょう。「かがやく緑新聞」は、「かがやくエコ新聞」ですね。

みんなが委員会活動としてやったのは、そうです！エコです！緑のカーテンを作りました。緑の小道でエコ活動を書きました。鷹匠の人に鳥についていろいろと教えてもらいました。アルミかんつぶしをやりました。生ゴミから肥料を作りました。たくさんのエコを経験しましたね。

経験することで、こんなことがエコなんだと初めて気がついた人もいました。これはとっても大事なことです。ふだんの生活の中に環境に良い、エコなことがいっぱいあるのだな、と気がつきました。この経験が、これからの生活やくらしのなかで、「これはもしかしたらエコではないのかな？」と考えるようになるでしょう。そうすると、どうしたら環境が良くなるのだろうか？エコにするためには、どうすれば良いのだろうか？と考え、エコ活動に結びつけるようなくらし方や生活のし方に注意すると思います。

緑のカーテンを作ると太陽の光がささぎられて、部屋の温度が下がるので、クーラーを使わなくて良い、あるいは使う時間を短くできる。エコですね。クーラーを使うとなぜ、エコではないのだろうか？クーラーを使うということは、電気を使うことです。電気はエコでないのだろうか？電気をたくさん使うと発電所で電気を作る時に石炭やガスをたくさん燃やします。燃やすと二酸化炭素CO2がたくさん出ます。CO2が空気中にたまると、今、世界中で問題になっている地球温暖化が進みます。くらしにくい、生活にくい世の中になりますね。少しでも電気をむだにしない、節約できる工夫をしましょうということで、その一つが緑のカーテンです。

生ごみをそのまま捨てると燃やしてごみを少なくするようにしています。ちょっと待ってください。燃やすとCO2が増えるよね。だったら燃やさない工夫はないだろうか？そうだ！肥料にしようということで、エコポストにする→コンポストにしました。ごみの量がへりました。そして肥料が出来て野菜を作ったり、花や木も育ちます。良いことを先生は言っていますね。一つ良くなれば、どんどん良くなる。この生ごみを肥料にすることで、ごみはへる。野菜は増える、先生の言う通りですね。

鹿児島県鹿児島市 鹿児島市立西伊敷小学校エコクラブ
壁新聞のタイトル: 自然大好き西伊敷新聞

とっておきのゴシンドウ★

アルミかんをつぶして業者さんにわたすとお金がもらえる。このお金でアフガニスタンへランドセルを送ったり、生き物調査に使う費用にする。エコなことをすると、エコが広がる。と先生が言ったことが実感として分かりましたね。アルミかんをひろったり、集めることがなぜ、エコなのかをちょっとお話します。捨ててあるアルミかんを拾うと街や道路がきれいになりますね。もう一つ、山からアルミの原料であるボーキサイト鉱石を掘り出して、アルミの板にするまでに必要なエネルギーの総量を100とすると、捨てられた、あるいは使い終わったアルミかんからアルミの板をつくるのに必要なエネルギーはたったの3で良いのです。エネルギーもしげんもむだにならないのです。とってもエコであることが分かりましたか？

環境に良いこと、エコなことって、いくらでも身近なくらし、生活の中にあることが、みんなは気付いたと思います。むずかしいことを考えることはありません。ちょっと見方、考え方を変わると発見できます。これからもそんなことを考えながら見つけて、実行すると良いと思います。そして、低学年のお友だちにも教えてあげると良いと思います。



大崎3年エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

この新聞のおかげで、大崎町に大きなかぶと虫のモニュメントがあることや、かぶと虫大会があることを知りました。なぜかぶと虫園を作ろうと考えたかがとてもよく分かりました。アンケートをしたことが、とてもいいアイデアですね。

かぶと虫だけではありませんが、昆虫がとこにすんでいるのか、どのような生活をしているのかということは、自然のなかでないと発見できないことがたくさんあります。

かぶと虫園は、角ざいとあみでりっぱなものができましたね！このかぶと虫園は、今は幼虫用かもしれませんが、羽化した成虫をどうしますか？カブト虫大会にでるのはオスだと思うので、メスはかぶと虫園にずっといるのかな？成虫もくらす「かぶと虫園」にするにはどうするのがいいのか、かぶと虫のことを考えながら、わくわくする「かぶと虫園」にしてください。

とっておきのゴシドウ★

かぶと虫は成虫になるとたくさんエサを食べても体は大きくなりませんし、ツノが大きくなることもありません。そのため大きくて強いかぶと虫にするためには、幼虫のときに大きくなるような環境(かんきょう)にするといいですよ。幼虫が大きくなるにはエサだけでなく、温度もかんけいします。あたたかいところにいると、あまり大きくならないうちにサナギになってしまうことがあります。かぶと虫園はひかげで風とおしのいいところにありますか？牛ふんもまっ黒になったものがおすすめです。まっ黒になっていないと、びせいぶつのはたらきで土があたたかくなってしまいます。いろいろためしてみ、大きなかぶと虫を羽化(うか)させてください。



大崎小 5 年エコクラブAの新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言！

大崎小5年生のAグループのみなさんは、とってもたくさんのことを調べて壁新聞を作ってくれました。タイトルも「見たいな」と思わせる、良いタイトルですね。

地球温暖化の原因、温暖化が進んだらどんなことが起こるのか、温暖化防止のためのいろんな国の目標、そして私たちが今日からできる温暖化対策まで。地球温暖化問題の全体像が、この壁新聞でわかります。そうとう調べないとここまでの情報はまとめられないと思います。Aグループのみなさん、がんばりましたね！

特にステキだなと思ったのは、「会社だけでなく、世界中の国が、地球温暖化防止に向けて、二酸化炭素を減らす量を決めたり話し合っている」「地球温暖化は地球全体に影響する大きな問題だからこそ、みんなで使らを合わせて解決していくことが大切」と書いてくれている部分です。まさしくその通りです！

とっておきのゴシドウ★

みなさんが調べて書いてくれた「各国の温室効果ガス削減目標」を見ると、2030 年までの削減目標は、日本が一番低くなっています。これを見て、みなさんはどう思いましたか？

ちなみに、2015 年に世界中の国・地域の代表の人が集まり、フランスのパリで地球温暖化を防ぐための国際会議を開き、「パリ協定」という約束事を決めました。これには、2050 年から 2100 年までの間に「温室効果ガスを出す量を、実質ゼロにする」という内容が含まれています。今年の夏は、日本でも台風や豪雨の被害がたくさん起こりました。地球温暖化の影響は、遠い将来ではなく、すでにあちこちで起こっています。

「今日からできる！地球温暖化対策」の記事はとてもよくまとまっていると思います。一人ひとりが今すぐできることをしっかり実行して、それだけでなく、お家で使う冷蔵庫や車などを買換えるときには「エコな商品かな？」ということも、しっかりチェックできるといいですね。他にも、温室効果ガスを出さない太陽光発電や風力発電などが、日本でもたくさん増えていくといいですね。

2030 年は、ちょうどみなさんが大人になって社会で働きだしている頃ですね。それまでに今の大人である私たちが、目標よりも大幅に温室効果ガスを削減できるような社会にしていきたいと思ひますし、2030 年頃からは、大人になったみなさんと一緒に、さらに温暖化対策の進んだ社会にしていきたいと思ひています。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブBの新聞を書いたみなさんへ
吉野師範から一言！

『リサイクル』、『節水』、『節電』など、たくさんのことを調べてくれて、どうもありがとう。とくに良かったことは、①調べて現状や原因を『知る』、②解決方法やできることを考え『理解する』、③解決へ向けて『行動する』の三つがそろっていることです。そして、そのことを壁新聞にして、みんなに知らせる『情報発信』をしていることです。日頃のみなさんの活動の内容がよく分かりました。大変すばらしい活動をしてくれて、どうもありがとう。

陸上の生物が利用できる水の量を 0.01%と数字で書くだけではなく、それをお風呂の水にたとえて説明しています。人に分かりやすく説明して、知ってもらって、理解してもらって、節水の『行動してもらう』ことも大切ですよ。読んだ人が分かりやすい説明です。

また、一人当たりの電気使用量が多いことを知りました。「ぼくたちにできること」を考え、節電することが必要であると理解しました。使っていない部屋の電気を消すなど、具体的な行動が書いてあります。メンバーで相談したのかな、自分たちが行動すること、さらに、「みなさんも節電に取り組みましょう」と呼びかけていることがいいですね。気づいたことを教え合って、みんなで「きれいな地球」を目指してください。「節水が節電につながる」、むずかしいことに気が付きましたね。これも、『はなまる』です。



とっておきのゴシドウ★

みなさんががんばって活動している写真があります。いつ、何をしているところか、の説明があると、新聞を見てくれた人に、みなさんの「頑張り」がもっと伝わるように思います。頑張っているところも伝えることも大切な情報発信です。読んでくれた人もいっしょになって、行動してくれることはすばらしいことだよ。

これだけのたくさんの内容を決まった一つの紙面で伝えるのは大変です。これも伝えたい、あれも伝えたいとたくさんのことを書きたくなると思うのですが、たとえば、「屋久島の動物に問題が起きています！！」という内容にしぼると、そのテーマについてはもっと伝わりやすくなると思います。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブCの新聞を書いたみなさんへ
吉野師範から一言！

再生可能エネルギーについて、くわしく調べてくれて、どうもありがとう。円グラフで表現していることで、「再生可能エネルギーがどのくらいの割合なのか」がイメージしやすくなっています。風力発電や地熱発電についても、分かりやすくまとめています。わたしも教えてもらったことがありましたよ。

日本のエネルギー自給率は6%ということが分かりました。このことは、どういう意味があるのでしょうか。わたしたちは外国からたくさん助けてもらって、電気を作っていると考えることができますね。だから、ふり返りで「大切に使うことが重要」と感じたんですね。さあ、つぎは、大切にするために、具体的には何をしようか、どのように行動しようか、みんなで相談してみてください。むづかしくなくてもいいので、身のまわりで簡単にできることから始めてみましょう。

ぜひ、世界のエネルギー問題についても調べてください。世界の国と比べてどんなところが同じで、どんなところにどのようなちがいがあるのか、分かるといいですね。



とっておきのゴシドウ★

再生可能エネルギーだけでも、たくさんの中身がありましたね。これだけの量の中身を一つの紙面で伝えることは大変です。調べて、分かったことはみんなに教えてあげたいという気持ちはわかります。でも、どうしても伝えたいという内容にしぼると、そのテーマについてはもっと伝わりやすくなると思います。そして、最後に、だから「私たちはこのように行動します」という言葉があるのもいいですね。

世界中の人が、すべての生き物が、未来のこどもたちが住みよい地球を目指したいですね。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブ D の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
絶滅しそうな動物は、あまり身近ではなく難しいテーマだったと思いますが、いろいろ調べて、わかりやすく伝えてくれています。この新聞で絶滅危惧種の問題がよくわかります。
絶滅しそうな動物たちがいることから、なぜそうになってしまうのかを調べ、さらに自分たちにできることまでを考え、知らせてくれて素晴らしいです。絶滅危惧種は、私たちの生活とは、かけ離れた世界のように思われがちですが、この新聞を読んだ人たちにも、自分たちの生活とも関係していることが伝わり、絶滅しそうな動物たちを守るためにも自分たちの生活の中で気を付けることが広がっていくといいですね。
人間も自然の中の様々な生物のつながりの中で生きています。そのつながりが途絶えることが少しでも減るようにしていきたいですね。

とっておきのゴシドウ★
内容はよく調べてまとめてくれています。また、いろいろな色を使ったり、文字を囲んで強調するなど、工夫して作られています。イラストも小さく描いてくれています。絶滅しそうな動物のイラストをさらに大きく描くか、写真をはるなどして、目で見て興味を引くようにすると、もっとみんなの関心を高めるようになるかもしれません。さらに工夫して、みんなにアピールしてみてください。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブ E の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
水の中でも、特に水の汚れ(水質汚染)について調べてくれたのですね。
水の汚れについて、なんで汚れてしまうのか(原因)、汚れてしまったらどうなるのか(えいきょう)、汚れないようにするにはどうすればよいのか(対策)を整理してまとめられているので、とてもわかりやすいです。
また、クイズで興味を引くように工夫されています。最後に、自分たちの考えをまとめてくれたのは素晴らしいです。
よくながしているものとして、天ぷら油 30g、マヨネーズ 20g・・・の表は、何の重さなのでしょう？師範はわかりませんでした。説明があるといいなと思いました。
私たちの生活とは切りはなせない水は、どれだけ汚さないようにするのがだいじなことです。
水を汚さないということと、節水は、水を大切にすることでは一緒に、両方ともだいじなことです。でも、その原因やえいきょうなどの問題はそれぞれ違いますので、分けて考え、両方とも問題が起こらないようにできることを行い、みんなで水を大切にしましょう。



とっておきのゴシドウ★
発展として、私たちが使って汚してしまった水(生活排水)はどうなっているのか？
なども調べてみると、新しい気づきがあるかもしれません。
降った雨や溜まった水を、利用できるよう処理してじゃ口から出るようになり、それを私たちが利用し(汚し)、流し、処理されたりそのまま川や海へと流れ、蒸発して雲から雨へとめぐるといった水の循環を調べてみると、その中で水の汚れの問題が見えてくるかもしれません。日本では下水処理場で処理されている水も多いのですが、処理されていないでそのまま流されている水、処理場ですべてをきれいにできるのではないことなど問題はいろいろあります。
みなさんが調べてくれたように、水を大切に守っていきましょう！

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブFの新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言！
こちらは大崎小5年生のFグループのみなさんがまとめた壁新聞です。円グラフやイラストなどは、あまり関心がない人にも見てもらうための良い工夫ですね。記事のタイトルの文字が大きく書いてあるのも見やすくなっています。壁新聞全体の構成が良いですね。「地球温暖化の被害」と「これからの地球温暖化の予測」の記事で温暖化の影響について知ることができ、そのうえで「悪化の理由」と「防ぐ方法」で対策について知ることができる、という構成になっています。ポイントがしっかりと絞られて、全体がすっきりとしていますね。

とっておきのゴシドウ★
「地球温暖化のひ害」の記事で紹介してくれている円グラフがあります。これは地球温暖化の原因である二酸化炭素についての円グラフですので、下の記事の「地球温暖化、悪化の理由」で紹介しても分かりやすいかもしれませんね。
それから、地球温暖化の原因の一つは二酸化炭素であるということはしっかり書いてくれています。ぜひ「私たちの便利な生活のどこから二酸化炭素が出ているのか」ということもぜひ書いてほしいなと思いました。なぜなら、エネルギーを得るために石炭や石油などを燃やすときに二酸化炭素が出てくるということがわかれば、エネルギーの無駄づかいが良くないことが、さらに分かりやすくなると思います。壁新聞には車のことやエネルギーのことを書いてくれていますので、きっとみなさんはしっかり調べたけれど、たまたま書いていないだけなのじゃないかな？ 原因や、それがどこから出てくるのかが分かると、対策や防ぐ方法についてもわかりやすくなりますので、これからもぜひ意識してくださいね。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブ G の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
ごみのポイ捨てについて、興味深いデータがグラフや表で示され、すっきりとわかりやすい新聞になっています。よく工夫されています。
最後のクイズで、読んだ人が理解しているかをまとめているのも工夫されていると思いました。
吸いがらのポイ捨てが、平成 16 年から比べて、平成 28 年がとんでも減っています。これは、ピカレンジャーでみなさんがごみ拾いをした結果の数ですか？それだったらとってもすごいことです。ちがうとしても、子どもたちがごみ拾いをしているようを見ると大人たちはごみをポイ捨てできなくなるでしょう。みなさんの活動が町の環境を良くすることにも役立っていて、すばらしいです。
ポイ捨てをゼロにすることは、とってもむずかしいことですが、みなさんの力で、新聞のタイトルのような「ポイ捨て禁止」に近づいていってください。期待しています。

とっておきのゴシドウ★
ポスター・かんぱん・のぼりを見る？見ない？はとても面白いアンケート結果です。これは、誰におこったアンケートでしょう？何人から回答があったアンケートでしょう？とっても気になっています。どのようなアンケートのグラフかの説明もぜひ書いて、教えてください。気になるごみの人数もどのようなアンケートであったかも教えてくださいね。
これは子どもたちのアンケート結果であれば、町役場の人にもぜひお伝えしてみてください。ポスター・かんぱんがあまり見られていないなら、見られるような工夫を町役場の人にしたいだったり、子どもたちからこんなかんぱんがいいと、ていあんしてもいいかもしれません。子どもたちの力で町の大人たちに協力いただき、町のポイ捨てをなくすよう町を変えていってください。



鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブHの新聞を書いたみなさんへ
吉野師範から一言！
「空気」、「水」、「食べ物」、人間ばかりではなく、すべての生き物にとって大切なもので
すよね。自分たちが取り組むテーマをはっきりさせて、上手に表現しています。一番いい
ところは、調べた結果、自分たちはどのように行動するのか、何をするかを具体的にイ
ラスト入りで書いているところです。みなさんの気持ちがよく伝わります。
「ごみを家で燃やさない」、「ごみを減らす」、「電気を節約する」、「油を流さない」。むっ
かしいことではなく、毎日の生活の中で頑張れることが書いてあります。ぜひ、長続きさ
せてください。そして、おうちの人も巻き込んで、いっしょに活動してください。
昔は、環境問題＝公害問題でした。公害問題は、原因となる工場と被害を受けた人が
はっきりしていました。その後の環境問題は、自動車による大気汚染、生活排水による
水質汚濁、廃棄物の増大などの問題が発生しました。それは、わたしたちが便利さを求
める生活が原因のひとつでもありました。みんなが被害者でも加害者でもあるという問
題です。今は、地球温暖化など、地球規模の環境問題です。特定の地域ではなく 地球
全体に影響がおよぶもので、だれもが加害者にも被害者にもなってしまいます。でも、
それは自分たちで解決できる問題でもあります。みなさんは、すでに大切なことに気が
付いています。地球のために、新聞に書いてくれた(身のまわりで今できる)ことを続け
てください。



とっておきのゴシンドウ★
みなさんが活動している写真をいれると、活動している様子が読んでくれた人にも、もっとよく伝わります。調べた内容といっ
しょに苦労したことも書くといいですね。がんばっている姿をまわりの人にも見てもらいましょう。そして、読んでくれた人
にもなかまになってもらって、みんなで行動して、地球規模の環境問題を解決していきましょう。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブIの新聞を書いたみなさんへ
吉野師範から一言！
水(川や海)を汚さない工夫がイラスト入りでたくさん書いてあります。大変分かり
やすくまとめています。「自分にできることは精一杯しよう」というみなさんの思いが
伝わってきます。
イラストに描いてくれているように、ごみで海の生きものに影響が出ています。大変
くわしく調べていますね。ポイ捨てのごみは風や雨などで川に入ることがあります。
このようにして、ごみが海に流れて海の生き物は困っています。たとえば、コンビニ
でもらう袋はウミガメがえさのクラゲとまちがって食べることがあります。ごみが、胃
などの消化器にたまり続け、エサを食べることができなくなり、死んでしまう場合も
あります。海に住む生き物を守るためにも、ごみを持ち帰る町、ごみを落とさない
町、落ちているごみを拾う町になるといいですね。これなら、みんなが今日から実
行できるよね。
環境問題は、むづかしいことをするのではなく、一人ひとりができることから始める
ことでずいぶんとよくなります。みなさんも、おうちのひと、町のひと、みんなで
地球をよくしましょう。



とっておきのゴシンドウ★
「水をよごさない」ため、「ごみを減らす」ためのイラストは、することが具体的に書
いてあってたいへんわかりやすいです。「省エネ・節電に心がける」も同じだね。そ
のため何をするのか、例をあげてさらに、くわしく書いてあると分かりやすいですね。
読んだ人も、これなら私にもできると思ってくれるかもしれません。
限られた紙面ですので、もっとたくさんのことを伝えたいのに、書ききれなかっ
たのでしょう。あとは、みんなが行動してくれると新聞にかけなくても周りの人たちが
活動しているみなさんを見て、協力してくれると思います。がんばりましょう。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブ J の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
ごみのポイ捨てについて、円グラフ、棒グラフなどを使って書かれていてとっても興味が引かれる新聞になりました。ポイ捨ての状況を表やグラフにして、なくすにはどうしたらよいかの取り組みを聞き、自分たちでがんばることを書いているのもすばらしいです。
たばこ、カン、ビン、ペットボトルの表は、自分たちで拾った数ですか？きちんと数を調査しています。そして、ごみがとってもいっぱいあることにびっくりします。ごみ拾いをするときには、このようにどんなものがどのくらいあるかを調べると、いろいろなことがわかってきます。季節によるちがいがいるのかな？天気によるちがいがいるのかな？おまつりなどのイベントとは関係ないのかな？など、ポイ捨てごみが多くなってしまいう原因がわかってくるかもしれませんね。原因がわかってくると、ポイ捨てを減らすことに役立つでしょう。
まとめて書いているように、努力とあきらめない気持ちが大切というのは、いいことに気づきました。自分たちがポイ捨てしているのではないでしょうから何を努力するのかな？ごみは、自分たちで拾うだけではなかなか無くならないので、「町の人に声をかけたり努力したり」とも書いているように、ぜひ町の大人の人もに伝えて、ポイ捨てがなくなるような運動を広めていってください。期待しています。



とっておきのゴシンドウ★
「ポイ捨てをなくす取り組みはどうすればよいのか」のグラフは誰におこなったアンケートでしょう？何人から回答があったアンケートでしょう？「ポイ捨てされているものが多い物のグラフ」は、どこの地域でのどんな調査だったのでしょうか？グラフでわかりやすく紹介してくれていますが、両方ともとっても気に入っています。どのようなグラフであるかの説明もぜひ書いて、教えてください。
グラフや表を使ったり、クイズなど工夫されて作られています。[ごみの現状][「ポイ捨てを無くすには」]などの大見出しをつけ、その中にさらに[学校のまわり？では]、[町？では]、[国では]、など小見出しをつけて整理するとさらに見やすくなるでしょう。がんばってみてください。

鹿児島県大崎町 大崎 5 年エコクラブ
壁新聞のタイトル:E:みんなが知ってる水は？新聞

大崎小 5 年エコクラブ K の新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言！
大崎小5年生のKグループのみなさんが作ってくれた壁新聞です。タイトルに「なくそう！」という呼びかけメッセージが込められていて良いですね！ また、壁新聞全体もとても見やすく、ていねいに書かれていますね。
地球温暖化の原因について、二酸化炭素だけでなくメタンなどがあることも書いてくれています。日本の現状の記事で書いてくれている地球のイラストも、とても分かりやすく、細かいところまで調べられています。
それから、地球温暖化を防ぐためにとても大切な「今世紀後半に温室効果ガスの実質排出ゼロを目指す！」ということについてもしっかりと書かれていて、とっても良いですね。



とっておきのゴシンドウ★
「温暖化が原因で影きょうを受けている動物たち」の記事があることで、多くの生き物に影きょうがあることがわかりますね。また、温暖化が進むとどんなことになるのかについてもまとめてくれています。人間にも大きな影きょうがあります。日本でも、台風や大雨の被害が増えたり、食べ物の量が減ったり、南の国で流行しているような病気が増えるのではないかとされています。「日本に住んでいる私たちにも影きょうがある」ということも書いてあると、壁新聞を読む人に、しんけん「温暖化をなくさなくちゃ」と思ってもらえそうですね。
わたしたちにできることに、ごみを出さないことや、レジ袋をもらわないことなどを書いてくれています。自分にできる事をやろうという呼びかけは、とても大切です。それと一緒に、日本がこんな風になったらいいなことについても考えてみてください。「今世紀後半に温室効果ガスの実質排出ゼロを目指す！」ためには、温室効果ガスを出さない太陽光発電や風力発電など「自然エネルギー(再生可能エネルギー)」を増やすことも大切になってきます。「今すぐできること」と「将来していきたいこと」をセットで考えてみてくださいね。

もとぶ元気村こどもエコクラブさんへ
師範から一言！

“風”という1つのテーマについて、いろいろなことが書いてあり、
楽しく読ませてもらいました。

感想にもありましたが、台風のデメリットだけでなくメリットもま
めてくれたことがとても新鮮(しんせん)です。台風が通過した地
域には、雨によって水がたくさん供給(きょうきゅう)されるので、
水不足であればメリットになりますし、逆の場合はデメリットにな
りますね。デメリットは人の暮らしに関わるが多いのに対して、
メリットの多くは、海の水温であったり、酸素の量であったりと
海の生態系にかかわることが多いことが分かります。沖縄には
サンゴが多く、サンゴは光合成する植物と共生しているので、生
態系で大切な役割をはたしています。サンゴと海的环境につい
ていろいろ調べてみると、それだけでも新聞ができてしまいそう
です。

沖縄の地形と風の関係がわかりやすく説明されていますね。海風による塩分の影響は本州の海沿いの地域でも同じで、鉄が
サビやすいだけでなく、植物が枯れてしまうこともあります。沖縄に自生している植物は海風に強い種類が多そうですね。

とっておきのゴシンドウ★

「水辺の安全教室」についても書いてくれました。自然に関わる活動をするときには、最初に危険なものを知ること、その安全対
策を学ぶことがとても大切です。水辺にはどんな危険な生きものがあるかも調べて、木陰(こかげ)の少ない海辺では熱中症にも
気をつけて活動をしてください。

風力発電には陸地ではなく洋上につくるものもあります。風力以外の再生可能エネルギーも色々ありますが、それぞれメリットと
デメリットがあります。エネルギーの問題は国によっても人によっても色々な考えがありますので、みなさんも考えてみてくだ
い。



OMRC こどもエコクラブさんへ
師範から一言！

「移動水族館」のタイトルと、たくさんの海の生きもののイラストが目をひく新聞です。
イラストは魚のヒレの形まで、ていねいにかかれていて感心します。つかまえた魚を
見ながら、あるいは図かんを見ながら、イラストをかくことで色や形などの生きものの
とくちょうに気づくことができたと思います。移動水族館の魚たちは真栄田岬のどん
なところにいましたか？水の浅いところ／深いところ、あるいは岩のすきまなど、生き
ものによって異なるところにいたと思うので、移動水族館の水そうのレイアウトも工夫
(くふう)して楽しんでください。

生きものを大切にするには、まず生きもののことを知る必要があるので、移動水族
館の活動は、あまり海に行く機会がない人にも海の生きものを知ってもらうことがで
きますね。新聞にこどもたちのようすを「感触をたのしんだり初めて見る生き物におど
ろいたり」と書いてくれました。触れあうことができるのは、とてもよいことです。見た
だけでは分からない“ザラザラ、ヌルヌル、チクチク”といった色々な発見につながり
ます。私が森の中で観察会をするときも、五感を使うことを心がけていて、昆虫や木
の葉を見たり、触れたり、においをかいだり、鳥の声をきいたりしています。

とっておきのゴシンドウ★

生きものを知ってもらうために、生きものクイズや神経衰弱のように楽しいアクティビティを取り入れているのは、とてもよい工夫
です。どんなクイズなのか、どのような神経衰弱なのか興味(きょうみ)があるので、きかいがあれば教えてください。
私が自然観察をしてもらうときは、生きものの名前は言わないことが多くあります。生きもののとくちょうをじっくりと見てから「名
前はどれでしょう？」というクイズも考えられます。生きものを知ることによって、その生きものや住んでいる海を大切にしようと
いう心が育つと思いますのでこれからも続けてください。



西表ヤマネコクラブさんへ
師範から一言！

西表ヤマネコクラブ結成 20 周年、おめでとうございます。平成 9 年 5 月に結成して 20 年になるのですね。たくさんのメンバーが巣立って行って、西表ヤマネコクラブでの経験を活かして、社会で、学校で、いろいろな所で活躍しているのですね。すばらしいな。西表山猫新聞は、毎年読んでいます。毎年、すばらしい新聞だなーと感心しています。今年もすばらしい新聞をありがとう。

何がすばしいか？一つにはメンバーのみんなが自ら書いていることです。当たり前だよ！と言うかも知れませんが、意外と自分たちの手で書いているのはめずらしいんだよ。これだけの新聞記事を書くのは、とても大変だよ。

二つ目は、字だけでなく写真や絵を描いて、自分たちの活動を視覚化していることです。そうすると活動がとても分かりやすくなり、読む人にとってありがたいです。

三つ目は、黒一色ではなく、いろいろな色を使ってアクセントをつけていることです。特に注目して欲しいところは、大きな字で、かつ色つきの字で書いていて、読む人に目を向けさせる効果がありますね。

四つ目が一番評価出来ることです。それは、何をやったか？行動したか？だけでなく、その結果の報告と共に自分たちで考えたことや感じたこと、どうしてそうなったのかを書いていることです。自分たちは一生懸命やったのだと、やったことだけを書いてくる新聞も多いのですが、西表山猫新聞のすばらしさは、結果の報告だけでなく、自分たちで考えたことを書いてあるのが、とてもすばらしいです。このような新聞作りは、後輩たちにひきついで、西表山猫新聞の伝統にすると良いと思います。

20 周年記念で今年は、さまざまな行事に取り組みました。その一つが西表島とやんばるが来年同時に世界遺産に登録されるだろうということで、世界遺産に登録されるとどんな良いこと困ったことがあるのでは？と考えてみました。そしてやんばるをもっと良く知ろうと自然観察をして、やんばると西表島の似ていることと違っていることをまとめました。良く観察してまとめたなーと感心しました。世界遺産に登録されると、関心を持ってくれる人が増えて良いですねー。でも観光客が増えてごみが増えたり、木々や花を切ったりという困ったことが心配ですね。ガイドをする人に注意してもらうように良く頼みましょう。



以前の新聞にも取り上げられていましたが、西表ヤマネコが交通事故にあうことが増えるのもとても心配ですね。標識を立てることと車を運転する人に十分注意するように言うしかないのですかね。ヤマネコに車に注意しろと言っても無理ですからね^^ 二十周年記念行事も行いました。浦内川自然観察ツアーをメンバーのみんながガイドをしたことはとても良いことです。ガイドをすることになると一生懸命勉強したと思います。勉強してみると気が付かなかったことや知らなかったことなど新しい発見があったと思います。意外と知っているとと思っていた西表島の事は、まだまだ知らないことがたくさんあるのだと目を覚まされただろうと思います。ますます西表島を大事にしなければいけないなーと再発見したと思います。ヤンバルクイナとイリオモテヤマネコは沖縄県の固有種であります。しかし、絶滅が危惧される生き物になっています。みんなで見守り、絶滅しないようにしましょう。

とっておきのゴシンドウ★

ホテル観察も毎年やっている活動ですね。今年は、エサのカタツムリを食べるか、実験をやってみたのですね。人が言っていることが本当か？を自分たちで調べることはとても大事な活動だと思います。今回はアカホテルモドキは「西表島」にはいないと専門家が言っているが本当だろうか？ということで、アカホテルモドキの幼虫とカタツムリを一緒にしてカタツムリを食べるか実験をしました。今回は食べなかったの、「西表島」にいないのは本当だろうか？専門家のいうことだから、正しいとは思わずにしっかりと実験で確かめて下さい。

実は私の庭にはシジュウカラがエサのひまわりを食べに来ます。そこで庭の端の離れた 2 か所に巣箱を置いたら、両方にシジュウカラが入って、たまごを産み、ヒナがかえりました。専門家は、シジュウカラの縄張りは 100m なので家の庭の様な狭いところには、両方が巣をつくることはない！と断言していました。しかし、実際は 2 年間 2 か所の巣に入ってヒナを育てました。専門家の言うこともあてにならないなーと思っています。みなさんも専門家の言うことをうのみにせず、自分たちの目で確かめるようにすると良いと思います。がんばってください。

水質調査で COD の値に疑問を持っているようですが、説明書をしっかりと読みましたか？水を吸い込んでからある時間(温度によって 4 分～6 分)をおいて、着色状態で数値を出すように書いてありますね。それをちゃんと守っていますか？COD の色は時間と共に変化するので、判定する時間はちゃんと守ってやらないと、くるってしまいます。それに指などを水に入れてしまうと COD の値は高くなってしまいます。パックテストでは、指を水に入れてしまうことがよくあるようです。